



令和元年度  
グローバル人材の育成に向けた  
ESDの推進事業

信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

# 信州ESDコンソーシアム 成果報告書2018



国立大学法人  
信州大学

## ごあいさつ

長野県はユネスコエコパーク“志賀高原”・“南アルプス”をはじめとした豊かな自然に恵まれ、学校現場では教員のみならず地域のさまざまな組織が主体となって、環境教育の取り組みが盛んに行われています。

信州大学教育学部においても、全学で取り組む「環境マインドをもつ人材育成」の理念のもと、信州の素晴らしい自然に触れ合う授業を通して、子どもに自然環境の重要性を伝えられる人間性豊かな教員の育成に努めております。

こうした中、わたしたちは長野県内に広がりつつあるユネスコスクールのさらなる拡大と、ESDの普及に向け、平成28年2月に「信州ESDコンソーシアム」を立ち上げ、活動を進めてまいりました。

ESD (Education for Sustainable Development) は、環境・貧困・人権・平和・開発といったさまざまな地球規模の課題がある現在において、地球に存在する人間を含めた命ある生物が、遠い未来までその営みを続けていくことができるよう、「持続可能な社会づくり」の担い手を育む教育です。

2015年9月の国連サミットにおいて、この「持続可能な社会づくり」に向けた国際目標である「持続可能な開発目標 (SDGs)」が定められ、世界で様々な取り組みが動き出しました。長野県は昨年6月にSDGs達成に向けて優れた取組を提案する「SDGs未来都市」に選定され、この6月には新たなユネスコエコパーク“甲武信”の登録が決定するなど、今こそ、ESDを通じた持続可能な社会づくりの担い手育成が求められる時代なのです。

平成から令和へ、「信州ESDコンソーシアム」は、ユネスコスクールや地域のさまざまな組織、そして先行する他地域のコンソーシアムとの連携も進めながら、より大きく羽ばたこうとしております。

わたしたちの3年目の活動をまとめたこの成果報告書が、今後の長野県をはじめとする我が国のESD推進の一助となれば幸いです。

令和元年8月

信州大学教育学部長  
宮崎 樹夫



# 目次

ごあいさつ 信州大学教育学部長 宮崎 樹夫 1

## I 信州 ESD コンソーシアムの概要

信州ESDコンソーシアムの概要	4
信州ESDコンソーシアム規約	6
構成団体名簿	8
役員名簿	9
信州ESDコンソーシアム事業実績	10

## II 通常総会

式次第	14
当日の様子	16
基調講演: 及川幸彦氏(東京大学)	17
参加者&議事概要	20

## III 成果発表 & 交流会

チラシ	26
1月26日松本会場写真	27
<成果発表>	
1 茅野市立永明小学校	29
2 学校法人いっぴな学園グリーン・ヒルズ小学校	31
3 信州大学教育学部附属松本中学校	35
4 信州大学松本キャンパス環境学生委員会	37
5 Faculty of Education, National University of Laos ラオス国立大学教育学部	39
<ワークショップ>	
1 愛知県あま市立甚目寺小学校	41
2 岡崎市立新香山中学校	46
3 名古屋市立名東高等学校	49
2月2日長野会場写真	52
<成果発表>	
9 高山村立高山小学校	54
10 山ノ内町立東小学校	55
11 山ノ内町立南小学校	56
12 高山村立高山中学校	57
13 山ノ内町立山ノ内中学校	58
14 山ノ内町立西小学校	60
15 長野市立東条小学校	63
16 信州大学教育学部附属長野小学校	66
17 長野県長野西高等学校	67
18 文化学園長野中学・高等学校	69

## IV ユネスコスクール全国大会参加

展示ポスター	72
<参加報告書>	
1 茅野市立永明小学校	74
2 高山村立高山小学校	76
3 山ノ内町立東小学校	77
4 山ノ内町立山ノ内中学校	78
5 信州大学教育学部附属長野中学校	79
6 長野県中野西高等学校	80
7 長野県長野西高等学校	82
8 文化学園長野中学・高等学校	83
9 諏訪ユネスコ協会	84

## V 長野県内のユネスコスクール年次報告

1 信州大学教育学部附属幼稚園	86
2 茅野市立永明小学校	87
3 高山村立高山小学校	88
4 山ノ内町立東小学校	89
5 山ノ内町立西小学校	90
6 山ノ内町立南小学校	91
7 信州大学教育学部附属長野小学校	92
8 信州大学教育学部附属松本小学校	93
9 高山村立高山中学校	94
10 山ノ内町立山ノ内中学校	95
11 信州大学教育学部附属長野中学校	96
12 信州大学教育学部附属松本中学校	97
13 長野県中野西高等学校	98
14 長野県長野西高等学校	99
15 文化学園長野中学・高等学校	100

## VI ESD 通信

No.13	102
No.14	103
No.15	104
No.16	105
No.17	106
No.18	108
No.19	109
No.20	110
No.21	111
No.22	113
No.23	115
No.24	117

# I

## 信州 ESD コンソーシアムの概要

## 信州 ESD コンソーシアムの概要

### 1 背景と課題

ESD の理念の一つである環境教育の分野において、信州大学教育学部は全国の教員養成系学部単独では初となる ISO14001 の認証取得を受けた。そして学部での環境教育の授業の必修化に取り組み、1 年生全員が環境監査資格を取得する等、環境マインドを身につけ、環境教育を指導できる卒業生を長野県内の教育現場に送り出してきた。

また、長野県はユネスコエコパーク「志賀高原」・「南アルプス」を抱え、豊かな生物多様性を有する日本でも稀な恵まれた自然環境の中にある。こうした立地から、県内の環境保護に対する意識は高く、行政のみならず、企業や NPO 法人等において様々な取組が恒常的に行われている。

こうした背景があるものの、ESD の推進拠点と位置付けられたユネスコスクールは県内に浸透しておらず、平成 29 年 10 月 1 日現在でユネスコスクール加盟校は 11 校（高校 2 校・中学校 3 校・小学校 5 校、一貫校等 1 校）に止まっている。この要因として、学校現場の教員による ESD の実践や情報提供および研修の機会の不足、さらには、ESD に携わる人材と触れる機会が不足していることが考えられる。また、ユネスコエコパークとの連携が不十分で、学校教育と企業や地域のユネスコ協会や NPO 法人等とが個別的に活動している。

こうした現状から、コンソーシアムの形成を通じ、長野県内の優れた取組と学校現場とを橋渡しし、教員養成と連携する仕組みの構築が求められている。

### 2 目的

信州大学教育学部を核としたコンソーシアムを設立し、長野県全域への ESD 活動の普及と定着を最終的な目的とする。コンソーシアムでは、ユネスコスクールとユネスコエコパークの活動を連携させながら、長野県の地理的特性を活かした ESD 活動として国際的にも提唱していくことを目指す。

コンソーシアムの立ち上げに当たる本事業期間においては、スムーズで実効性のある連携体制構築のため、本学部が核となって、長野県内で既に実績がある環境教育をはじめとする ESD 活動の情報を共有し、相互交流のコーディネートを進め、大学、地域のユネスコ協会、NPO 法人等が持つ知識・ノウハウ・人材と学校現場との連携を進める。同時に、ユネスコエコパーク「志賀高原」にある本学部附属志賀自然教育研究施設を中心に、ユネスコエコパークに関わる行政、企業、NPO 法人等との情報共有・連携を進め、ユネスコスクールとユネスコエコパークの活動の連携を図るコンソーシアムへと展開をしていく。

### 3 3 年間の事業構想

#### (1) 国内外のユネスコスクールとの交流

初年度は、既存のユネスコスクール同士での交流を目的として、成果発表&交流会を開催した。

また、ユネスコスクール全国大会への県内複数校の参加と、そこを通じた県外ユネスコスクールとの交流のきっかけ作りをおこなった。

また、コンソーシアムに参加する各 NPO 法人及び一般社団法人長野県環境保全協会は、各学校における ESD 研修会の講師派遣や教材の貸出といった人的・物的な支援に加え、イベント企画を通じた実践発表や交流の場の提供や、優良実践事例の顕彰や報道を通じた広報活動といった様々な形で、ユネスコスクールとの交流をおこなった。信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設では、他のユネスコエコパークにおけるユネスコスクールとの交流や、ESD 活動に関する検討・調整をおこなった。

2 年目は、引き続き県内のユネスコスクール間の交流活動を進めるとともに、ユネスコエコパーク地域を含む県外の学校との交流も見据え、他地域との意見交換をおこなった。また、フランスのユネスコ本部関係者による県内ユネスコスクール視察をコーディネートした。

他のコンソーシアムメンバーは、前年度に続きユネスコスクールの活動支援を実施していくとともに、主に大学が主体となって、小・中・高を繋ぐ ESD カレンダーなど独自の環境教育プログラムの構築に向けた検討・調整をおこなった。また、コンソーシアム間（三重、北陸、東北、大牟田等）の連携によって国内外のユネスコスクールとの交流を推進した。

3 年目は 2 年目までの取り組みを継続するとともに、複数のコンソーシアムとの連携によって海外のユネスコスクールとの交流を検討し、長野県の環境教育をはじめとした取組を国際的に発信する。また、学内制度を活用した海外ユネスコスクール等の視察について検討を行う。

#### (2) ユネスコスクール以外の学校での ESD 活動の実施

初年度は、信州大学教育学部と山ノ内町教育委員会、長野県教育委員会が中心となり、信州大学教育学部附属学校園、山ノ内町立学校、長野西高等学校をはじめとする県立高校の ESD 活動支援やユネスコスクール加盟支援を実施した。

また、信州大学教育学部が中心となって、現場の教員向けに ESD 研修会を開催し、ユネスコスクール加盟校における実践事例を広く紹介するとともに、加盟校拡大に向けたネットワーク作りをおこなった。

2 年目以降は、長野県内全域への ESD 活動の普及とユネスコスクール登録校の更なる拡大を目指し、前年度の ESD 研修会で築いたネットワークをきっかけとして、複数の学校の ESD 活動支援とユネスコスクール加盟支援を実施した。また、ESD 研修会も継続的に開催し、その中では加盟校における実践を積極的に紹介していく。さらに、ユネスコスクールおよびそれ以外の学校等において、担当教員のみならず学校教員全体の ESD に対する理解の促進と意識の醸成を図るため、中部地方 ESD 活動支援センター等とも連携しながら、一般教員向けの出前研修会を複数回開催した。また、長野県教育委員会をはじめとして、県や市町村教育委員会との意見交換を複数回実施した。

3 年目は、このような活動を長野県全域に広めるため、長野県関係機関や各地区のユネスコ協会との連携のもと、コーディネーターを各地に新規配置し ESD の普及啓発をおこなうとともに、県内各地の学校へ普及する体制を整備する。

#### (3) 社会教育施設、青少年教育施設等との連携

信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設（博物館相当施設）は、全国で唯一ユネスコエコパークの核心地域に隣接して立地するユニークな研究施設であり、志賀高原ユネスコエコパークにおいて学術的研究支援機能を中核的に担っている。

対象地域のなかにあるレジデント型研究機関としての特性を活かし、ESD の実践と支援を 3 年間継続的に実施する。その際、内容に人と自然との共生という視点を持たせ、ユネスコエコパークを活用した ESD のモデル構築を目指す。

また、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟や長野県内にある各地域のユネスコ協会、一般社団法人長野県環境保全協会およびその 7 支部と連携をはかり、学校のみならず社会教育の場においても ESD の推進をめざし、県内におけるユネスコスクールの拡大にもつなげていく。初年度は、長野県内のユネスコ協会に対して ESD コンソーシアム事業に関する理解促進と協力体制の構築を進めた。2 年目は、社会教育主事講習を通じて長野、新潟両県の教育関係者に ESD の普及を図るとともに、長野県教育委員会の文化財・生涯学習課をはじめとする社会教育関係機関との打合せを実施するとともに、近隣公民館との共同事業を試行した。

3 年目は、各ユネスコ協会の物的資源や人的資源を活かしてユネスコスクールをサポートするとともに、公民館等で活躍する社会教育関係者への ESD の普及をおこなう。

さらに、また、3 年間を通して、長野ユネスコ協会青年部や、国際ユース環境会議等の ESD 活動に取り組む多様なユースを対象としたワークショップを開催し、ユースによる ESD プラットフォームの構築に寄与する。

#### (4) コンソーシアムの活動で得られた成果を地域の内外で共有するための「成果発表会」

長野県全域への ESD の普及に向け、長野県教育委員会と協働しながら活動を進めていく。具体的には、NPO 法人みどりの市民、一般社団法人長野県環境保全協会といったコンソーシアムメンバーが企画・実施する各種イベントへの後援や、信州大学が企画・実施する ESD 研修会への助言といった形での連携をおこなう。

#### (5) 都道府県教育委員会との連携

初年度はコンソーシアムの立ち上げのための準備を始め、2 月に設立総会と各学校現場等での ESD の取り組みを報告する成果発表&交流会を開催した。

成果発表&交流会は、2 年目以降も定期的に開催する。各学校での ESD 活動の目標となる発表の機会を定期的に提供することにより、学校現場での ESD 実践を促進するとともに、関係者の交流を促進する。成果発表会にはユネスコスクールだけでなく、信州大学教育学部がこれまで防災教育や国際理解といった ESD 関連分野で培ってきた県内の教員や学校とのネットワークを活かし、ユネスコスクール以外の学校にも広く参加を呼びかける。

この活動を通じて ESD の普及を図るとともに、それをきっかけとしたユネスコスクールの登録拡大を目指す。また、活動事例は一般の学校等においても有意義であり、成果報告書として広く配布、活用する。

## 信州 ESD コンソーシアム規約

### 第1章 総則

(名称)

第1条 この団体は、信州 ESD コンソーシアム（以下「本団体」という。）と称する。

(事務局)

第2条 本団体の事務局は、信州大学教育学部内に置くものとする。

(目的)

第3条 本団体は、様々なESD関係者が協力して長野県を中心としたESDを推進することを目的とする。

(活動)

第4条 本団体は、前条の目的を達成するために次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) ユネスコスクールをはじめとする教育機関でのESDの推進と国内外のESD推進校との交流促進
- (2) 公民館、図書館をはじめとする社会教育施設、青少年教育施設を通じた社会教育におけるESDの推進
- (3) ウェブサイトや成果報告会等を通じたESD関連情報の共有
- (4) ESDに関するマルチステークホルダーの対話の場の構築
- (5) 企業、NGOを含む様々なステークホルダー間の協働の機会創出
- (6) その他本団体の目的を達成するために有益と考えられる活動

### 第2章 会員

(会員)

第5条 本団体の会員は、第3条の目的に賛同して入会する各種団体、教育関係機関及び任意団体（以下「団体等」という。）とする。

(入会及び退会)

第6条 入会を希望する団体等は、所定の入会申込書を事務局に提出しなければならない。

2 団体等の入会は、会長が許可する。

3 退会を希望する会員は、所定の退会申込書を事務局に提出し、任意に退会することができる。

(会費)

第7条 本団体の会費は、当面徴収しないものとする。

### 第3章 役員

(役員)

第8条 本団体に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名以上3名以内
- (3) 運営委員 会長が必要と認める定数

(役員の実務)

第9条 役員は、役員会を構成し、本団体の業務の執行を決定する。

2 会長は、本団体を統括し、本会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。

4 運営委員は、運営委員会を構成し、本団体の業務を執行する。

(役員の実任)

第10条 会長は、信州大学教育学部の長とする。

2 副会長は、運営委員の中から会長が選任する。

3 運営委員は、会長が指名し、総会において承認する。

(役員の実任)

第11条 役員の実任は2年とする。ただし、再任を妨げない。

### 第4章 会議

(会議の種類)

第12条 本団体の会議は、総会及び運営委員会とする。

(総会)

第13条 総会は、会員をもって構成する。

2 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

(総会の権能)

第14条 総会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 規約の決定及び変更
- (2) 事業計画の承認
- (3) 事業報告の承認
- (4) 役員の実任
- (5) その他本団体の運営に関する重要事項

(総会の開催)

第15条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認め、招集の請求をしたとき。
- (2) 会員総数の3分の1以上から会議の目的を記載した書面又は電子メールにより招集の請求があったとき。

(総会の招集)

第16条 総会は、会長が招集する。

2 総会を招集する場合には、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電子メールにより、開催の日の少なくとも5日前までに会員に通知し、あるいはウェブサイト上で公表しなければならない。

(総会の議長)

第17条 総会の議長は、その総会に出席した役員の中から会長がこれを指名する。

(総会の議決)

第18条 総会の議事は、別段の定めがある場合を除き、出席した会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(運営委員会)

第19条 運営委員会は、運営委員をもって構成する。

2 運営委員会に委員長1名及び副委員長1名を置く。

(運営委員会の権能)

第20条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 事業計画の立案と変更
- (2) 事務局の組織及び運営に関する事項
- (3) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (4) 総会に付議すべき事項
- (5) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(運営委員会の開催)

第21条 運営委員会は、会長又は委員長が必要と認めた場合に開催する。

### 第5章 ESDコーディネーター

(ESDコーディネーター)

第22条 本団体に、ESDコーディネーター若干名を置く。

2 ESDコーディネーターは、本団体の目的を達成するために、長野県を中心としたESDの推進を支援する。

3 ESDコーディネーターは、長野県を中心としたESD活動に習熟した識者の中から、会長が指名する。

4 ESDコーディネーターの任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

### 第6章 雑則

(雑則)

第23条 この規約に定めるもののほか、本団体の運営に必要な事項は別に定める。

附 則

この規約は、平成29年2月18日から施行する。

## 平成30年度 信州ESDコンソーシアム構成団体名簿

平成31年3月31日現在

No.	団体名	コンソーシアム区分
1	信州大学	大学/代表団体
2	高山村教育委員会	教育委員会
3	山ノ内町教育委員会	教育委員会
4	信州大学教育学部附属幼稚園	ユネスコスクール
5	茅野市立永明小学校	ユネスコスクール
6	高山村立高山小学校	ユネスコスクール
7	山ノ内町立東小学校	ユネスコスクール
8	山ノ内町立西小学校	ユネスコスクール
9	山ノ内町立南小学校	ユネスコスクール
10	長野市立東条小学校	ユネスコスクール
11	信州大学教育学部附属長野小学校	ユネスコスクール
12	いいづな学園 グリーン・ヒルズ小学校	ユネスコスクール
13	信州大学教育学部附属松本小学校	ユネスコスクール
14	高山村立高山中学校	ユネスコスクール
15	山ノ内町立山ノ内中学校	ユネスコスクール
16	信州大学教育学部附属長野中学校	ユネスコスクール
17	信州大学教育学部附属松本中学校	ユネスコスクール
18	長野県中野西高等学校	ユネスコスクール
19	長野県長野西高等学校	ユネスコスクール
20	文化学園長野中学・高等学校	ユネスコスクール
21	信州大学教育学部附属特別支援学校	ユネスコスクール
22	NPO法人みどりの市民	地域団体
23	NPO法人やまぼうし自然学校	地域団体
24	特定非営利活動法人長野県NPOセンター	地域団体
25	長野市立長沼公民館（長沼りんごホール）	地域団体
26	信更の学校を考える会	地域団体
27	一般社団法人長野県環境保全協会	地域団体
28	長野県ユネスコ連絡協議会	地域団体
29	長野ユネスコ協会	地域団体
30	上田ユネスコ協会	地域団体
31	松本ユネスコ協会	地域団体
32	諏訪ユネスコ協会	地域団体
33	飯田ユネスコ協会	地域団体
34	木曾ユネスコ協会	地域団体
35	直富商事(株)	地域団体
36	(株)ミールケア	地域団体
37	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	支援機関
38	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	支援機関
39	環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）	支援機関

※区分「ユネスコスクール」には、申請中または申請検討中を含む

## 平成30年度 信州ESDコンソーシアム役員名簿

職名	氏名	所属	職名	備考
会長	永松 裕希	信州大学教育学部	学部長	
副会長	柴草 隆	山ノ内町教育委員会	教育長	
副会長	宮島 和雄	一般社団法人 長野県環境保全協会	専務理事	
副会長	中野 清史	長野県ユネスコ連絡協議会	会長	
運営委員長	西 一夫	信州大学教育学部	教授	コーディネーター
運営副委員長	渡辺 隆一	信州大学教育学部	特任教授	コーディネーター
運営委員	安達 仁美	信州大学教育学部	准教授	コーディネーター
運営委員	水谷 瑞希	信州大学教育学部	助教	コーディネーター
運営委員	本間 喜子	信州大学学術研究・産学連携推進機構 リサーチ・アドミニストレーションセンター	助教	
	矢崎 靖雄	諏訪ユネスコ協会	会長	コーディネーター
	伊坪 百代	飯田ユネスコ協会	会長	コーディネーター

## 平成30年度 信州ESDコンソーシアム事業実績

地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）年次アンケート区分		件数
A	資格・登録・単位認定等を伴う研修・育成プログラムの提供	0
B	修了認定を伴わない研修・育成プログラムの提供	14
C	ESD に関わる人材育成シンポジウム・セミナー・ワークショップ等の開催	5
D	ESD に関わる事例や経験等の参照・交流機会の提供（視察、見学を含む）	6
E	OJT、インターン等	0
F	その他	2

No.	年月日	事業名	区分	講師等	対象	主催・共催・後援等	会場
1	平成30年4月25日(水)	学部・附属共同研究連絡会	B	水谷瑞希	学部教員・附属学校教員	主催:信州大学教育学部 協力:信州ESDコンソーシアム	信州大学教育学部
2	平成30年5月15日(火)	山ノ内町立西小学校校外学習	F	渡辺隆一	山ノ内西小学校児童・教員	主催:山ノ内町立西小学校 協力:信州ESDコンソーシアム	山ノ内町立西小学校
3	平成30年5月19日(土)	飯田ユネスコ協会総会	B	渡辺隆一	飯田ユネスコ協会関係者	主催:飯田ユネスコ協会 協力:信州ESDコンソーシアム	飯田市役所
4	平成30年5月23日(水)	生涯学習担当指導主事等会議	B	安達仁美	県下各地方事務所の指導主事、生涯学習課長	主催:長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課 協力:信州ESDコンソーシアム	長野県庁
5	平成30年6月6日(水)	長野県生涯学習推進センターESD研修	B	安達仁美	教員、公民館職員やNPO職員、地域おこし協力隊員、地域住民等	主催:長野県生涯学習推進センター 協力:信州ESDコンソーシアム	長野県生涯学習推進センター
6	平成30年6月22日(金)~6月24日(日)	第7回 国際ユース環境会議 in 信州大学教育学部	D	渡辺隆一	中学生・高校生・大学生・一般	主催:国際ユース環境会議実行委員会 後援:長野県教育委員会、長野市教育委員会、(一社)長野県環境保全協会、信州大学教育学部 協力:信州ESDコンソーシアム	信州大学教育学部
7	平成30年6月29日(金)	長野市立東条小学校ESD教員研修	B	渡辺隆一	長野市立東条小学校教員	主催:長野市立東条小学校 協力:信州ESDコンソーシアム	長野市立東条小学校
8	平成30年7月4日(水)~7月5日(木)	山ノ内中学校研修旅行	B	水谷瑞希	中学生	主催:山ノ内町立山ノ内中学校 協力:信州ESDコンソーシアム	志賀高原
9	平成30年7月12日(木)	校長マネジメント研修 -長野市教育の重点と学校マネジメント	B	安達仁美	校長	主催:長野市教育委員会 協力:信州ESDコンソーシアム	長野市教育センター
10	平成30年7月22日(日)	信州大学教育学部オープンキャンパス	F	-	高校生	主催:信州大学教育学部 協力:信州ESDコンソーシアム	信州大学教育学部
11	平成30年7月30日(月)	ユネスコエコパーク・ESD・総合的な学習の時間 研修会	B	渡辺隆一 水谷瑞希	山ノ内南小学校教職員	主催:山ノ内町立南小学校 協力:信州ESDコンソーシアム	山ノ内町立南小学校
12	平成30年8月2日(金)	山ノ内町教員研修	B	渡辺隆一 水谷瑞希	山ノ内町内中学校教職員	主催:山ノ内町教育委員会	志賀高原
13	平成30年8月6日(月)	北信越ユネスコスクール交流会 2018	D	-	北陸3県、長野県、新潟県及び東海地域のユネスコスクール及びユネスコスクール関係者	主催:中部地方ESD活動支援センター、北陸ESD推進コンソーシアム 協力:ESD活動支援センター 後援:ユネスコスクール支援大学間ネットワーク、信州ESDコンソーシアム、金沢市教育委員会	金沢勤労者プラザ
14	平成30年9月2日(日)	信州ESDコンソーシアム平成30年度通常総会	C	及川幸彦	コンソーシアム構成団体、参加希望団体等	信州ESDコンソーシアム	信州大学教育学部

15	平成30年9月29日(土)~9月30日(日)	ユネスコ協会中部東ブロック・ユネスコ活動研究大会 in 諏訪	D	渡辺隆一	ユネスコ協会会員、ユネスコスクール、小中高等学校関係者、教育委員会、地方公共団体、社会教育団体関係者、民間ユネスコ運動に関心を持つ一般市民、NGO、NPO など	主催:公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、中部東ブロック・ユネスコ連絡協議会、長野県ユネスコ連絡協議会、諏訪ユネスコ協会 協力:信州ESDコンソーシアム	華乃井ホテル(上諏訪温泉)
16	平成30年10月3日(水)	ESD研修	B	安達仁美	附属学校園研修教員	信州ESDコンソーシアム	信州大学教育学部
17	平成30年10月12日(金)	ユネスコエコパーク・ESD・総合的な学習の時間 研修会	B	水谷瑞希	山ノ内中学校教職員	主催:山ノ内町立山ノ内中学校 共催:信州ESDコンソーシアム	山ノ内町立山ノ内中学校
18	平成30年10月13日(金)	ESD推進のためのダイアログin信州ユネスコエコパーク交流と共同取組によるESDの推進	C	阿部 治 水谷瑞希	一般、教育関係者等	主催:中部地方ESD活動支援センター 共催:志賀高原ユネスコエコパーク協議会、信州ESDコンソーシアム	志賀高原
19	平成30年11月15日(木)	第50回長野県視覚・放送・情報教育研究大会 中野・下高井大会	B	水谷瑞希(指導者)	教育関係者等	主催:長野県視覚・放送・情報教育研究会、中高大推進運営委員会、NHK長野放送局 共催:長野県市町村教育委員会連絡協議会、中野市・山ノ内町・木島平村・野沢温泉村各教育委員会、中野・下高井校長会、中野・下高井教育会 後援:長野県教育委員会、信濃教育会、長野県高等学校視覚教育研究会、長野県幼児教育研究協議会	山ノ内町立東小学校
20	平成30年11月28日(水)	ユネスコエコパーク・ESD・総合的な学習の時間 研修会	B	石田好広 渡辺隆一 水谷瑞希	山ノ内西小学校教職員	主催:山ノ内町立西小学校 協力:信州ESDコンソーシアム	山ノ内町立西小学校
21	平成30年11月30日(金)~12月1日(土)	ESD推進ネットワーク全国フォーラム2018	D	水谷瑞希(講演)	ESD関係者	主催:ESD活動支援センター、文部科学省、環境省 後援:日本ユネスコ国内委員会	国立オリンピック記念青少年総合センター
22	平成30年12月2日(日)	映画「みんなの学校」上映	C	安達仁美	一般	主催:長野ユネスコ協会青年部 つなぶる 後援:信州大学教育学部・信州ESDコンソーシアム・長野ユネスコ協会	信州大学教育学部
23	平成30年12月8日(土)	ユネスコスクール全国大会	D	-	ESD関係者	主催:文部科学省 共催:NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム、第10回ユネスコスクール全国大会横浜実行委員会、(公財)ユネスコ・アジア文化センター、(公社)日本ユネスコ協会連盟	横浜市立みなとみらい本町小学校
24	平成31年1月23日(水)~2月3日(日)	ラオス国立大学教育学部研究者との交流	D	Dr. Ngouay Keosda Mr. Vanna-souk Boua-sangthong	一般小学生中学生	主催:信州大学教育学部 協力:信州ESDコンソーシアム	信州大学松本キャンパス 附属松本小学校 附属松本中学校
25	平成31年1月26日(土)	成果発表&交流会	C	石田好広 横井克哉 内田裕斗 板垣真由美 高橋芳和	コンソーシアム構成団体、長野県内学校関係者(教員・児童・生徒・保護者)等	主催:信州ESDコンソーシアム 後援:信州大学教育学部・長野県教育委員会・ESD活動支援センター・長野県ユネスコ連絡協議会・(一社)長野県環境保全協会	信州大学教育学部 松本キャンパス
26	平成31年1月26日(土)	志賀高原ユネスコエコパークフェア	F	-	一般	主催:志賀高原ユネスコエコパーク協議会、公益財団法人イオン環境財団 協力:信州ESDコンソーシアム	イオンモール松本
27	平成31年2月2日(土)	成果発表&交流会	C	及川幸彦 安田昌則 朴惠淑 松本謙一	コンソーシアム構成団体、長野県内学校関係者(教員・児童・生徒・保護者)等	主催:信州ESDコンソーシアム 後援:信州大学教育学部・長野県教育委員会・ESD活動支援センター・長野県ユネスコ連絡協議会・(一社)長野県環境保全協会	信州大学教育学部



通常総会



## 平成30年度 信州ESDコンソーシアム通常総会

日 時 平成30年9月2日(日) 13時00分～

場 所 信州大学教育学部 中校舎2階 第1会議室

## 次 第

## 1. 開会挨拶

信州ESDコンソーシアム会長

信州大学教育学部長 永松 裕希

## 2. 基調講演

「地域の課題と向き合い、地域と共に学び続け、SDGsの達成をめざすコンソーシ構築  
～全国のコンソーシアムの戦略と取組を参考に」

東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター

主幹研究員 及川幸彦 先生

## 3. 総会

## (1) 議長選出

## (2) 協議

・役員を選出について

・事業報告について

・事業計画について

・その他

## (3) 報告

・加盟団体活動紹介

・その他

## 4. 意見交換

## 5. 閉会挨拶

## 信州ESDコンソーシアム通常総会 出席者

(平成30年9月2日(日) 信州大学教育学部 第1会議室)

東京大学	及川 幸彦 様
山ノ内町教育委員会	柴草 隆 様
(一社)長野県環境保全協会	宮島 和雄 様
長野県ユネスコ連絡協議会	中野 清史 様
(公財)ユネスコ・アジア文化センター	藤本 早恵子 様
(公社)日本ユネスコ協会連盟	川上 千春 様
EPO 中部/中部地方ESD活動支援センター	清本 三郎 様
信州大学教育学部附属幼稚園	石川 政好 様
茅野市立永明小学校	吉川 豪 様
高山村立高山小学校	小林 英一 様
山ノ内町立南小学校	菅原 勇介 様
長野市立東条小学校	武居 和紀 様
信州大学教育学部附属長野小学校	齊藤 隆 様
信州大学教育学部附属松本小学校	島田英一郎 様
山ノ内町立山ノ内中学校	清水 恒善 様
信州大学教育学部附属長野中学校	畑 邦弘 様
信州大学教育学部附属松本中学校	宮下 哲 様
長野県中野西高等学校	山本 千鶴 様
長野県長野西高等学校	堀内 和徳 様
文化学園長野中学・高等学校	長田 理恵 様
信州大学教育学部附属特別支援学校	水倉 美和子 様
NPO 法人みどりの市民	渡辺 ヒデ子 様
(一社)長野県環境保全協会	中澤 博道 様
直富商事(株)	三井 正美 様

## オブザーバー

長野県環境政策課	松井 博 様
長野市教育委員会	直江 将志 様
人文学部名誉教授	株丹 洋一

## 信州大学

教育学部長	永松 裕希
コーディネーター	西 一夫
コーディネーター	渡辺 隆一
コーディネーター	安達 仁美
コーディネーター	水谷 瑞希
URA	本間 喜子
事務長	酒井 清
ESD事務局長	古澤 和孝
ESD事務局員	大山 繁
ESD事務局員	白岩 正子



## 基調講演 及川幸彦氏(東京大学)

### 地域の課題と向き合い、地域と共に学び続け、SDGsの達成をめざすコンソーシアムの構築 ~全国のコンソーシアムの戦略と取組を参考に~

東京大学 海洋アライアンス 海洋教育促進研究センター  
主幹研究員 及川 幸彦 (地球環境学博士)

日本ユネスコ国内委員会 委員  
持続可能な開発のための世界市民会議 議長  
公益社団法人日本ユネスコ協会 専任理事  
ESD活動支援センター 上席アドバイザー

### グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業の目的

本事業は、多様なステークホルダーの参画によるESDコンソーシアムの構築と、「ESDの深化」を図る高度なESDの実践を通じて、持続可能な社会づくりの担い手を育成し、地域のSDGs達成の推進に寄与することを目的とする。

平成30年度は、2つのカテゴリで12団体(コンソーシアム)が採択される。

### グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業

(1) ESDコンソーシアム事業 (継続)

＜目的・内容＞  
教育委員会及び大学が中心となり、ESDの推進拠点であるユネスコスクールとともにESDコンソーシアムを形成し、地域のESDの実践・普及及び国内外におけるユネスコスクール間の交流等を促進。  
＜採択団体(コンソーシアム)＞  
・信州ESDコンソーシアム(信州大学)  
・横浜市ESD推進コンソーシアム(横浜市教育委員会)  
・ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム(静岡大学)  
・広島ESDコンソーシアム(広島大学)

### グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業

(2) ESDの深化による地域のSDGs推進事業(平成30年度新規)

＜目的・内容＞  
ESDに携わる多様なステークホルダーがチームを形成し(ESD-SDGsコンソーシアム)、ESDの深化を図る高度なESDの実践を通じて、持続可能な社会づくりの担い手を育成し、地域のSDGsの推進に寄与する。

＜事業メニュー＞  
[1] ホールスクールアプローチの全国的な普及・推進  
[2] 学校教員及びユネスコ世代のESDの実践力強化  
[3] 地域のSDGs達成に向けた課題解決のためのESDの実践  
[4] ユネスコ事業との連携によるESD/SDGsの推進

### グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業

(2) ESDの深化による地域のSDGs推進事業(平成30年度新規)

＜採択団体(コンソーシアム)＞  
・札幌道央圏ESD-SDGsコンソーシアム(北海道大学)  
・東北ESD-SDGsコンソーシアム(宮城教育大学)  
・阿賀町近代遺産教材ESD-SDGsコンソーシアム(あがわ環境学会)  
・奈良教育大学ESD-SDGsコンソーシアム(奈良教育大学)  
・新居浜ESD-SDGsコンソーシアム  
・大牟田ESD-SDGsコンソーシアム(大牟田市教育委員会)  
・サステイナブルスクール発ESD-SDGs全国コンソーシアム(ACCU)  
・ジオパークESD-SDGsコンソーシアム(日本ジオパークネットワーク)

### 多様な連携力を合わせ、持続可能な社会づくりの担い手を育成しよう!

ESD活動支援センター(ESD-SDGsコンソーシアム)の取組  
ESD活動支援センターは、ESDの実践を通じて、持続可能な社会づくりの担い手を育成し、地域のSDGsの推進に寄与することを目的とする。ESD活動支援センターは、ESDの実践を通じて、持続可能な社会づくりの担い手を育成し、地域のSDGsの推進に寄与することを目的とする。

### 全国に広がるESD&ESD-SDGsコンソーシアム

ESD活動支援センターは、ESDの実践を通じて、持続可能な社会づくりの担い手を育成し、地域のSDGsの推進に寄与することを目的とする。ESD活動支援センターは、ESDの実践を通じて、持続可能な社会づくりの担い手を育成し、地域のSDGsの推進に寄与することを目的とする。

### 持続可能な開発目標(SDGs)とは何か?

「誰も置き去りにしない」世界をめざして

### 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」採択

持続可能な開発目標(SDGs)の実施

2015年 持続可能な開発サミット(2015年9月25日)

### ESD(教育)とSDGs(開発)との関係

ESDは持続可能な開発のための取り組み

1992年 リオデジャネイロ・地球サミット「アジェンダ21」…… ESD  
2000年 国連ミレニアム宣言「我々が我々がESDを提案」…… MDGs  
2002年 ユネスコ世界市民会議「我々が我々がESDを提案」…… MDGs  
2002年 国連決議(第57回総会)  
2005年 DESD国際実施計画をユネスコにて策定…… DESD  
2009年 ESD世界会議(ボネ)・ボネ宣言の採択  
2014年 ESDに関するユネスコ世界会議(名古屋/岡山市)  
「グローバル・アクション・プログラム(GAP)」…… GAP  
2015年 持続可能な開発サミット「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の採択…… SDGs

### 「MDGs」から「SDGs」へ

MDGsとの比較  
2001~2015年 MDGs  
2016~2030年 SDGs

8ゴール・21ターゲット(シンプルで明快)  
17ゴール・169ターゲット(包括的で、互いに関連)

国連の専門家主導  
国連全加盟国で交渉実施手段(資金・技術)

### SDGsの17のゴール(目標)

SDGsの特徴

① MDGsの深堀り(例: 極度の貧困→あらゆる貧困)

② 先進国にも関わる新たな課題

### SDGsがめざす5つのP

- ・People(人間)
- ・Planet(地球)
- ・Prosperity(繁栄)
- ・Peace(平和)
- ・Partnership(パートナーシップ)

### SDGsの3つの特徴

普遍的 不可分・関連 革新的・野心的

SDGsは普遍的なものであり、すべての国とすべての人による行動が必要とする

それぞれ目標は相互に関連しており、孤立しているのではなく、統合的に取り組むことが必要

アジェンダは、幅広い野心的であり、「誰も置き去りにしない」ことを目指す

### 11 不平等をなくそう!

生まれる環境は違っても、世界にはどのような不平等があるか見よう

5歳になる前に亡くなる子どもが多い国(国)も、ほとんどの国で同じように見よう?

### 12 暴力や差別をなくそう!

SDGsは、平和で、暴力や差別のない世界を目指しています

現在の世界には、どのような問題がありますか?

児童労働  
児童婚  
児童兵

### 13 地球環境を守ろう!

地球上で起こっている気候変動や環境問題、どのような課題と結びついているか?

気候変動は、SDGsの目標13「気候変動に具体的な対策を」に関連しています

### 日本も抱える差別や貧困の問題

格差や貧困は、途上国だけでなく、日本も含めた先進国の中でも問題になっています

貧困や格差は、SDGsの目標1「貧困をなくそう」に関連しています

### ESDから取り組むSDGs (ESDGs)

SDGsの達成に貢献するESD

### 国連・持続可能な開発目標 (SDGs)

2015-2030持続可能な開発目標SDGs: 17の目標と169のターゲット

### 日本ユネスコ国内委員会 (教育小委員会) からのメッセージ (SDGs関連)

Education for SDGs (ESDGs)

### 東北ESDコンソーシアムの拠点の育成

### 地域をつなぐ学びあいセミナーの実施

### コンソーシアムと東北地方ESD支援センターとの連携

### SDGsの全ての目標達成に貢献するESD

### ESD推進におけるSDGsの捉え方・考え方

SDGsのESD推進への3つの効用

- SDGsによって自分自身のESDの活動に新たな意義や価値付けを行うことであり、ESDの価値を顕微鏡化する方法の一つ
- SDGsは人類共通のグローバル目標であり、それを意識してESDの活動に取り組むことは、地域に根差した身近な課題が解決につながることであり、地球規模の課題解決に貢献
- この自覚と誇りをもって、学校や地域で、SDGsを見直しながら従来の課題解決を大事に、ESDを推進していくことへの道程

### ESDGsへの多角的アプローチ (海洋教育)

### <事例2> 奈良教育大学ESD-SDGsコンソーシアム (代表団体 奈良教育大学)

### ESDティーチャーとは？

教師としての基礎的な力量 + 豊かな教養や、持続可能な開発目標 (SDGs) への関心

地域で教材を発見し、教材開発を行い、単元をデザインする力

### ESDティーチャー認証プログラム概要

<基本的な研修プログラムの内容>

- SDGsと地球的諸課題
- ESDの学習理論
- 教材開発の方法
- ESD学習指導案の作成
- ESD学習指導案の検討

### SDGsのための教育を進めるポイント

- 持続可能な諸課題は、海外だけではなく国内や地域にも存在することを意識させる。
- それらの課題は、SDGsと一対一対応ではなく、様々な目標や課題が複雑に絡んでいることを認識させる。
- それらの諸課題を理解するだけの学習ではなく、その課題解決に向けて地域から世界への行動を促す。
- ある学年や教科、単元のみでの学習ではなく、発達段階に応じて生涯にわたって探究する意欲を喚起する。

⇒ "Education of SDGs" から "Education for SDGs" に

### 地域から取り組むSDGs 「大牟田版SDGs」

ESDを基盤とした大牟田らしいSDGsの創造と展開

### 大牟田が推進する様々なESDの施策

### プログラムの種類と認証要件

プログラムの種類	認証要件
ESDティーチャーコース	ESD連続セミナーへの5回以上の出席とミニレポートの作成 ESD学習指導案の作成
ESDマスターコース	ESD連続セミナーへの7回以上の出席とミニレポートの作成 ESD授業実践と実践事例の報告 ESDティーチャーを指導していることが前提条件 ESD連続セミナーへの5回以上の出席とミニレポートの作成
ESDスペシャリスト	ESD連続セミナー・マスター受講者の指導 研究発表や授業実践の発表 ESDマスターを指導していることが前提条件

### 全国版・ESDティーチャープログラム

### <事例3> 大牟田SDGs/ESDコンソーシアム (代表団体 大牟田市教育委員会)

### 大牟田が目指す未来と大牟田版SDGs

【大牟田のビジョン：5つのP】

### 「大牟田版SDGs」の具体的アプローチ

### SDGsの達成に向けた大牟田の挑戦

「持続可能な大牟田のまちづくり」をめざして

- 大牟田がこれまで取り組んできたESDとパートナーシップを基盤に大牟田らしいSDGsを展開
- 大牟田の地域課題やよさを踏まえ、SDGsの目標を選択・集中して重点的に取り組む

学校や地域の課題解決を大切にした大牟田版SDGs

### 大牟田ESDコンソーシアムの事業概要

<事業のテーマ> 「ESDの深化によるSDGs達成に向けた教育行政ネットワークと指導者育成システムの構築」

<事業の概要> これまで全国で最先的にESD/ユネスコスクールをWhole City Approach (市全体) で推進してきた大牟田市の多様かつ先進的な推進政策をベースに、地域のSDGsの達成に貢献しつつ全国レベルで持続可能なESDの推進体制を構築するために、主に学校教育を中心に2つの事業を展開する。

### 大牟田ESDコンソーシアムの二本の矢

- SDGs/ESD教育委員会コンソーシアム(BOE Consortium for SDGs/ESD)
- ESDマスターティーチャープログラム (ESD Master Teacher Program)

### 教育委員会コンソーシアムとGAPへの貢献

- 各教育委員会のSDGs/ESD推進・普及政策の共有
- 各教育委員会への学校や教員への支援体制や支援内容の共有
- ESDの推進体制やネットワーク構築施策の共有
- ESD推進に関する教員研修の内容や体制の共有
- 社会教育施設等と連携した青少年のESD活動
- 各教育委員会の地域課題を踏まえたSDGsの検討・立案・実施

### SDGsへの貢献を目指す教育委員会の取組

取組	内容
ESD推進	ESD推進計画の策定・実施
ESD学習	ESD学習指導案の作成・共有
ESD実践	ESD実践事例の収集・共有
ESD連携	ESD連携事例の収集・共有
ESD評価	ESD評価事例の収集・共有

### SDGsへの貢献を目指す各校のESD

学校	取組
大牟田市立大牟田小学校	ESD推進計画の策定・実施
大牟田市立大牟田中学校	ESD推進計画の策定・実施
大牟田市立大牟田高等学校	ESD推進計画の策定・実施

### SDGsをESDに生かす5つの視点

- SDGsの各目標とこれまでのESDの取組を関連付け整理する。
- SDGsの視点で、身近な取組の国際的な課題への貢献を評価する。
- 各目標が相互に関連していることを地域の課題から意識する。
- SDGsを国や地域の課題に則して重点化し優先的に取り組む。
- SDGsの達成には教育 (人づくり) が重要であることを意識する。

Education for Sustainable Development Goals = ESDG

### マスターティーチャープログラムの流れ

### マスターティーチャーに期待されるミッション

- 次世代のESDを推進する教員の育成 (人材育成)
- 地域でのボトムアップによるESDの普及 (量) と深化・促進 (質)
- 全国レベルでのESDの教育ネットワークの形成と情報共有・発信
- 教育行政 (SDGs/ESD教育委員会コンソーシアム) との連携による政策的支援 (教員研修、サミット等) への貢献
- 地域の多様なセクター (行政、NPO、企業、ESDコンソーシアム、ESDセンター) を結ぶESDのハブとしての機能

⇒ 各地域及び全国でESDの持続発展に貢献するリーダー

### 教育委員会コンソーシアム&マスターティーチャープログラム

回数	時期	開催形式	研修内容等 (予定)
第1回	8月22日	研修形式	大牟田市立大牟田小学校・大牟田市立大牟田中学校・大牟田市立大牟田高等学校への参加 第1回SDGs/ESD教育委員会コンソーシアム (全国)
第2回	10月	授業研究事例研修	第2回SDGs/ESD教育委員会コンソーシアム (全国) ESD/ESDの推進体制や今後のプログラムの進め方 大牟田市の各学校の授業実践の情報交換
第3回	11月17日	授業研究事例研修	各教育委員会のESD推進計画への参加と授業実践の情報交換 ESD/ESDの推進体制や今後のプログラムの進め方 各教育委員会のESD実践の情報交換・学びあい
第4回	12月	授業研究事例研修	第4回ESDマスターティーチャープログラム (大牟田のみ) ESD/ESDの推進体制や今後のプログラムの進め方 ESD/ESDの推進体制や今後のプログラムの進め方
第5回	1月12日	実践研修	第5回ESDマスターティーチャープログラム (全国) ESD/ESDの推進体制や今後のプログラムの進め方 大牟田市の各教育委員会のESD実践の情報交換 (成果と課題)

### 全国のコンソーシアムの先進事例から学ぶ

コンソーシアムの強みを生かしたSDGsへの貢献

### <事例1> 東北ESD-SDGsコンソーシアム (代表団体 宮城教育大学)

### 気仙沼ESD円卓会議 Since 2002

気仙沼円卓会議の3つの柱

- 最新の教育の動向やESDの情報を提供し共有する
- 地域のESD/SDGsの実践を学びあう
- ESD (人づくり) の観点から時代の地域課題を議論し、方向性を共有する

### 信州ESDコンソーシアムの今後の展開にむけて

ESDの進化によるSDGsへの貢献するコンソーシアム

- ネットワーク・ベースからプロジェクト・ベースへ形成したコンソーシアムでどんなミッションを果たすか?
- 各地域 (地方) のSDGsの重点課題は何か? ⇒ 信州や各地域での課題を踏まえて達成すべきSDGs目標は何か?
- 信州の資源や遺産をどのように生かすか? ⇒ エコパーク、ジオパーク、世界遺産、伝統文化 (ユネスコ活動) との連携
- 信州コンソーシアムの強みは何か? ⇒ どのようなターゲット、メニュー、戦略でSDGsに貢献するか? 教育が、課題解決か?
- 地域・地方展開か、全国展開か? ⇒ 活動・支援エリアを地方に置くか、全国に打って出るか?

平成30年度信州ESDコンソーシアム  
通常総会議事抄録

開催日時	平成30年9月2日(日) 13:00~16:00	開催場所	信州大学教育学部中校舎 2F 第1会議室
		出席者	23名(定足数19名)
		欠席者	13名
議題・報告・連絡事項等	審議・報告・連絡等の概要		
【議題】 (1) 議長選出  (2) 協議  ・役員選出について  ・事業報告について  ・事業計画について	<p>永松会長により、議長が西委員に指名された。</p> <p>以下、西議長の進行により協議された。</p> <p>西議長より、運営委員長として資料5~6頁に基づいて説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本年度の変更点について、主に以下の内容が説明された。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・諏訪ユネスコ協会会長の矢崎氏がコーディネーターとして加入。</li> <li>・山ノ内町教育委員会教育長が務めていた副会長職を後任の柴草氏に引き継いだ。</li> </ul> </li> </ul> <p>➤ 拍手を持って承認された。</p> <p>水谷委員より成果報告書2017に基づき説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 主に、11~14頁(平成29年度信州ESDコンソーシアム事業実績、平成29年度コーディネーター・運営委員活動記録)について説明された。</li> </ul> <p>➤ 拍手を持って承認された。</p> <p>水谷委員より別刷り資料(平成30年度信州ESDコンソーシアム事業計画(案))及び資料22頁(平成30年度信州ESDコンソーシアム予算(案))に基づき説明があった。 また、西議長より1月26日及び2月2日実施予定の成果発表&amp;交流会について捕捉で案内があった。</p> <p>【資料修正】 ・平成30年度信州ESDコンソーシアム事業計画(案) No. 18について、実施日の12月2日を12月8日に修正。</p>		

<p>・その他</p> <p>(3) 報告 ・信州大学教育学部より</p> <p>・加盟団体活動紹介</p>	<p>➤ 拍手を持って承認された。</p> <p>特になし</p> <p>安達委員より、口頭にて報告があった。</p> <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月21日付でユネスコスクール登録校が増え、長野県5校が追加登録となった。5校は全て信州大学附属学校園である。</li> <li>・ASPUnivNetの加盟報告。成果報告書2017の123頁ESD通信vol. 11の記載事項に基づきUnivNetについての説明を行った。また、西議長より5頁に基づき補足説明があった。</li> </ul> <p>当日配布資料のある団体より、紹介があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料なし。</li> <li>・ACCUの3本柱(ユネスコスクール支援を通じたESD推進、コンソーシアム事業参加、地域での学び)についての紹介及びホームページにて資料公開している旨等説明があった。</li> <li>・今後、ユネスコスクールを対象として加盟前や加盟後の活動等に関する相談会を実施予定。</li> </ul> </li> <li>● 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料「ユネスコ活動レポート2017」</li> <li>・4頁~SDGsのためのESDの具体的活動について紹介。</li> <li>・9月29・30日開催のユネスコ協会中部東ブロック・ユネスコ活動研究大会 in 諏訪 (No. 14) についての紹介。</li> </ul> </li> <li>● 茅野市立栄明小学校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料「ユネスコスクール元年」</li> <li>・今年の活動紹介。</li> <li>・9月29・30日参加時の発表についての紹介があった。</li> </ul> </li> <li>● 文化学園長野中学・高等学校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料「2018SDGs実践計画表」(A3版)</li> <li>・実施した活動についてSDGsと照らし合わせて可視化している表(資料)の紹介。</li> <li>・表にすることで、生徒達の学びや気づきがある。課題としては、学校内の先生方の気づきと先生同士の連携。</li> <li>・研修会では是非及川先生に講演をお願いしたい。</li> </ul> </li> <li>● 一般社団法人長野県環境保全協会、長野県環境政策課 <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料「信州環境カレッジ」「宇宙・星空コース」「信州え</li> </ul> </li> </ul>
--	---

<p>・その他</p>	<p>こなび」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全協会についての紹介。</li> <li>・資料にある内容について、ホームページ開設についてのアナウンス、利活用及び情報提供の案内、特別カリキュラムである宇宙・星空コースの案内。</li> <li>・長野県環境政策課より「信州環境カレッジ」について補足。5ヶ年計画「学びの県づくり」の一環。講座情報の集約、発信を行っている。一部経費補助の実施（主に地域企画のイベント）。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中部地方ESD活動支援センター</li> <li>● 10月13日実施企画の案内。</li> </ul> <p>特になし。</p>
-------------	--

以上

2018 SDGs 実践計画表		文化学園長野中学・高等学校	
Learning to be: 多様性の時代を協調して生きることのできる 国際人の育成目指して		持続可能な社会の担い手を育てるため、現代社会の課題を自分事として問題に気づき、それを解決していくための手立てを考え、工夫する力や、チームでものを考えるために創造的なコミュニケーションを図る力の育成を図る ①持続可能な社会づくりの担い手を育成 ②多様な他者と協働できる力を育成 ③社会参加意識の向上	
国際理解		地球規模の諸問題解決 (ボランティア)	
10 持続可能な開発目標	・長野マラソン海外招待選手交流会[中高希望者] ・国際交流会(Ethiopia)[インターアクト] ・探究学習[高校2年全員] ・イングリッシュキャンプ信大留学生交流[中学1・2年] ・津田塾大学講演会-リーダーセッション[高校2年] ・古都研修[中学2年]	2 気候変動 6 清潔なエネルギー 7 持続可能なエネルギー	1 貧乏 3 健康な生活 5 性別平等
16 平和と公正	・長野マラソン通訳ボランティア[インターアクト] ・NHK中継「イブニング信州」[中高希望者・参加部活] (長野マラソン202周年番組) ・服プロジェクト[中高生徒会] ・西日本豪雨災害義援金募金[中高生徒会] ・外務省国連壁新聞[中学生徒会] ・Nagano ハロウィンストリートグリーンボランティア活動[インターアクト] ・領土問題、地域紛争・貧困・難民・テロリズム、資源・エネルギー問題[中学3年社会]	9 産業とイノベーション 13 気候変動 14 海の豊かさ	8 豊か 11 持続可能な都市とコミュニティ 12 持続可能な消費と生産
17 パートナーシップ	・SEPC[インターアクト] ・東北支援交流・和太鼓交流・ネパール地震[インターアクト地区大会に向け] ・インターアクト2600地区大会[インターアクト] ・NEXUS 地域清掃[中高生徒会] ・信州大留学生交流[中高生徒会] ・ユネスコ缶バッジ[中高生徒会] ・JICA パネル展[中高生徒会] ・SDGs プレゼン[高校2年] ・国際月間[中学生徒会] ・カナダホームステイ研修[中学3年] ・イギリス修学旅行[高校2年] ・海外交換学生交流会[インターアクト]	10 公平なエネルギー 11 持続可能な都市とコミュニティ 12 持続可能な消費と生産	2 気候変動 4 質の高い教育をみんなに 6 清潔なエネルギー 7 持続可能なエネルギー 8 豊か 9 産業とイノベーション 10 公平なエネルギー 11 持続可能な都市とコミュニティ 12 持続可能な消費と生産

### ユネスコスクール 元年

茅野市立永明小学校 吉川 豪

1 茅野市立永明小学校は…

本校は、八ヶ岳連峰や蓼科山などの雄大な山々に抱かれ、国宝土偶2体「縄文のビーナス」「仮面の女神」が出土するなど縄文文化以来の長い歴史を築き上げてきた茅野市に位置する。茅野市役所や茅野市民館などの市中核施設が近隣にあり、茅野駅から徒歩5分、住宅地と商店街が混在する茅野市の中心市街地にある。協力的で多様な価値観をもつ保護者や地域住民は、教育に対する理解が深く、関心が高い地域である。また、本校周辺には校名の由来となっている永明寺山、その麓には田畑やりんご園、八ヶ岳からの支流や先人がつくった用水が流れるなど豊かな自然環境に恵まれている。

本校は2017年(平成29年)にユネスコスクールとして認定を受けた。信州ESDコンソーシアムに、同年12月に入会。まだまだスタートしたばかりだが、「ユネスコスクール元年」として取り組んできた。

全校児童はおよそ600人で、学校目標を『ともに拓く』～なかよく・かしく・たくましく～とし、「つむぎ合い」(温かな人間関係)を教育活動の中心にして、取り組んでいる。ESDの観点からは教育資源としての地域の魅力と課題を見だし、さらなる地域の発展を願いながら地域住民との交流を深めることを通じて、茅野市・永明地域(以下、地域)を愛し支える児童の育成と学校づくりに取り組んできた。さらに、2015年(平成27年)より文部科学省指定コミュニティ・スクールとして、地域住民による協議を通じた学校運営をすすめながら、地域とともにある学校づくりと学校を中心とした地域づくりをスタートさせている。

2 主な活動内容

(1) 「世界寺子屋運動に参加しよう」

- ①諏訪ユネスコ協会会長による講演会や世界寺子屋運動 DVD の視聴を通して、世界各地には教育の機会に恵まれず、学用品を必要としている人々がいることを知る。
- ②書きそんじハガキ1枚が約47円分になると、それが学用品となり世界各地に届けられる「世界寺子屋運動」(書きそんじハガキ「ひとり1枚運動」)があることを知る。
- ③書きそんじハガキ「ひとり1枚運動」に協力しようとする気持ちやユネスコサポーターとしての自覚を持ち、ハガキ収集に取り組む。
- ④児童会本部を中心に、地域の方への書きそんじハガキ収集の協力依頼を行う。

※使用教材 世界寺子屋運動 DVD、Webページ「世界寺子屋運動(公益社団法人日本ユネスコ協会連盟ホームページ)」

→平成29年度は、ハガキ回収ボックスを置き二月初旬までに300枚を超える書き損じはがきが集まり、ユネスコ協会より感謝状をいただいた。事実を知り、興味をもち、自分のできることから行動に移そうとする姿が見られた。また、自分たちの活動が世界へと繋がっていることを感じることができた。

(2) 「永明の日」(学習発表・地域公開の日)と全校つむぎ合い講座

- ①学級ごとの学習発表、全校で積み重ねてきた歌声を披露し保護者、地域の方と歌う「うたごえタイム」、児童や地域住民が活動してきた「縄文太鼓」の演奏を行う。学習発表では、環境教育プロジェクトや地域学習プロジェクトを中心に、学習(各教科、総合的な学習の時間)してきた歩みと成果を、保護者や地域の方に公開する。
- ②「永明の日」にコミュニティ・スクールつむぎ合い講座部会主催の児童・保護者・地域住民対象の「全校つむぎ合い講座」を開催し、地域の歴史や文化などについて学ぶ。

→平成29年度は、永明小を卒業しベルギーの方と結婚して日本に暮らすご夫妻と息子さん、「やってみなければわからない」～日本や外国でチャレンジしてわかったこと～と題して、講演をしていただいた。外国の文化に触れ興味関心をもったり、陸続きのヨーロッパの学校事情が日本と異なることを知ったりできた。また、「日本や茅野市のよさ、素晴らしいさ」について、お話をしていただき、自国や郷土に誇りをもつ機会にもなった。

(3) 縄文科学習

茅野市は、通称「縄文のビーナス」「仮面の女神」と呼ばれる二体の国宝土偶が出土している国内でも例を見ない所で、市内全小中学校で生活科や総合的な学習の時間を中心に「縄文科」学習として、地域素材を学習材とした地域学習に取り組んでいる。本校の校区内にある茅野駅には大きな国宝土偶の銅像があり、電信柱に土偶が写された旗が下りたり、バスやマンホールにも縄文時代を彷彿とさせる絵が描かれていたりする。

①縄文から  
本校では縄文科の学習のスタートとして茅野市で作られた「縄文かるた」で遊ぶ。取り札の絵や読み札の文、読み札の裏に書かれた説明などから、縄文土器や土偶に興味をもったり、どんな暮らしをしていたのか思いを馳せたりする。

②縄文人の生き方を知る  
・縄文人の衣食住、道具や装飾品、お金、文化等を調べ、人々の生活や生き様を知る。  
・縄文人の生き方を体験することで学ぶ  
・土偶や縄文土器等を作ってみる。何のために作られたのか考える。

③考える  
・現代社会と比較しながら、「1万年も平和が続いた時代とはどういうことだろうか」と平和について考える。  
・縄文人のたくましさ(自立)、優しさ(協働)、高い生活力と創造性(創造)を体験的に学ぶことで、今やこれからの自分の生き方を深く見つめ直す。

→平成29年度土偶作りでは、「縄文時代の人も同じような願いをこめたのかなあ。」と思いを馳せ、今とつながりを感じる姿があった。また、火おこし体験では協力や協働なくしては火を著けられないことについて実体験を通して学んだ。

## 信州環境カレッジ

SHINSHU ENVIRONMENTAL COLLEGE

平成30年7月29日 WEBサイト オープン  
shinshu-college.pref.nagano.lg.jp

参加したい講座がすぐ見つかる!!

環境活動に取り組む人を応援する!!

今できること、今学ぼう。未来のために。

特別カリキュラム「宇宙・星空コース」開設

詳しくはWEBサイトをご覧ください。

信州ゆめまほう大使 JAXA宇宙飛行士の油井 亀美也です。世界の世代にこの美しい地球を残していくためには、私たち一人ひとりが地球のことを考え、できることが実践していくことが大切です。「信州環境カレッジ」を通じて、身近な環境問題を学んだり、地域の自然に触れていただき、「地球を守るために、私たちができること」を知ることや、行動を起こしていただければと思います。この美しい地球を、共に守っていきましょう。

## 地球のために 今できること

「信州環境カレッジ」は、県民、NPO、企業、行政等の協働による全国的な「学び」のムーブメントです。県民の環境に関する「学び」を拡大し、信州の美しく豊かな自然環境の保全や、持続可能な社会を支える人づくりを進めます。

参加したい講座がすぐ見つかる

講座募集中!

環境活動に取り組む人を応援する

講座登録していただきますと、様々なサポートをご提供いたします。信州環境カレッジに登録して、県民の「学び」の拡大にご協力をお願いします。

講座開催の告知や、開催レポートを掲載!  
個人、NPO法人等の皆様には経費の一部を支援!  
活動団体等の交流によりネットワークを拡大!

まずはWEBをチェック!!  
shinshu-college.pref.nagano.lg.jp  
(7月29日WEBサイトオープン)

講師の登録や講座への参加等に関するお問合せは下記運営事務局まで

【実施主体】長野県(環境部 環境政策課)  
【運営事務局】一般社団法人長野県環境保全協会 〒380-0835 長野市東門前1513-2(2)2F(2) 401号室  
TEL: 026-237-6620 FAX: 026-238-9780 Email: shinshu-college@nace-portal.jp

Ⅲ

成果発表 & 交流会

平成30年度  
グローバル人材の育成に向けた  
ESDの推進事業

文部科学省  
MEXT  
MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY

地域ESD活動推進拠点

信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

# 信州ESDコンソーシアム 成果発表&交流会

日時: **1月26日(土)**  
11:00~15:15

会場: 信州大学松本キャンパス  
経法学部講義棟(午前)  
理学部C棟(午後)

日時: **2月2日(土)**  
11:00~15:00

会場: 信州大学教育学部  
大講義室(図書館2階)

一般公開  
参加費無料

主催: 信州ESDコンソーシアム

後援: 信州大学教育学部 長野県教育委員会  
ESD活動支援センター 中部地方ESD活動支援センター  
長野県ユネスコ連絡協議会 一般社団法人 長野県環境保全協会  
ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUivNet)

お問い合わせ  
信州大学教育学部  
信州ESDコンソーシアム事務局(担当:白岩・大山)  
〒380-8544 長野市西長野6-0  
TEL: 026-238-4034  
E-mail: kyoed@shinshu-u.ac.jp

特別な配慮が必要な方は、上記連絡先にあらかじめご連絡ください。

### 信州ESDコンソーシアム成果発表会 & 交流会 (松本会場)

開催日時 平成31年1月26日(土) 11:00~15:15

会場 信州大学松本キャンパス 経法学部講義棟(午前) 理学部C棟(午後)

参加者 小、中、高等学校の児童生徒、教員、保護者、コンソーシアム関係者 166名

当日の様子



### 茅野市立永明小学校

2019年度『徳州ESDコンソーシアム 成果発表&交流会』資料  
茅野市立永明小学校

#### 永明小5年1部『世界の人々の笑顔のために』 “届けよう、服のチカラ”プロジェクト

**I もったいないばあさんく横道紙①**

まず最初に私たちは、道徳の時間にもったいないばあさんの「考えよう世界のこと」を読みました。世界の9才の子も10人が登場しました。その子どもたちがどんなふうに生活しているのか書かれています。

この本の中に、アハミドくんというスーダンの男の子が出てきました。突然、家に兵隊がやってきて、お父さんは銃で撃たれ、お兄さんは兵士にされるために連れて行かれてしまいました。アハミドくんは、お母さんと2人で着の身着のまま、となりの国の難民キャンプに逃げたのです。難民キャンプでは、みんなおなかがすかすかしているし、病気の人もいました。着替える服もない人がほとんどでした。

地震を踏んで片足を失ってしまった子、一日中食べなければお腹が食べられない子、戦争に行かされている子がいました。出てきた子たちは、ほぼ全員が学校に行けないので、かわいそうだと思います。私たちが日本人は、毎日食べ物があふり、学校に行けて、着る服もちゃんとあります。でも、この広い世界の約半分の国の人たちは、着る服も1枚か2枚しかない、まじしい人がいます。それに比べて、私たちは、どんなに幸せなのでしょう。

『もったいないばあさん』のお話を聞いて、「どうしたら貧しい人たちに協力できるだろうか」を考えてみました。たくさん、「お父さんとユニクロに行ったとき、服の回収ボックスが置いてあって、困っている人を選んでくれる」と話して聞きました。

このことから、いらなくなった服を集めて、困っている人が助かるのかもしれないと思いました。また、この活動ならば、いらなくなった物を集めるので、お金がかからないので、自分たちでもできそう。ということになりました。



-1-

#### II 梅本さんの出張授業<横道紙②>

困っている人のために何が出来るか考えていた私たちは、「届けよう、服のチカラ」プロジェクトに出発しました。ユニクロとGUが行っているこのプロジェクトに応募しました。そして、6月22日に東京からGUの梅本先生に来ていただき、出張授業を受けました。

<演技>梅本さん

「皆さんこれから合い言葉をお願いします。それは、「ハッピー、ラッキー、ぼくミッキー」です。それは、皆さんと一緒に、せーの！「ハッピー、ラッキー、ぼくミッキー」

この言葉を使うと自然と、口元が上がって笑顔になります。もう一回言ってみましょう。せーの！「ハッピー、ラッキー、ぼくミッキー」

梅本さんの授業の最初にこの笑顔の大切さを教わりました。

この世界には、今ぼくたちがくらしているようにほくろがない人が6500万人以上いることがわかりました。ぼくたちのようにほくろがない人たちは笑顔にしたいから、子ども服を集めたいと思いました。

授業後に私たちは何もかももたついてもいいし、2時間目の休み時間に、早速、回収ボックス作り始めました。また、回収を呼びかけるポスターを作る人もいました。回収に向けて、人に呼びかける通知を作る人や校内放送のアナウンスを考える人もいました。

こうして、私たちは世界のみんなを笑顔にするために動き出しました。



私たちの世界の子供たちを笑顔にするために難民についても学習しました。

これは、UNHCR 国連難民高等弁務官事務所の冊子です。難民は大きく分けて2つに分けられます。戦争や内戦が起きたり、宗教や人種、政治的な意見がちがうことによる迫害などが原因で、家を離れ、他の国に逃れた人たちのことを「難民」といいます。また、難民と同じ理由で家を離れ、自分の国の別の地域で避難をしている人たちは「国内避難民」といいます。

-2-

#### III プール参観中の回収<横道紙③>

今テレビに映っている世界地図で赤く塗られているところは、難民や国内避難民がいて、ユニクロが服を届けるところです。世界の半分の国に、難民や国内避難民がいることがわかります。

UNHCR は、難民や国内避難民などを国際的に保護・支援し、難民問題の解決に向けて活動をしています。

今までユニクロは、この UNHCR や他の団体と一緒に回収した服を届けました。送り届けた枚数は、3,029万枚です。

**自由白地図-世界**

シリア難民 ジハン / 34歳

「子どもに教育を、届かない母の願い」

ジハンは、家事をするのも買ものをするのも、7歳の長男の手助けが欠かせません。彼女は目がほとんど見えません。彼女が目をほとんど見えないのは、シリアから、船で地中海を渡ったジハン一家、8時間かけてトルコに渡る予定が、45時間も船に揺られた末、ギリギリで到着したため、命の保証のない船出でした。家財の命を守るには、それではいけません。シリアにいよいよ、ジハンは公認難民として、来年のアッシュラアハムラに到着していました。子ども、子どもたちの教育、たいへん悩んでいました。難民となったジハンは、自分の左目が失明の危機にあるなか、子どもたちの教育を、何よりも心配しています。学校の授業を誰かが理解してくれるのではないかと、まだまで迷ってきただけで、そんな人はいくらもいません。救いは、どこにもありません。

※シナリオがほぼ完成していた昨日、「どうしても、難民について学習したことを発表に入れた」という思いをもった児童たちが、UNHCRの冊子『この人はなぜ?』に、ほんからできること、ユニクロの冊子『服のチカラ』、および自宅インターネットで調べたことをまとめ、発表した。

-3-

1学期に子ども服回収の準備を進め、2学期に集め始めました。8月末のプール参観に来るお家の方に、いらなくなった子ども服を集めて持って来ようようにしました。

まず、全校の家庭に『子ども服回収のお願い』のプリントを配りました。子ども服回収のお願いを伝えて、プリント配布をしました。

回収するボックスは、ダンボールと色画用紙を使って作りしました。

<ボックスを見せて>

ボックス作りで大変だったのは、画用紙をはること、大きな箱でも壊れないようにしたこと、キャップを差さなかったことでした。

夏休み明け、回収ボックスをプールサイドに置いて集めました。箱が600枚ほど集まり、とてもびっくりしました。

**IV 全校から回収 10月中旬～11月22日<横道紙④>**

私たちはプール参観の回収だけではなく、難民の人たちに届けるには、まだまだ足りないと思いました。そこで、全校にプリントを配り、ポスターを掲示して、10月中旬から11月22日まで、子ども服を集めるよびかけをしました。

朝の時間に昇降口に交替で立ち、5年1部の教室の前にも回収ボックスを置き、難民の人たちのために、たくさん子ども服を回収しました。

それは、回収の様子を再遊してみます。

<演技>

当番「子ども服の回収をしています。ご協力お願いします。」

回答「ご協力、ありがとうございます。お願いします。」

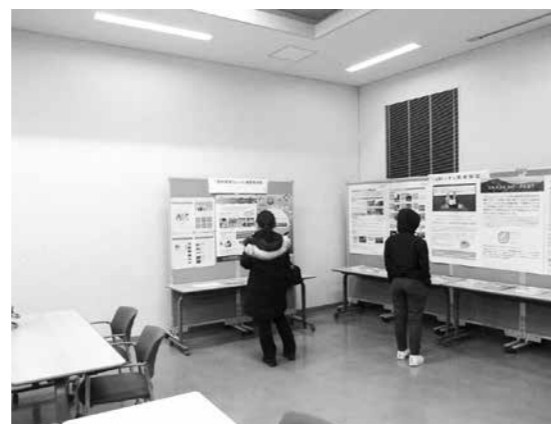
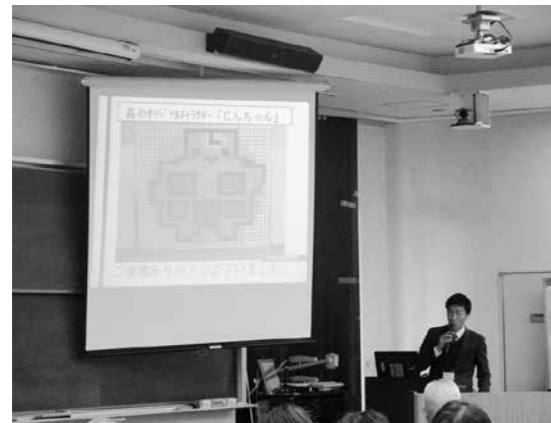
回答「ボックスをちょっと持ち上げて移動し、紙袋を出して見せて。」

「今日はこれだけ集められました。」一全員で拍手

このようにして、多くの人々が協力してくれたので、たくさんのお洋服を集めることができました。

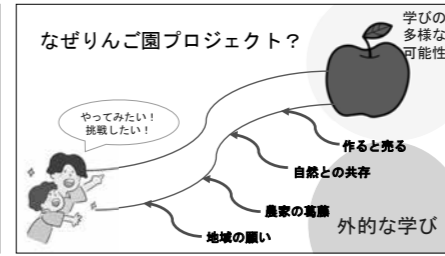
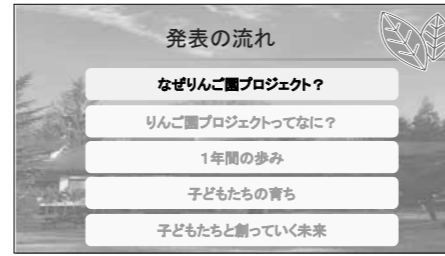
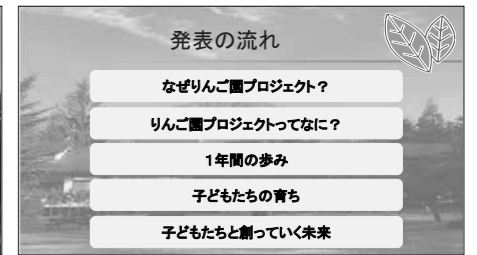
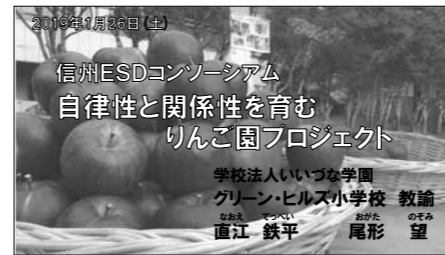
もし自分が難民になっておなかいっぱい食べられず家財も失くさず、おびえてくらすことになると思うと、こわいし、悲しいし、つらいし、大変だと思いませんか。たくさんのお洋服が運ばれてきたら、きっとみんな笑顔になるだろうと思いませんか。だから、回収ボックス作りや回収するためのポスター作りをがんばり、当番もがんばることができました。

-4-

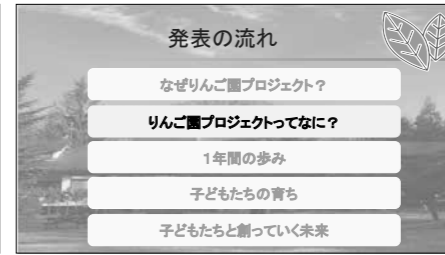
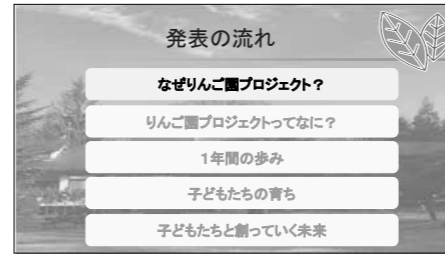




# 学校法人いづな学園グリーン・ヒルズ小学校



活動目標	活動要点
①2017年度からの経験を活かして、りんご園プロジェクトの活動に対し、自ら考え、自ら行動できるような児童の育成をする	・スタッフは子どもたちが「自ら考え、自ら行動」できるような児童の育成をする。 ・月間の見直しをこまめに伝え、経験してきたことを思い出せるように継承を工夫するなどの支援を徹底する。
②新たな仲間を認め、認めあい、働きあえる関係性を丁寧につくる	・「いぬカード」の充実と継続に取り組む。 ・トーキングサークルを活用して、丁寧に働きあえる関係を構築して実践する。 ・継続してりんご園プロジェクトに取り組む子どもたちが作業一つひとつのつながりやと結びつきを感じ取り取り組めるよう工夫する。
③子どもたちの「深い追究・思考」を支援する工夫に努める	・りんご学習の深まりを目指し、学年や発達に応じた知識・探究・思考それぞれの段階を踏んだ学習に取り組む。



りんご園プロジェクトでは、みんなで協力して、おいしいりんごを育てます。

私たちがだからこそできる、わくわくする体験をたくさんします。

いつからはじまったの?

4年前(2015年)から、農家の林さんのりんご畑で、希望者が栽培体験をすることがきっかけで始まり、2017年から小学生全員がプロジェクトになりました。

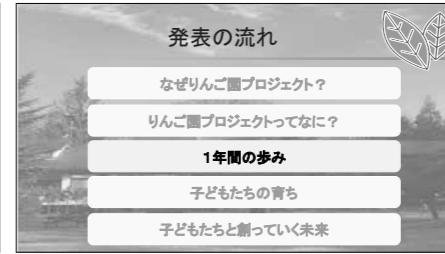
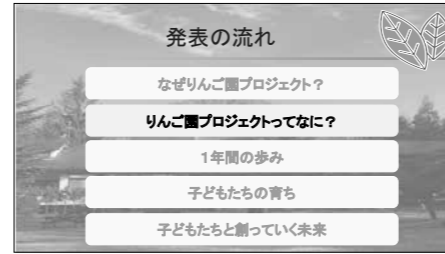
りんご園ってどんなところ?

- ・芋井地区の広瀬というところにあります。
- ・自然がいっぱいあって、景色もいいところです。
- ・8本の木のお世話をします。

だれがやっているの?

小学生のみんなが協力してやっています!

中学生のみんな  
おうちの人  
農家の方  
地域のみなさん  
他のプロのみなさん



1年間りんごを育てる



## V 校外から回収 ～11月22日<横道紙>

私たちは難民に関する本を読んで、もっとたくさんのお金を集めたいと思います。なので、保育園や園児さんなどの場所で回収することにしました。

まず、園長先生や指導者の先生にお願いをして、回収しました。

<横道紙をさす>  
このようなプリントを作って、配ったりもしました。

集めさせていただいた場所は、聖母幼稚園、ちの保育園、中央保育園、ひまわりプラザ、0-1-2-3、赤羽公民館、園児さんでは、パープルチーム「茅野ウイングス」、ダンスグループ「ジュエダ」です。

そのようにして、校外でも子ども服を回収しました。あまり集まらないだろうと思っていただけけれど、とてもたくさん集まりました。うれしかったです。

## VI ユニクロ茅野店にて回収 11月11日<日>

11月11日にユニクロ茅野店でも回収してもらおうことが決まりました。その日に向けて、ユニクロにはってもらうポスターを作りました。また、チラシを作って、チラシ配りをするようになりました。1200枚ほどのチラシを印刷し、みんなで手分けして色めりしました。

当日は行かないメンバーで、看板作りをしました。たくさんの子も服が集まるという思いがありました。

回収する服のサイズ 赤ちゃん～160cm  
回収する時間 午前10:00～午後9:00(雨天決行)  
回収場所 ユニクロ 茅野店  
回収しない物 下着小物ほつれ品等  
回収する日 11月11日(日)

前日の11月10日に、西友様内店に行き、女子7人でチラシ配りを行いました。

<演技> 「永明小5年1部です。いらなくなった子ども服を明日ユニクロで回収します。ご協力、お願いします。」と書いてながら、チラシを配ります。

1時間早く配り終わって、50枚ほどを準備することができました。よく途中でチラシ配りをしていいますが、実際に自分が体験してみると結構つらい仕事だということがわかりました。

北本市から来た親御さんの方に、チラシを渡して説明しました。「とてもいい活動をしていますね。」と声をかけてくれました。私は嬉しかったです。「みなさんは難民の人たちを助けてあげたいという気持ちがあるけれど、どう助けてあげたらいいかわからないんだ。」ということも、なので「服の手カラ」プロジェクトなどの活動をもっと広めて、いろいろな人に知ってもらいたい。そうしたら、もっと多くの難民が笑顔になると思います。

11月11日、ユニクロ茅野店で回収をしました。

ぼくは、自動ドアを入ったところで来たお客さんに子ども服回収について説明しました。

<ポスターを持って演技>  
「ぼくたちは永明小学校の5年1部です。世界には、難民となつて毎日の着る物にも困っている方が6万5千人くらいいます。その半分が子どもたちです。3万人をこえる、困っている子どもたちに服を送ることで、少しでも笑顔になってもらいたいと思って、今まで服を回収してきました。ご協力をよろしくお願いします。」

ぼくはチラシを配りました。チラシは少し大目に、かつちゃんとかわりやすく説明できるようにしました。チラシを渡すコツがわかりました。

ユニクロでポスターを渡したりチラシを受け取りたりして、子ども服を届けてくださった方が大勢いました。中でも「昨日、西友で目をキラキラさせた女の子からチラシを受け取りました。とても素敵な活動なので、少しでも協力できればと思って、持ってきました。」とおっしゃった女性の自動車には、何と大小合わせて13箱のダンボールにいったいの子も服が詰められていました。

西友にチラシを配りに行ってよかったと思いました。そして、みんなで取り組んできた活動が多岐の人の心を動かしていることもわかりました。



## VII 子ども服発送 11月28日<水>、30日<金>

今まで回収してきた子ども服を11月中に発送するので、みんなで協力して仕分けを行いました。総合の時間だけでなく、朝や2時間目の休み時間にも、集まった子ども服を数えて箱詰めをしました。係は決まっていなくても、自分たちで気づいて動き出している人たちがいました。「わたしも手伝わせ!」「一緒にやろう」と声をかけあい、その輪が大きくなっていきました。

<子ども服仕分けの演技>  
「ズボン1、赤ちゃん1、…」と仕分けして箱詰めする人とメモをとる人  
<ダンボール箱を持ち上げて>  
この大きなダンボール箱に詰めていきました。いっぱいになったダンボール箱を放送室のスタジオに運びました。箱の数を数えたら、40箱ありました。みんなで作った服には、思いが込められているので、なん民の人に服が届き、その人たちが笑顔にすることができると信じています。

ぼくたちが集めた服を難民の人たちが喜んで着てくれたら、もっとうれしです。全員で協力して、難民の人たちのためにがんばりました。

大体つめ終わったところで、子ども服の集計をしました。11月28日(水)までに合計4199枚の子も服が集まりました。

今までに、服を持ってきてくれた人たちに感謝をしたいと思います。

私たちの活動に協力してくださった方が大勢いました。

※内訳 上着…1910枚、ズボン…1112枚、帽子…1682枚、靴…376枚

ダンボール箱を全部ミニコンテナルームにならべてみました。40箱のダンボールは迫力がありました。



<演技> 発送先の宛先カードをはり、ガムテープでふたをしました。

<演技> ダンボール箱を玄関まで、みんなで協力して運びました。トラックに入れて、見送りました。

今までたくさんの人たちに協力してもらったことがわかりました。

## VIII お礼、学んだこと、今後のこと

1 学んだこと  
このプロジェクトに参加して、一人ではできないことでも、みんなで協力することによって、大きいことができることが学べました。

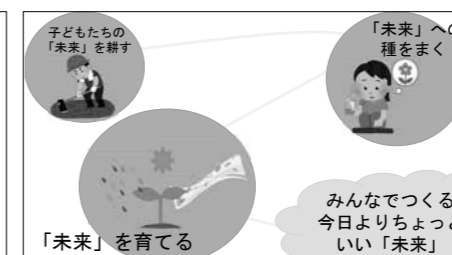
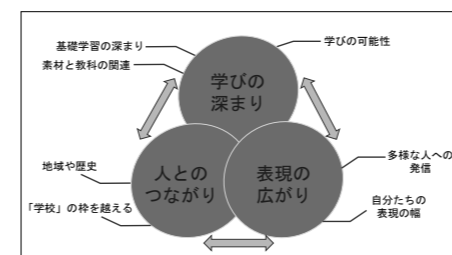
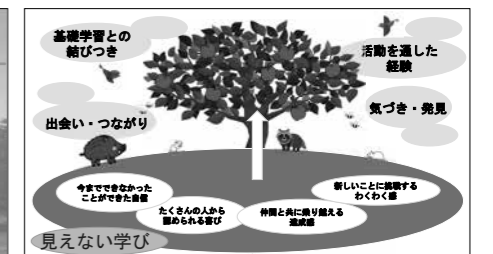
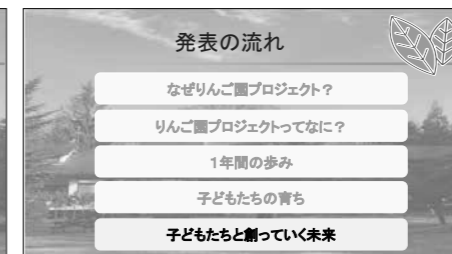
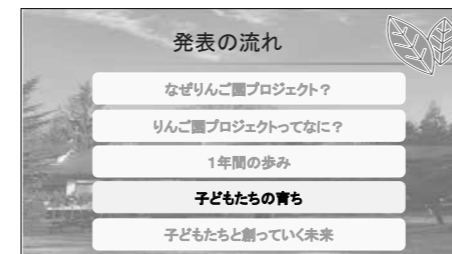
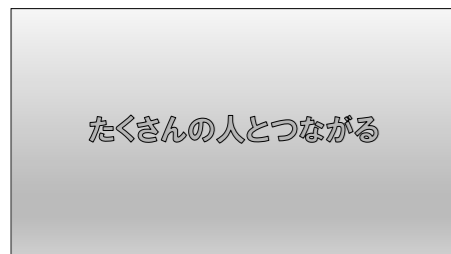
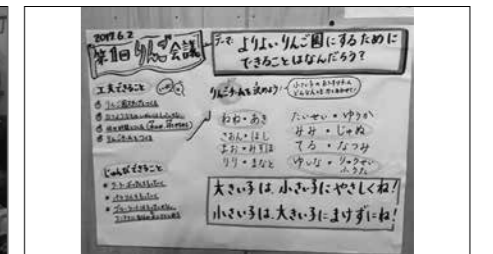
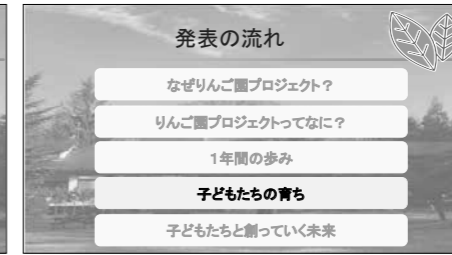
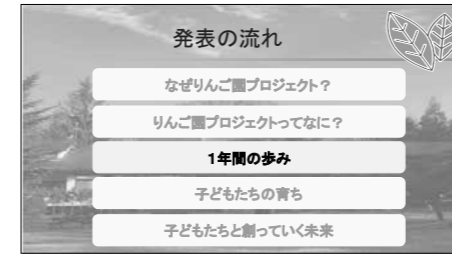
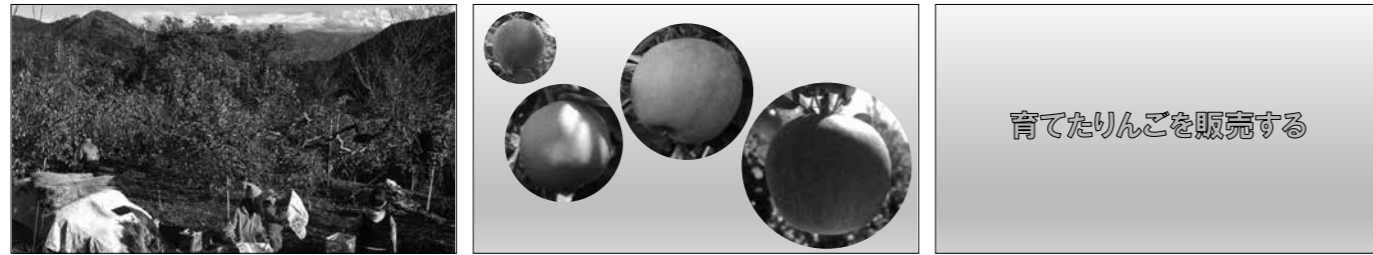
2 お礼  
校外でも子ども服回収をさせてもらい、たくさんのお金を集めることができました。校外での回収で、一気に服が多く集まり、仕分けが大変でした。けれど、その分、難民の人たちに服を届けることができました。

たくさんのお金を集められたのは、みなさんのおかげです。

3 今後のこと  
この活動が終わっても、ごはんは残さず食べ、家族や友だちを大切にしたいです。ユニクロに行く時には、大人の服でもいいので回収ボックスに入れてほしいです。そして、少しでも多く、難民の人たちに服を送り、笑顔届けたいです。

これからは、ちよつとずつでも世界中が笑顔で笑ってくださるためにはどうしたらいいのかわかることを考えたいです。そして、実行するためには何が必要かということも考えて、より良いらしにしていきたいです。

子ども服を届けてくださったみなさんに、感謝しています。ご協力ありがとうございました。



作業日	準備物	作業日	準備物	作業日	準備物	作業日	準備物	作業日	準備物	作業日	準備物	作業日	準備物	作業日	準備物	作業日	準備物																														
4/17...知覚 4/24...りんご会議 5/22...摘果作業 5/29...摘果作業	・農産物用カップ ・手袋、マスク ・ゴーグル ・帽子 ・農産物用カッター ・深層洗浄機 ・水の導入を確保	4/28 りんご説明会 2018目標発表	・りんご ・りんご ・りんご	5月	りんご収穫 りんご収穫 りんご収穫	摘果作業① 摘果作業②	・りんご ・りんご ・りんご	6月	りんご収穫 りんご収穫 りんご収穫	摘果作業③ 摘果作業④	・りんご ・りんご ・りんご	7月	りんご収穫 りんご収穫 りんご収穫	摘果作業⑤ 摘果作業⑥	・りんご ・りんご ・りんご	8月	りんご収穫 りんご収穫 りんご収穫	摘果作業⑦ 摘果作業⑧	・りんご ・りんご ・りんご	9月	りんご収穫 りんご収穫 りんご収穫	摘果作業⑨ 摘果作業⑩	・りんご ・りんご ・りんご	10月	りんご収穫 りんご収穫 りんご収穫	摘果作業⑪ 摘果作業⑫	・りんご ・りんご ・りんご	11月	りんご収穫 りんご収穫 りんご収穫	摘果作業⑬ 摘果作業⑭	・りんご ・りんご ・りんご	12月	りんご収穫 りんご収穫 りんご収穫	摘果作業⑮ 摘果作業⑯	・りんご ・りんご ・りんご	1月	りんご収穫 りんご収穫 りんご収穫	摘果作業⑰ 摘果作業⑱	・りんご ・りんご ・りんご	2月	りんご収穫 りんご収穫 りんご収穫	摘果作業⑲ 摘果作業⑳	・りんご ・りんご ・りんご	3月	りんご収穫 りんご収穫 りんご収穫	摘果作業㉑ 摘果作業㉒	・りんご ・りんご ・りんご

### 信州大学教育学部附属松本中学校

平成30年度  
信州大学教育学部附属松本中学校  
2019.1.26

## 信州ESDコンソーシアム



信州大学 ©2019 shinshu-university junior high school

本日の発表

- 1 はじめに
- 2 ESDの実践
- 3 まとめ

信州大学 ©2019 shinshu-university junior high school

平成30年度  
信州大学教育学部附属松本中学校  
2019.1.26

学校目標  
たくましく心豊かな地域貢献

全校生徒 477名  
1学年 4クラス  
2学年 4クラス  
3学年 4クラス

通学区  
茅野 諏訪 岡谷  
塩尻 松本 安曇野

2011年  
県下初の  
ユネスコスクールに認定

信州大学 ©2019 shinshu-university junior high school

平成30年度  
信州大学教育学部附属松本中学校  
2019.1.26

2年A組

松本山雅

地域貢献という  
大きな柱

食グループ  
山雅グループ  
名所グループ

信州大学 ©2019 shinshu-university junior high school

平成30年度  
信州大学教育学部附属松本中学校  
2019.1.26

名所グループ  
山雅グループ

縄手に入り込む  
松本山雅FCの方に話を聞く

まつもとかえる  
祭りでブースを  
やることに

協力

ホームタウン  
活動で協力する  
ことに

信州大学 ©2019 shinshu-university junior high school

平成30年度  
信州大学教育学部附属松本中学校  
2019.1.26

食グループ  
山雅グループ  
名所グループ

集大成へ

信州大学 ©2019 shinshu-university junior high school

平成30年度  
信州大学教育学部附属松本中学校  
2019.1.26

2年B組  
古くても新しい松本城を

松本城とその城下町を  
中心に街おこしの活動  
を行っています。

信州大学 ©2019 shinshu-university junior high school

平成30年度  
信州大学教育学部附属松本中学校  
2019.1.26

発信グループ  
観光グループ  
発展グループ

イベント  
グループ

国宝松本城を  
世界遺産に

信州大学 ©2019 shinshu-university junior high school

平成30年度  
信州大学教育学部附属松本中学校  
2019.1.26

活動の目標  
地域とつながり、地域をよりよく、地  
域の魅力を発信する。

2017年の夏休みにみんなで松本の魅力を一人一人ポスター  
にまとめました。

私たちが注目したのは、

# 味噌

信州大学 ©2019 shinshu-university junior high school

平成30年度  
信州大学教育学部附属松本中学校  
2019.1.26

老師の味噌屋さんの指導を受けて...

2018年1月 初めての味噌の仕込み

信州大学 ©2019 shinshu-university junior high school

平成30年度  
信州大学教育学部附属松本中学校  
2019.1.26

私達の活動は、ESDのあらゆる考え方に当てはまります

味増を深める4+1のテーマ

信州大学 ©2019 shinshu-university junior high school

平成30年度  
信州大学教育学部附属松本中学校  
2019.1.26

信州大学 ©2019 shinshu-university junior high school

平成30年度  
信州大学教育学部附属松本中学校  
2019.1.26

ABMORIIに参加しました!

ABMORII 2018

信州大学 ©2019 shinshu-university junior high school

平成30年度  
信州大学教育学部附属松本中学校  
2019.1.26

ABMORIIによる植樹

ピザ窯

信州大学 ©2019 shinshu-university junior high school

平成30年度  
信州大学教育学部附属松本中学校  
2019.1.26

信州大学 ©2019 shinshu-university junior high school

平成30年度  
信州大学教育学部附属松本中学校  
2019.1.26

信州大学 ©2019 shinshu-university junior high school

まとめ

地球市民としてできること、そして・・・

信州大学 ©2019 shinshu-university junior high school

# 信州大学松本キャンパス環境学生委員会

信州大学松本キャンパス環境学生委員会  
(構成人数) 1年生38名、2年生6名、3年生7名

活動内容の内訳

- 松本キャンパスはユニット制をとっており、3つのユニットに分かれて活動しています
- ユニット活動とは別に、松本キャンパス全体で行う活動もあります
- また、全キャンパス共通で行っている活動もあります
- 全てを紹介することは出来ないため、一部抜粋してご紹介します

全キャンパス共通の活動  
(構成) 松本キャンパス、工学部、教育学部、農学部、経済学部

第12回環境マネジメント全国学生大会

- 時期: 8月
- 場所: 信州大学経済学部 (毎年異なる)
- 目的: 他大学の環境団体と交流することで互いの環境意識を向上させること
- 方法: 分科会やキャンパスツアー、活動紹介を行う

エコプロ2018

- 時期: 12月
- 場所: 東京ビッグサイト
- 目的: 信州大学の環境活動を外部に紹介するとともに、企業や他大学の活動を拝見し、今後の活動の糧にする
- 方法: ブースの展示、見学  
今年は木のワイズを実施

全体活動

エコバッグの配布 (4月)

- 毎年新入生に配布しています
- デザインは公募して決定しています

キャンダルナイト in MATSUMOTO(6月)

- エコネットまつもとさん (環境団体) のお手伝いを行いました
- 今後もエコネットまつもとの活動に参加する予定です
- ※これは別に、松本市役所と提携したキャンダルナイトを、環境教育ユニットで行っています

古紙回収 (通年)

- 松本キャンパスにある講義棟全てで行っている取り組みです
- 回収はユニットごとに行っています

ユニット活動

環境教育ユニット～水質調査～

- 時期: 6月
- 場所: 大学周辺の川、大学広場
- 目的: 新歓、身近な場所の水質を調査することで、環境活動の重要性を伝えること (環境活動とは何かを考えるきっかけ作り)
- 方法: COD試験 (Chemical Oxygen Demand)

環境教育ユニット～自然のきらめき～

- 時期: 8月
- 場所: 信州大学理学部
- 目的: 未来の信大生への環境教育
- 方法: 電車をいじりこみ分別ゲーム

環境教育ユニット～安曇野環境フェア～

- 時期: 10月
- 場所: 安曇野市
- 目的: 委員会の外部の方との交流を通じて、場所について新たな見識を会得し、また一方では環境啓蒙を行う
- 方法: 自然のきらめきと同様

びかるユニット～女鳥羽川ゴミ拾い～

- 時期: 5月
- 場所: 大学周辺の川 (女鳥羽川)
- 目的: 新歓、環境活動による地域貢献
- 方法: 川辺でゴミを拾い歩く

びかるユニット～不要食器回収～

- 時期: 9月
- 場所: 市内の公民館
- 目的: 家庭で処分しかねている食器を回収し、再配布やリサイクルに回すこと
- 方法: 窓口受付と食器の運搬にて貢献

びかるユニット～リサイクル市～

- 時期: 2月 (予定)
- 場所: 信州大学食堂
- 目的: 地域の方との交流および、リサイクルの促進
- 方法: 不要品の回収、販売

### バガスユニット～バガスマーゴットの堆肥化～

バガスマーゴット（サトウキビの殻がから作られた容器）を土に還します  
農家さんの土地をお借りして行っています





画像引用  
http://www.fukurumall.com/shopdetail/00000001088/

### バガスユニット～農家さんのお手伝い～

土地を貸してくださった農家さんのお手伝いをしています  
ブドウのかきかけをしました  
意外と大変な作業です



### バガスユニット～グリーンカーテン～

ゴーヤと朝顔を植えました  
昨年度よりも大幅に成長しました  
現在は季節上一時中止しています



### バガスユニット～土の配布など～

堆肥化した土をリサイクル市で配布する予定です  
また、堆肥化した土を使った野菜作りなども考えています




ご静聴ありがとうございました。



## Faculty of Education, National University of Laos ラオス国立大学教育学部

### Eco-health education in Lao PDR



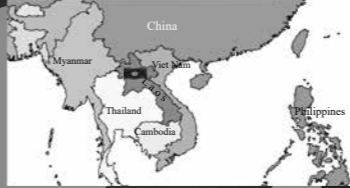
Assoc. Prof. Nguay KEOSADA (Ph.D)  
Vannasouk BOUASANGTHONG  
Faculty of Education, National University of Laos

### Outline of presentation


1. General information
2. Education system
3. What is eco-health?
4. Achievements
5. Challenges
6. Future plan

### 1. General information

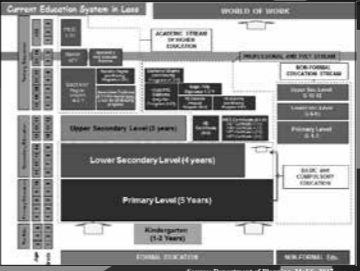
Physical Geography: Landlocked country bordering 5 countries  
China, Myanmar, Thailand, Cambodia, Vietnam



### General information (cont.)

Population: 6,492,228 (Lao Statistics Bureau, 2015)  
Area: 236,800 km<sup>2</sup>  
Capital: Vientiane  
Landscape: 80% mountainous terrain  
Climate: 2 seasons – rainy and dry season  
Religion: 64.7% Buddhist, 31.4% Ghost, 1.7% Christian, and 2.1% not stated (Lao Statistics Bureau, 2015)  
Official language: Lao  
Administrative divisions: 17 provinces and 1 capital city  
GDP per capita: US\$ 2,408 (Lao Statistics Bureau, 2017)  
Flag: 

### 2. Education system




Source: Department of Planning, MOP, 2017

### 3. What is eco-health?

▶ The key notion of eco-health is that human health is determined by social environment and ecosystems.

▶ So that, eco-health is an approach that intend to build harmonious and sustainable relationship between ecosystem, human livelihood,

### Basic concept of eco-health



### Objectives of eco-health education

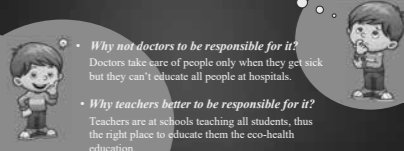
- Knowledge (Inter-relationship between livelihood, human behavior, ecosystem and human health)
- Attitude (Environmentally friendly)
- Practice (Consider and act for keeping good relationship (balance) between environment, ecosystem, social development and, human health and life)

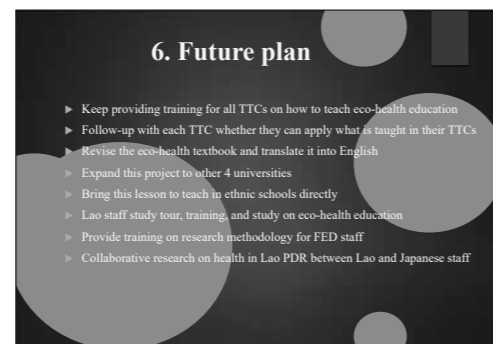
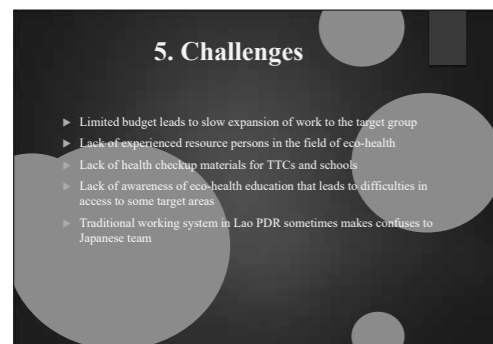
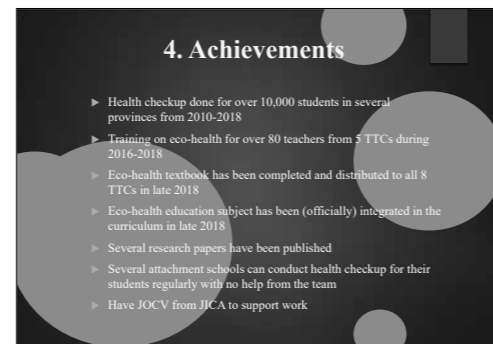
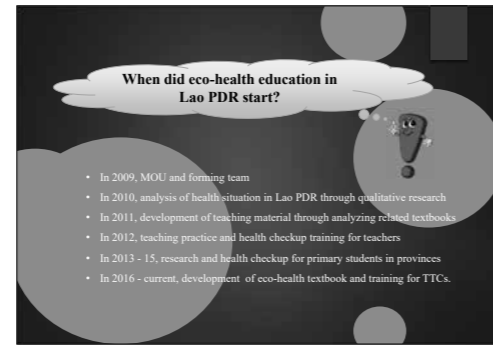
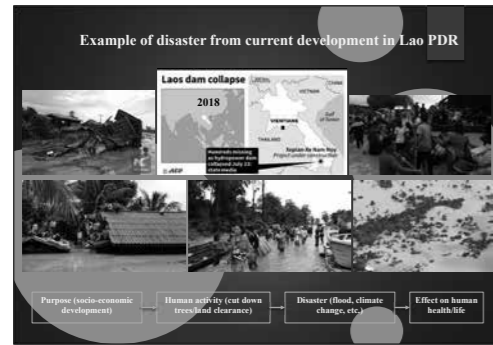
### Why is eco-health presented to Lao PDR?

- Rapid socio-economic growth bring massive changes that affect human health, but people have a lack of awareness of negative effects from development
- Health and environmental issues become serious
- New concept that builds harmonious and sustainable relationship between environment, human livelihood, and human health
- To bring knowledge to action

### Who will teach eco-health education?

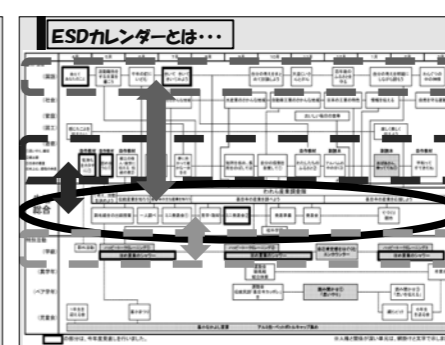
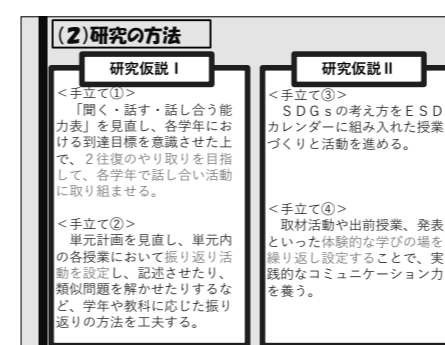
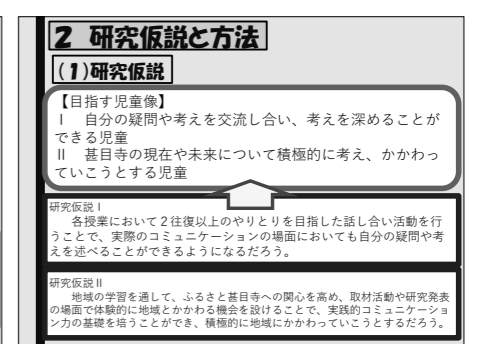
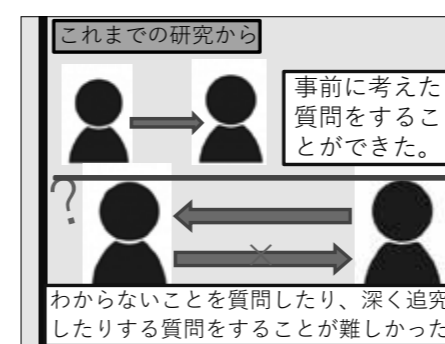
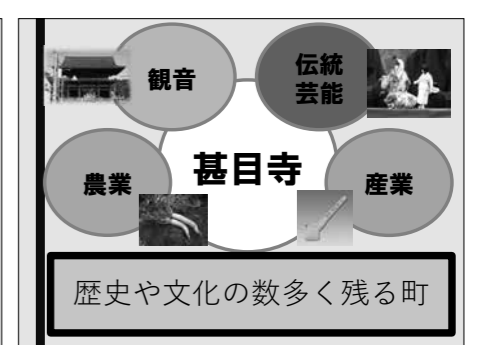
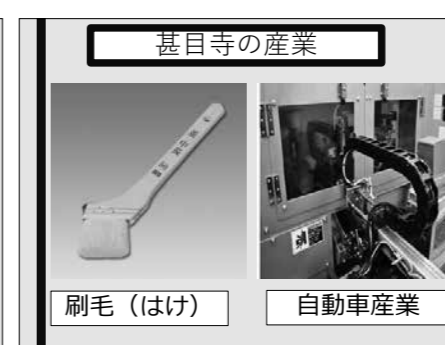
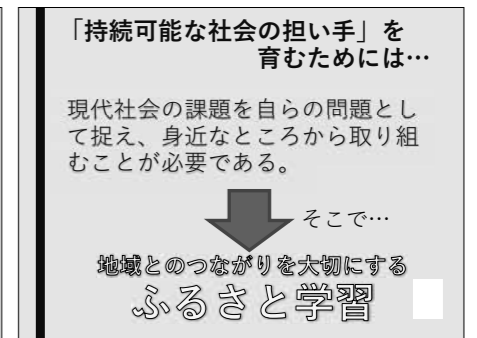
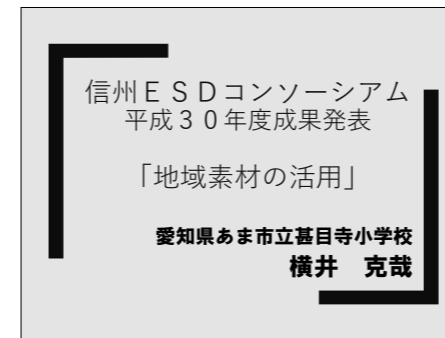
- **Why not doctors to be responsible for it?**  
Doctors take care of people only when they get sick but they can't educate all people at hospitals.
- **Why teachers better to be responsible for it?**  
Teachers are at schools teaching all students, thus the right place to educate them the eco-health education.





<ワークショップ>

愛知県あま市立甚目寺小学校



### 3 実践内容

4年生  
2往復以上のやりとりを意識した話し合い活動

5年生  
振り返り活動

2年生  
低学年の実践

#### (1) 4年生 社会科「命とくらしをささえる水」

単元「命とくらしをささえる水」

3 すべての人に健康と福祉を

6 安全な水とトイレを世界中に

1時～3時 自分たちやあま市ではどれだけ水を使っているのか

4時～8時 浄水場の役割、自分たちの生活が思われているのか

9時・10時 安全な水を大切に使うために、自分たちができることは何か

【各グループ発表】

【グループでの話し合い】

児童の振り返り

・ 質問をする際には、「いつ」「どこで」「だれと」「何を」「なぜ」を意識すればいいことがわかりました。

単元の終末：友達に知らせたいことの発表

なぜさつまいもを観察したのですか？

それはいつですか？

だれと行きましたか？

「いつ」「どこで」「だれと」「何を」「なぜ」を意識して質問する姿が見られた。

#### 4 成果と課題

##### (1) 成果

- 個人、グループで考え、それをもとに学級全体で話し合いを進めることで、双方向のやりとりをすることができた。
- 単元を通して振り返り活動を行うことで、問題意識をもって主体的に学習に取り組むことができ、国語科で学習したことを生かすことができた。

#### 3班の考え

【考え】あまった水を再利用する(水のリサイクル)

【理由】水不足をふせぐため

A児 リサイクルはどうやってするのか？

B児 雑巾などを洗い終わった水を、花の水やりに使ったり、プールの水を生き物を飼うときに使ったりする。

C児 さっき、生き物を飼うという答えが出ていましたが、水道水では生き物は死んでしまうのでは？

B児 それは考えていませんでした。

T児 では、C児だったらどうする？

C児 余った水だったら僕は流す。浄水場できれいな水に変えていると思っているから流している。

D児 流すと言ったけど、浄水場の人が大変ではないですか。たくさん流すと手間もかかるし、量が多くなると思う。

C児 でも、今日のめあては、「安全な水を大切に使うために」ですから、一回使った水は菌が付いているから、安全とは言えるのですか。

個人

グループ

学級全体

【個人】「グループ」「全体」と段階を踏むことで2往復以上の話し合いをすることができた。

#### (2) 課題

- 取材活動で、話を聞いて質問したり、その場で切り返して質問したりすることが難しいと感じている児童が多かった。
- 授業で友達と双方向のやりとりはできているが、地域の方との双方向があまりできていない。

甚小ナリジナルキャラクター「じんちゃん」

ご清聴ありがとうございました。

#### (2) 5年生 国語科「きいて、きいて、きいてみよう」

第4時

「話し手」「聞き手」「記録者」の役割とポイントを確認

インタビュー活動

相手の目を見て質問したり、相づちを打ったりしながら話を聞くことができた。

話し手の手記

聞き手の手記

記録者の手記

児童の振り返り

- 「〇〇さんがとてもつけ足しをしていたので、すごかった。」
- 「みんな敬語でわかりやすかった」

良いところをみつけることができた。

「もっと、もっとつけ足しの質問をする」

次時以降のめあてを明確にすることができた。

自身の課題を明確にして学習を進めることができた。

#### (3) 5年生 総合 産業取材活動

【工業】

石光工業 (車部品)    アイカ工業 (樹脂製品)    佐藤工業 (車部品)

【商業】

刷毛組合 (刷毛)    龍鳳堂 (線香、ろうそく)

伊藤堂店 (畳屋)    とくら総本店 (和菓子)    樹文製菓 (和菓子)

【農業】

JA    ほうれん草農家    方領大根農家

佐藤工業

プレートバルブポデー

一番大きいプレートバルブポデーには、穴は何個ありますか？

300個くらい

なぜ300個でないといけないのですか？

深く掘り下げる質問をすることができた。

#### (4) 5年生 総合学習発表会

伝統野菜を守っていききたい

小松菜・方領大根農家

佐藤工業

双方向のやりとり

事前に発表後の質問を幾つか予想

国語科で学習した掘り下げた質問に対する応え方

感想に対して返答をしたり、その場の状況に応じて、やり取りをしたりすることもできた

#### (5) 2年生 国語科「こんなの、見つけたよ」

聞く・話す・話し合う能力表

話を聞いて、疑問や感想をもつことができる

友達書いた日記の内容を質問を通して考える実践

①何も見せずに質問

②日記の内容の絵を見せて質問

どこにいましたか？

ルネサンスです。

グループでも質問を考えた。

あま市立基目寺小学校

あま市立基目寺小学校

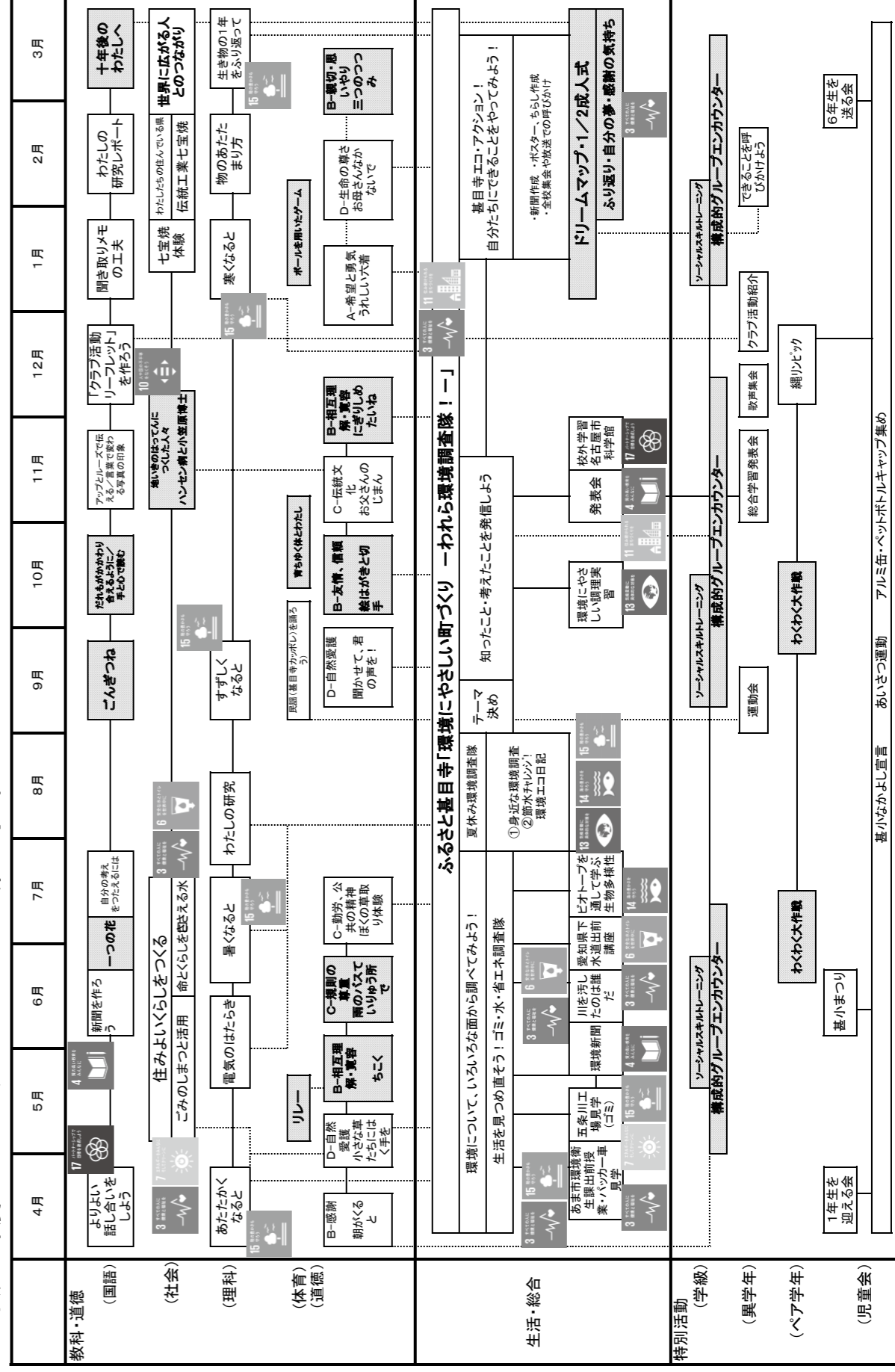
【資料2】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
話を聞く姿勢	話し手の方に体を向けて聞くことができる。	話し手の方に体を向けて、顔を向けて話を聞くことができる。	話し手の方に体を向けて、顔を向けて話を聞くことができる。	話し手の方に体を向けて、顔を向けて話を聞くことができる。	話し手の方に体を向けて、顔を向けて話を聞くことができる。	話し手の方に体を向けて、顔を向けて話を聞くことができる。
聞き取り方	話を聞いたら、質問したり、感想を書いたりすることができる。	話を聞いたら、質問したり、感想を書いたりすることができる。	話を聞いたら、質問したり、感想を書いたりすることができる。	話を聞いたら、質問したり、感想を書いたりすることができる。	話を聞いたら、質問したり、感想を書いたりすることができる。	話を聞いたら、質問したり、感想を書いたりすることができる。
メモの取り方	最後まで話を聞くことができる。	大事なことを落とさずに聞くことができる。	話の中心に気を付けて聞くことができる。	話の中心に気を付けて聞くことができる。	話の中心に気を付けて聞くことができる。	話の中心に気を付けて聞くことができる。
話をする姿勢	聞き手の方に体を向けて話すことができる。	聞き手の方に体を向けて話すことができる。	聞き手の方に目を向けて話すことができる。	聞き手の方に目を向けて話すことができる。	聞き手の方に目を向けて話すことができる。	聞き手の方に目を向けて話すことができる。
社会言語能力 (TPOに応じて言語を適切に理解し、使用するための能力)	大きな声で話すことができる。	みんなに聞こえる声で話すことができる。	構面に合った、声の大きさや速さに気を付けて話すことができる。	話す速さや強弱、間の取り方などを工夫し、大事なことが伝わるよう話すことができる。	声の大きさや強弱、間の取り方などを工夫し、大事なことが伝わるよう話すことができる。	声の大きさや強弱、間の取り方などを工夫し、大事なことが伝わるよう話すことができる。
話し能力 (話の内容の構成力)	話し合いの進め方を決める。	話し合いを進める人を決める。	話し合いの進め方を決める。	話し合いの進め方を決める。	話し合いの進め方を決める。	話し合いの進め方を決める。
話し合う「やり取りする」	互いの話を注意して聞き合い、話題に沿って話し合うことができる。	互いの話を注意して聞き合い、話題に沿って話し合うことができる。	互いの話を注意して聞き合い、話題に沿って話し合うことができる。	互いの話を注意して聞き合い、話題に沿って話し合うことができる。	互いの話を注意して聞き合い、話題に沿って話し合うことができる。	互いの話を注意して聞き合い、話題に沿って話し合うことができる。
表現方法の工夫	自分の意見に理由を添えて発表することができる。	自分の意見に理由を添えて発表することができる。	自分の意見に理由を添えて発表することができる。	自分の意見に理由を添えて発表することができる。	自分の意見に理由を添えて発表することができる。	自分の意見に理由を添えて発表することができる。

平成30年度ESDカレンダー

第4学年

あま市立基目寺小学校



※入権と関係が深い単元は、網掛けと太字で示しました。





# 名古屋市立名東高等学校

(3) 地域の発電施設について調べよう

① 身の回りがある風力・太陽光発電 新香山中8 にまとめる

太陽光発電や風力発電に興味をもち始めた生徒は、身の回りにはないだろうかと考え始めた。そこで、夏休みの5ヶ月を利用して、太陽光や風力が使われている所を探し「Denki de GO!」を実施した。夏休み明けには、学級で一枚の大きなマップへまとめた。すると、地域の中にはメガソーラーほどではないけれど大きな発電施設があることに気付いた。

(4) 太陽光発電について調べよう

① 火力発電と太陽光発電のメリット・デメリットを比較する。

「火力発電は、メリットも多いけれどいずれ資源が無くなってしまう。太陽光発電は、発電量が少ないことや昼間しか発電できないけれど、未来までつなげる発電方法だ。」

再生可能エネルギーの可能性を見つめた子どもたち、太陽光発電について知らないことが多くあるため、太陽光発電業者の方を招きより詳しく話を聞いてみることにした。

② 太陽光発電を設置する業者の方にインタビューをする。

「太陽光発電は、これからもっと広がっていきますか?」「設置する場合に自然を傷つけていることはないですか?」

「電気を買う仕組みが今、大幅に見直されていて、業者が積極的に太陽光を広めていくこうとするのは、これからは少なくないと思う。企業なので利益を得ることは優先されている。会議の中ではあまり自然のことを大切にしたいという声は出てこない。」

太陽光発電こそ、未来の豊かな暮らしを守る救世主であると考えていた子どもたちにとって、驚きの答え返ってきた。何より、自分たちがこれまで大切にしてきた自然環境を脅かす可能性があることを受け、戸惑う子どもたち。そこで、太陽光発電が今後広まってくることに對して賛成か反対か、どちらかの立場に立って話し合いを行った。

(4) 地域へライトダウンキャンペーンを呼びかけよう

① なるべく電気に頼らずに生活している方にインタビューする。

「自然を壊しても、利益を追求する大人に未来を任せておいてはいけないんじゃないか。」

「自然を破壊しているという事実はあるけれど、火力に頼っていたら、いずれ昔の生活に戻るようなときがきてしまうのではないか。」

行き詰ってしまっていた生徒の中には、使い方を変えるのも一つの方法ではないかと考え始めた。そこで、岡崎市内でなるべく電気がない生活をしよう、地域にある間伐材を利用して、エネルギーの自給自足を目標としている方の話を聞くことにした。

「今の私たちの生活は、未来に付けを回してしまっている。発電方法を検討するもとても大切なことだけれど、使う量をいかに減らしていくか大切なことだよ。」

自分たちと同じ志をもって生活している唐澤さんの言葉に、子どもたちは驚きへと動き始めた。

② 地域へライトダウンキャンペーンを呼びかける。

「なるべく多くの効果を得るためには、地域に呼びかけよう。」

地域を巻き込んだ、節電を計画し実行に向けて繰り返し話し合いを行った。目に見えて効果が出るような方法を選び、8時からの3分間室内の全ての照明を消すことを実行しようと考えた。学区全ての家庭へ手作りのチラシを配り、当日に向けて準備を行った。

ライトダウンキャンペーン当日、近くの友達と集まり各家庭の様子を見て回った。アンケートの結果学区全域で649軒の方が協力をしてくださった。

この活動を終えて、本学級の生徒は以下のような感想を残した。

4 おわりに

本実践は、まだ実践の途中である。たくさんの人と出会い、その声を聞いたことで自分事へと近づき、生徒が真剣に考え、動き出す姿が見られた。今回学習している課題の解決の糸口さえ見えなかもしれないけれど、仲間と共に果敢に立ち向かっていくと決意を込めて願っている。

信州ESDコンソーシアム  
(平成30年度成果発表&交流会)

「世界中どこでも役立つ人になろう」  
～名東高校のホールスクール・アプローチ～

名古屋市立名東高等学校 板垣真由美 高橋秀和

ホールスクール・アプローチとは

➢ 学校全体でESDを浸透させていく方法  
学校が「まるごとESD」  
「どこをとってもESD」

出典: 永田佳之・菅長幸代(2017)新たな時代のESD サスティナブルな学校を創ろう 世界のホールスクールから学ぶ 明石書店

名東高校では名東版ESDこそが私たち  
教職員の活動の根っことなる共通理念



名東高校の概略

- 1984年創立
- 1学年360名(普通科8・国際英語科1)
- 国公立大学へ100名前後進学
- 海外の大学へ5名
- 今年度の留学生生徒 21名

名東高校のスローガン

世界に臨み 高さを求め 自ら歩む

Go global!  
Go higher!  
Go for it!

英語科から国際英語科へ

➢ 国際理解教育の充実  
➢ 全国的な英語科の人気低落への対策

- ① 海外修学旅行
- ② 姉妹校提携
- ③ 語学学習合宿の充実
- ④ 校内スピーチコンテストの外部公開
- ⑤ 地域国際交流計画

平成30年度 2年生総合的な学習の時間 単元計画			
「ぼく・わたしの未来予想図(キャリア学習)」「エネルギー問題について考え、自然環境との共生を目指す(環境学習)」			
日程	学びのサイクル	主な学習内容	課題追究のための手立て 4観点
1 学期			
4月18日	I 課題設定	オリエンテーション(学年始末)	①
4月21日	II 情報収集	授業参観	①
4月25日	III まとめ・表現	学年で決めた保護活動、学級でどのように取り組んでいくのか話し合う	①
5月2日	I 課題設定	オリエンテーション(学年始末)	①
5月9日	II 情報収集	私たちの生活にもたらした電力とその役割について考える	②
5月16日	III まとめ・表現	電気がつくられる仕組みについて興味をもち、調べ始める	②
5月23日	I 課題設定	身近な職業という視点で、自分の将来について考える	②
5月30日	II 情報収集	電力・太陽光発電とは、どのような発電方法で電力を生み出すのか調べる	②
6月6日	III まとめ・表現	社会科を学んで、再生可能エネルギーによる発電の意義について考える	②
6月13日	IV まとめ・表現	社会科のまとめ	②
6月16日	I 課題設定	社会科で学んだ事業所の内の事業から、働くことについて考える	③
6月30日	II 情報収集	興味をもった職業の体験に向けて、準備を行う	③
7月4日	III まとめ・表現	パフォーマンステスト実施	③
7月18日	IV 情報収集	オリエンテーション	③
夏休み			
8月4日	I 課題設定	キャリアスクール講演会	③
8月11日	II 情報収集	職場体験学習	③・④
8月18日	III まとめ・表現	職場体験学習のまとめ	③
8月25日	IV 情報収集	電力・太陽光発電施設を見学する	④
2 学期			
9月20日	I 課題設定	Derki de GO!の結果をまとめる	②・④
9月26日	II 情報収集	火力発電と太陽光発電のメリット・デメリットについて考える	②・④
10月3日	III まとめ・表現	学校にある発電施設の見学をする	②・④
10月11日	IV 情報収集	太陽光発電についての学びから未来の豊かな暮らしについて考える	②・④
10月17日	I 課題設定	地域に目を向け、エネルギーを目標しようとする人を探る	②・④
10月24日	II 情報収集	エネルギーについて勉強に取り組んでいる方を探し、話を聞く	②・④
10月31日	III まとめ・表現	これから目指していく社会について考える	②・④
11月7日	IV 情報収集	自分たちが考えるこれからの社会、そして具体的な共生社会をまとめ、発表する	②・④
11月14日	I 課題設定	自分たちが考えるこれからの社会、そして具体的な共生社会をまとめ、発表する	②・④
11月21日	II 情報収集	自分たちが考えるこれからの社会、そして具体的な共生社会をまとめ、発表する	②・④
11月28日	III まとめ・表現	パフォーマンステスト実施	②・④
4観点・・・①課題設定能力 ②問題解決能力 ③学び方、ものの考え方 ④学習への主体的、創造的な態度			

国際英語科の誕生

- 2010年度から学科改編
- 育てたい生徒像は、「世界中どこでも役立つ人になろう!」
- ワールドスタディーズの実施
- 海外修学旅行(韓国or台湾)

ワールドスタディーズの実施

- 1・2年生でそれぞれ週1時間(1単位)(ワークショップの場合は2時間連続)
- オリジナルテキストを使用
- チーム・ティーチング(TT)
- 1年生の授業では、AIS(あいち国際理解教育ステーション)今枝明子さんとTT

ワールドスタディーズの目標

多様な文化が存在し、互いに関わり合う世界で、国際人として責任ある生き方をするのに必要な知識、姿勢、技能を身につける

ESDの理念や手法を導入

ESDは学校全体に広まったのか?

国際英語科だけのESD

- ワールドスタディーズは国際英語科内の一つの授業にすぎない!?
- 学校全体からバックアップが得られず
- ESDって何? 分かりづらい
- 関心が低く、学校全体へ浸透しない

ESDが浸透しなかった原因

- 社会全体におけるESDの認知度の低さ
- もともと国際英語科の取り組みを普通科にも広げるという構想はあったが... 学校全体の共通認識ではなかった
- 広報活動不足、他の組織との連携不足

国際英語科から学校全体へ①

- ESDに関するユネスコ世界会議の名古屋開催(2014年)
- アクティブ・ラーニングの普及
- 教育に関する動向の変化によって、ESDへの関心が高まる

国際英語科から学校全体へ②

- ユネスコスクールの認定(2014年)
- スーパーグローバルハイスクール(SGH)への参加構想
- 研究内容の中心に「ワールドスタディーズSGHへの参加に関わらず(のちに断念)、名東版ESDを模索していく
- ワールドスタディーズへの関心が高まる

ESDを推進するために

- ESD講座(2013~2015年) 年3回、教員向け、20名程度の参加
- ESDフォーラム(2014~2015年) 年1回、外部公開
- ESD「参加型の授業」「ファシリテーション」
- ESDとは「環境問題」

国際英語科から学校全体へ③

- ビジョン委員会(学校改革に取り組む組織)が主導
- 国際英語科の取り組みを、普通科にも広げたい
- 名東高校らしい取り組みの中で、自己実現のための学びを越えて、もう一つの学習動機を形成させたい

1. 2年国際英語科World Studies  
-外部とのつながりを生かした授業作り

▶ 授業づくり  
EPO中部、NIED(国際理解教育センター)

▶ 非常勤講師  
AIS(あいち国際理解教育ステーション)

▶ 講演依頼  
名古屋大学、南山大学、中部大学、愛知淑徳大学、JICA中部、NIC(名古屋国際センター)

▶ 協力依頼 各NGO・NPO団体/名古屋市立大学/名古屋ユネスコ協会

ゼミ活動: NGO, NPO活動への参加

【テーマ・訪問先(代表例)】

①「女性が働きやすい社会へ」  
株式会社デンソー

②「多文化共生」  
多文化共生リソースセンター東海

③「看護・世界の子供たち」  
カンボジアボランティア

④「在日外国人の現状」 ELCO国際子ども学校  
⇒自らの行動へ  
「持続可能な社会の実現のために」

「世界の諸問題について学び  
行動できる高校生へ」

①「ハガキで世界をHappyにするプロジェクト」  
(協力:NPOアイキャン)

②「メキシコ地震を救うための募金」

③「ピタテ! 留学JAPAN参加」

④「学校祭での発表内容」  
食料廃棄、多文化共生、環境

⑤「積極的に取組を発信」  
ユネスコ協会、名古屋市立大学など

ホールスクール・アプローチの  
実現に向けて

▶ インフュージョン・アプローチ  
(既存の教科へのESDの導入)

▶ 名東版ESDの学びを実生活に具現化  
⇒学校生活のあらゆる側面で名東版ESD  
が意識されているとはまだ言えない

ホールスクール・アプローチは道半ば

信州ESDコンソーシアム  
(平成30年度成果発表&交流会)

ご静聴ありがとうございました。



「学んだこと、考えたこと、伝えたいこと」  
機会を見つけて発信

名古屋市立大学 サステイナブルイノベーションイニシアチブ  
エシカルファッション  
私たちにできること  
\*環境局「フェアトレード」



名古屋城英語ガイド  
(ユネスコ・アシストプロジェクト)

⇒全校へ呼びかけ(2015年度より)

\* ESDの分野: 国際理解、地域遺産学習

\* 名古屋市 国際交流課からの依頼  
姉妹都市交流 (L.A. シドニー、ランス市)



名東版ESDの背景(ビジョン委員会)

▶ ユネスコスクールの認定(2014年)

▶ 国際英語科の取り組みを、普通科にも  
広げたい。

↓

World Studiesのエッセンスを普通科へ  
まずは・・・  
「行事」、「総合的な学習の時間」

名東生につけてほしい力

▶ 社会とのつながりを意識し、よりよい世界を構想する力

▶ 自ら課題を設定し、調査研究を行い、探求する力

▶ 自分の考えをまとめて、他の人にわかりやすく表現する力

▶ さまざまな人と協力して議論しながら、一緒に問題解決する力

1年生の取り組み

▶ ESDガイダンス/オリエンテーション合宿  
ワークショップを行い、仲間作りとともに、話し合い・まとめ方・発表の仕方のノウハウを学ぶ。

▶ ESDセミナー  
外部講師による講演「環境」「開発」「平和」  
\* 毎週1回の情報記事(ααα)発行  
様々な分野の新聞記事

2年生の取り組み①

総合的な学習の時間  
働くこと、大学で学ぶこと、より豊かな人生を送るためにキャリアデザインを行う。

↓

前半: 進路選択のためのガイダンス  
修学旅行に関する班別作業  
グループ討議・計画立案・まとめ・発表  
後半: 自由にテーマを設定して探求活動  
レポート作成・発表

2年生の取り組み②  
修学旅行を広島連泊に変更。  
ESDをテーマにした研修活動

↓

平和・環境・歴史・異文化理解などから課題を設定、自主的に研修することをめざす。

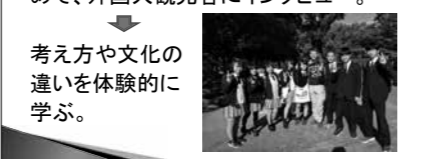
午前研修: 大学・研究機関施設での研修  
広島大学平和センター・広島市立大学平和研究所・中国新聞社ヒロシマ平和メディアセンター・放射線影響研究所・東立大学宮島学センター・さとうみ科学館・宮島水族館・平和公園インタビュー  
午後研修: 市内及び周辺地での見学

平和公園インタビュー

戦争・平和・核兵器・文化などテーマを決めて、外国人観光客にインタビュー。

↓

考え方や文化の違いを体験的に学ぶ。

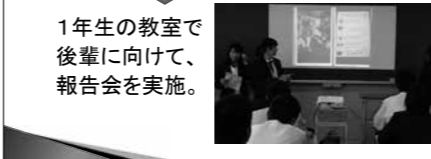


1年生への修学旅行報告会

班単位で修学旅行のまとめを作成。

↓

1年生の教室で後輩に向けて、報告会を実施。



これからの課題

「行事」、「総合的な学習の時間」を使って名東版ESDを推進してきた。

▶ 授業では教員の個々の取り組みが中心。

【連携授業(社会+英語/理科+英語)】  
・マララさんへの手紙/絵手紙交流など

↓

▶ 体系的な授業改革・科目連携の必要性。  
▶ 新しいカリキュラムの編成。

②普通科 世界を変えるために

名東高1年生! みんなの味方です!

マララさんへ英語の手紙



ホールスクールアプローチ

▶ 多くの先生方を巻き込んでいく力

▶ ESD(SDGs)の意義を共有、共通認識の形成(教員、生徒)

▶ 引き継ぎ

↓

▶ 生徒: 行動力、考える力、発信力

▶ 学校全体の力

信州ESDコンソーシアム成果発表会 & 交流会 (長野会場)

開催日時 平成31年2月2日(土) 11:00~15:00

会場 信州大学教育学部 大講義室 (図書館2階)

参加者 小、中、高等学校の児童生徒、教員、保護者、コンソーシアム関係者 215名

当日の様子



### 高山村立高山小学校

「たかやま」の時間で  
学習したこと

高山村立高山小学校 3年2組

いろいろな体験をすることが、学校で勉強する以上の財産になる。  
楽しくしてほしい!

トロロさん  
(黒岩清道さん)

綿作りとラベンダーの匂い袋作り

古道を歩こう

「おいしい」と言ってもらえるようなりんごを作りたい!

さやとくんのおばあちゃん  
(黒岩さん)

6月  
花摘み

7月  
摘果

10月  
収穫

「安心」「安全」「健康」なりんご作りを目指しているよ

フクイハラコンボ フェロモン剤

いろいろな人に高山村のりんごを食べてもらいたい。世界中の人に食べてもらいたい!

原さん  
満井さん

信州高山さわやかりんご

シナノスイート  
シナノゴールド  
秋映

ご清聴ありがとうございました

### 山ノ内町立東小学校

だれもが  
関わり合えるように

本当はここに演奏している動物が入ります

### 山ノ内町立南小学校

山ノ内町立南小学校

4年生と大豆の生活  
～大豆のみりよくを知ってほしい～

3年生 大豆との出会い

3年生 社会見学 イオンさんへ

クイズ!  
・次のうち、大豆の成分がふくまれている食品はどれでしょう?  
答え... 全部

日本の国産大豆は、少ない!  
・どうしてだろう.....?  
・土地がせまいから?  
・作るのたいへんだから?  
・つくりにかたを知らないから?

鈴木 沢治郎  
1856～1899  
山ノ内町 豊沢村 で生まれる。  
当時、村では粟や大豆を主に栽培していた。  
稲作で村を豊かにするために、私財を費やして  
群馬県から、豊沢村まで水を引くことに尽力した。

4年生 5月 大豆をまいた

6月 鳥対策

7月 虫対策

8月 台風対策

みそづくり

おみその味見

9月 おみそ定食をつくろう!

11月 大豆の収穫

11月 大豆の選別 肥料にしたよ

12月 きなこ ずんだ おやき づくり

1月 豆腐づくり

発表のまとめ!

- ▶ ① 大豆を主成分とする食品が多くある。
- ▶ ② 大豆の成分をふくむ食品が、身の回りにはたくさんある。
- ▶ ③ みそにするといろんな料理に使えて、料理のはかひになる。
- ▶ ④ 肥料にしたり、おからにしたり、無駄なく使い切れる。
- ▶ ⑤ 健康にいい栄養が、豊富にふくまれている。

山ノ内町立南小学校 4年生

▶4年生と大豆の生活  
～大豆のみりよくを知ってほしい～

ご静観、ありがとうございました。

### 高山村立高山中学校

ESDの取り組み

高山村立高山中学校

久保田果音 藤澤雅也 姉川莉央 坪井大翔 保科琉哉

高山中学校の総合的な学習

全校テーマ「故郷 高山村と私」  
↓  
各学年でテーマを設定  
↓  
高山村での学習  
他地域での学習  
↓  
中学生議会

キノコの本伏せ体験 学校林にて

1年生の活動「故郷 高山村を知る」  
高山村の特産物「ワインぶどう」

飯綱町 サンクセール「ワイナリー、ぶどう農園見学」

高山村 角藤農園「除葉作業」

1年生の活動「故郷 高山村を知る」  
高山村の特産物「ワインぶどう」

ワインについて学習 文化祭で発表

中学生議会 村へ政策として提案

1年生の学習「故郷 高山村を知る」  
学校林での活動「きのこ栽培」

シイタケ、ナメコの駒打ち

学校林にて本伏せ

2年生の学習

学校林での活動「きのこ栽培」

学校林にてきのこの収穫  
学校畑でサツマイモの収穫

きのこ、サツマイモ収穫祭

2年生の学習「ユネスコエコパークの自然を体験、知る」  
志賀高原自然散策

事前学習  
・志賀高原について知る  
・洗温泉の旅館について知る

2年生の学習「ユネスコエコパークの自然を体験、知る」  
志賀高原自然散策

志賀高原の自然を体験

洗温泉の散策

2年生の学習「ユネスコエコパークの自然を体験、知る」  
志賀高原自然散策

高山村産業振興課の職員の方を招き高山村の観光について知る

高山村の観光について考える

文化祭でこれまでの学習を発表  
高山村の観光について提案

提案 ① 村内のwi-fiの設置

提案 ② 体験ツアー  
・フルーツの収穫  
・ひんべの作り  
・ワインの試飲  
・そば打ち

故郷 高山村と私

# 山ノ内町立山ノ内中学校

## 地獄谷野猿公苑

地域自慢の旅  
湯本正輝

地獄谷野猿公苑について

- ・地獄谷には160頭の猿がいます(1グループ)
- ・その猿は冬場温泉に寄りかかります。
- ・猿を54年前に観光資源にするために呼びました。また、温泉は沸いている所から引いてきています。
- ・山ノ内にはよく猿が出ますが、地獄谷の猿ではありません。
- ・猿の好物  
みかん りんご

・地獄谷ではサルを餌で誘うのではなく、餌付けで誘います。  
・猿には毛があります。その毛のおかげで、風呂に入った後湯冷めもしないし汗をかきません。  
・風呂に入る猿は全頭ではありません。  
・二ホンザルは、日本人に近いです。しかし、知らないことが多いです。  
・猿を間近で見られるのは世界でも珍しいです。

## 観光客について

<インタビュー> どこから来たか~where are you from~  
ここでは、外国の方へのインタビューの結果を発表します。  
アメリカ 4名 ドイツ 4名 ポーランド 1名 カナダ 13名 合計 22名

この日は、アメリカ・ドイツ・ポーランドの人が多かったです

感想

- ・地獄谷には年間20万人観光客がやって来ます。
- <割合> 日本人6割 外国人4割
- ・外国の方が増えてきています。

感想

- ・毎年20万人の観光客が訪れてきていることが分り驚きました。
- ・地獄谷の敷地から猿が出ていなく、街に出没する猿は野生だと言うことが意外でした。

## 松美食堂

地域自慢の旅  
鵜殿康大  
鈴木昭弘  
保倉悠弥

### 1 松美食堂について

この「松美食堂」の名前の由来は、お店の前に、大きな松があって、その松が綺麗だったので「松美食堂」と、なりました。そのお店で人気のメニューは「かつ丼」と「ラーメン」と「カツカレー」です。

### 2 カツカレーについて

量は、ご飯4合かつ1枚とカレーと野菜です。完食できた人には、お店に写真を載せています。今は、完食した人数は160人くらいいます。

### 3 松美食堂に来た有名人

鈴木博美さんはバレーボールオリンピックとアトランタオリンピックに、女子10000m代表として出場。1997年の世界陸上アテネ大会女子マラソンでは、金メダルを獲得したランナーです。王貞治さんは本塁打868本を打ち日本プロ野球記録を樹立した。現役引退後ダイエー・ソフトバンク、日本代表で監督を歴任して日本プロ野球界に多く携わって来ました。その二人以外にも沢山の有名人が来ました。

鈴木博美 王貞治

### ほかにも

松美食堂は、テレビに5回出演  
▶ 神田正輝さんが出演した、「人生劇場レストラン」や「うまい! 安い! 信州のなつかし食堂」などで、紹介されました。

神田正輝

## 平和観音

平和観音の歴史を知っていますか?

今の観音様は2代目です。なぜ観音様は2代目なのか? 皆にとつての印象はどのようなのか教えていきます。

### 1代目の観音様

1代目の観音様が作られたのが昭和19年で2代目が昭和39年(東京オリンピックの年)です。なぜ2代目が作られたのか...? その理由は1代目が戦争の武器の材料として使われてしまったからです。1代目は1万5000円で作られました。そして2代目が作られました。

### 平和観音の歴史

- ・1代目の観音様は銅で作られており33m。
- ・2代目は青銅で作られており25mである。
- ・2代目が作られる際、18,000人からおよそ20,000円~30,000円を貰って作った。

### 2代目の観音様

2代目の観音様は昭和39年(東京オリンピックの年)につくられ、1万5000人でお金を集め13年かかってようやく完成しました。

### みんなの印象

- ▶ みんなにとつて観音様は山ノ内のシンボルです。
- ▶ 観光客が来たならみんなお祈りします。

### 平和の灯

8月6日(広島)と8月9日(長崎)に落とされた原子爆弾の火が灯されている。その火は消えないようにしっかり管理されている。

### 観音様の秘密

なぜ観音様は建てられたのでしょうか?

- ▶ 観音様を建てたのは、世界中の人々が幸せになれるようにという意味があるから。
- ▶ 手を合わせることで幸せになれるとされている。

### 感想

私は平和観音の歴史について前から知りたし事がありました。それを聞ける良い機会になりました。たてられた理由などたくさん知れました。他にもいろいろな歴史が知れました。

### 南小学校の歴史

明治34年6月1日に開校 今年で116年目

最初は、寺子屋が沢山あった。その寺子屋が集まってできたのが南小学校。昔寺子屋があった場所に、現在は「筆塚」がある。平成元年に建て替えた。山ノ内町内で1番新しい校舎。唯一、山ノ内町内でスキー場を持っていないかったためスキーを広めるために、スキー部が創られた。

### 南小学校の魅力

- ・春に咲く桜や5・6月に咲くツツジがきれいなこと
- ・現在の児童は93人と少ないがとても元気が良いこと

頑張っている事  
音楽では... 合唱 コカリナ  
体育では... スキー  
その他... ESD

### 佐久間象山とのつながり

南小学校は佐久間象山さんと繋がりが深いことを知っていますか?  
例えば...  
小学校の近くにある象山公園  
小学校の校歌の2番にも佐久間象山の「象山」が出てくる  
このように南小学校は象山さんとの繋がりが分かる

### 感想

私は南小学校の卒業生だけど南小学校がどのように出来たのかわからなかったけど知れてよかった。他にも、色々な南小学校の歴史が知れてよかった。

## 一茶の散歩道

- ・一茶の散歩道って?
- ・15の句碑を探す旅
- ・散歩してみると...
- ・一茶と湯田中温泉

### 一茶の散歩道って?

皆さん小林一茶って知ってますか? 小林一茶は信州の俳人です。15歳にして江戸に立ち、関西・四国・九州をはじめとする各地を行脚し、全国にその名を知られました。そんな一茶が散歩道を歩きながら俳句をよんだといわれています。散歩道には一茶の書いた俳句が彫ってある「句碑」があります。

### 15の句碑を探す旅

一茶の俳句

- ・寝返りを するぞこのけ きりぎりす
- ・湯上りや 裸足でもどる 雪の上
- ・夕立の 裸湯うめて 通りけり
- ・春風や 牛に引かれて 善光寺
- ・蝉鳴くや 天にひつつく 筑摩川
- ・大仏の 鼻から出たる 乙鳥哉
- ・子供らが 雪食いながら 湯治かな
- ・涼風や かいっぱい きりぎりす
- ・鶯や ざぶざぶ雨を 浴びて鳴く

- ・松と松 若い同士や 春の雨
- ・夕月や 大肌ぬいて かたつぶり
- ・人のため しくれておはす 仏哉
- ・そば時や 月の信濃の 善光寺

一茶の散歩道には、長野の自然などが感じられる俳句がたくさん残っています。(俳句を探しながら歩くのもたのしいです!) 時々本当に動物が出てきます。出会えたらラッキーですね!

### 散歩してみると...

- ▶ 一茶の散歩道は約15分で歩くことができます。
- ▶ 幅1.5mくらいのおさめ道ですが、自然にかまれていても気持ちがいいです。
- ▶ 夕方になると少し薄暗くなりますが昼間に行けば木と木の間に光が差し込み自然を感じられます。

### 一茶と湯田中温泉

湯田中温泉と関わりが深い小林一茶は、「田のくろ石の露より、めでたき湯のふくふくと出て、ただいたずに流れりぬ。此の村里はさらに湯ともいはずりけり」「田」の中からこんこんと湧き出する「湯」。これが湯田中温泉の名前の由来とも言われています。(http://iyudanaka-onsen.info/about より引用)

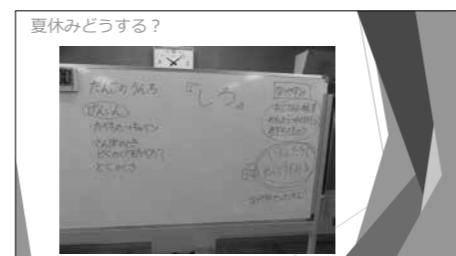
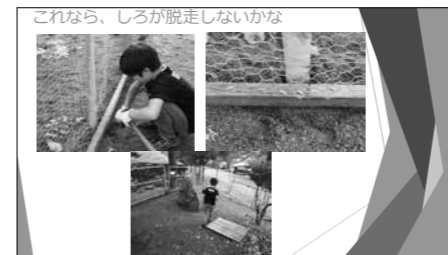
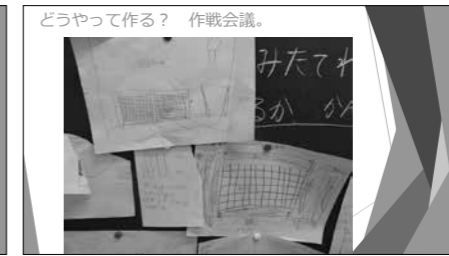
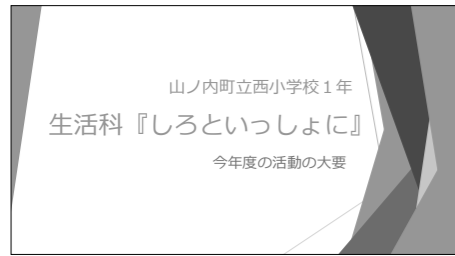
### 感想

あゆみ 一茶の散歩道は今まで歩いたことはあったけど、知らなかったことがたくさんありました。もっといろいろなことを知りたいと思いました。

琉花 普段歩くとききづかないことがたくさんあり、機会があったら他の事もしらべてみたいとおもいました。

かれん 身近にある「一茶の散歩道」にも、たくさん魅力があって驚きました。これを発信していけたらいいと思いました。

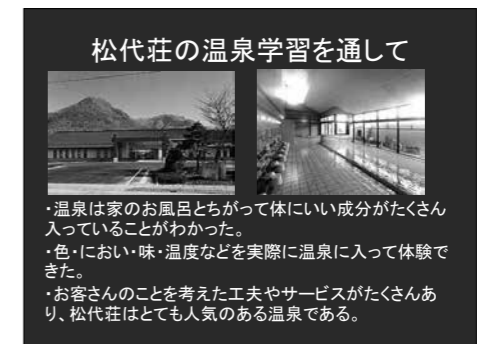
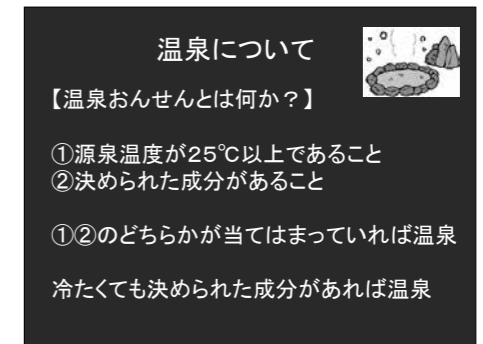
# 山ノ内町立西小学校







### 長野市立東条小学校





### (2)一陽館の温泉

**驚いたこと**

- ・シャワーやシャンプーがない
- ・脱衣所とお風呂がいっしょ
- ・温泉の色が透明
- ・88年も続いている(春日さんの話より)

内湯

### 見学・入浴した2つの温泉を比べて・・・

松代荘 内湯  
シャワーやシャンプーがあつて体が洗える。

一陽館 内湯  
体を洗う所がない

**頭や体が洗えないのに、どうして一陽館は長く続いているのだろう？**

### 東条の温泉学習

**学習問題**  
頭や体は洗えないのに、一陽館はどうして88年も続いているのだろう？

予想する  
↓  
予想をたしかめるための方法を考える

**春日さんに聞いてみよう！**

### 春日さんに聞いてみたいこと

- ・どうしてシャワーやシャンプーがないのですか。
- ・よく室とだつた所がいっしょなのは理ゆうがあるのですか。
- ・なんで松代荘のお湯は茶色だったのに、一陽館のお湯はどうめいだったのですか。
- ・なんで一陽館の温泉は味がしょっぱかったり、炭酸が入ったりしているのですか。
- ・一陽館の温泉にはどんな成分が入っていますか。
- ・温泉の温度は何度ですか。
- ・お風呂の中の水道は別に使うのですか。
- ・お風呂が横長なのは理由があるのですか。
- ・どうして一陽館がその場所にできたのですか。
- ・なぜ一陽館という名前にしたのですか。
- ・一陽館にはどんな人が来るのですか。
- ・有名な人は来るのですか。
- ・一陽館で働いて大変なことは何ですか。
- ・お客さんがくるために工夫していること、がんばっていることを教えてください。

### (3)一陽館の春日さん 温泉授業

### (3)一陽館の春日さん 温泉授業

・温泉には観光温泉と湯治温泉の2種類がある。一陽館は体や頭を洗ったりする観光温泉ではなく、体の痛みやケガを治すための湯治温泉なんだ。

・一陽館は「杖忘れの湯」と言われていて、お客さんが杖を忘れて帰ってしまうくらい温泉の成分が濃いから体によく効くよ。

・毎日入らないと歩けないお客さんもいる。お金がもうからないけれど、一陽館はお客さんのために365日休まずやっている。病院みたいな所だよ。

### 東条の温泉学習を通して

**観光温泉**      **湯治温泉**

松代荘                  一陽館

「ふるさと東条の宝」として、この2つの温泉を大切にしていきたいです。

### ご静聴 ありがとうございました

一陽館の源泉の前で

### 未来に光を残すために

東条小学校 5学年

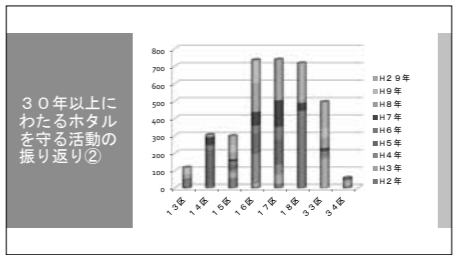
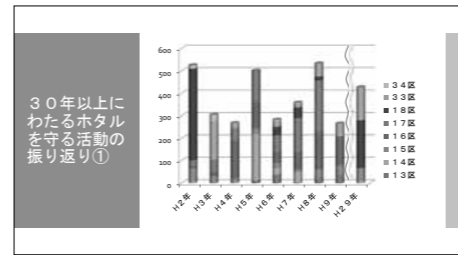
### ホタル観察会に向けて

ゲンジボタル      ビカクシ目      ベテボタル

どか、どか、どか

### ホタル観察会当日

わたしたちが大人になったときも、東条でホタルを見たい！！



### 観察されたホタルの数から考えらこと

【タツツ】から  
○年によって、200区以上のホタルが増えたり減ったりしている。理由を考えた。

観察されたホタルの数から考えらこと  
【タツツ】から  
○地区によっては、観察されるホタルの数が減っている地区や、見ることができない年が続いている地区がある。

昔は山がきれいだったからホタルがいた。今はアスファルトの道路が増えてきたところがある。家が建った。川に様々な種類のゴミが落ちている。ガワニが落ちている。

### 大人になったときも、東条でホタルを見たい！！

川をきれいにして、ホタルが住む環境を整える

- ・わたしたちができること
- ・ゴミの分別をしない
- ・ゴミをばらまきして捨てる
- ・ホタルのことをよく知る
- ・学校で取り組むこと
- ・30年以上続く河川清掃の継続
- ・地域の方への呼びかけやポスター作り
- ・ホタルについて知ってもらう取り組み
- ・地域の行事に参加すること
- ・ホタル観察会ができるだけ多くの人に集ってもらい、ホタルのきれいな光を見てもらう。一緒にすることで、ホタルを大切にしたいという思いを共有する。
- ・ホタルのことを町の人にもよく知ってもらう。
- ・ホタルについて、東条小学校で行なっている活動を知ってもらう。
- ・地域の行事に河川清掃を入れてもらう。

### 今年度の取り組み①

地域の方と共に

キレイな森をみんなでつくろう！  
どかどか 行こう！

ホタルは、東条小学校の【宝物】  
東条小学校の児童・保護者・先生方による

○ホタルの美しい光  
○東条の豊かな自然

地域の方にも知ってもらおう！  
東条のみんなとホタルを守りたい！

そんな願いで、今年度は60区以上のホタルを、地域の行事に参加した、東条の子どもたちが観察しました。

### 今年度の取り組み②

### 今年度の取り組み③

### 東条の宝物

東条には、他にも宝物がたくさんあります。

- 国産に指定されているオムラサキを見ることが出来ます。
- 絶滅危惧種にもなっている黒メダカを見ることが出来ます。
- 湯治では、東条を囲む山々に豊ります。山菜もたくさんあり、昔話に登場する場所を見ることが出来ます。

東条の自然を守り、東条の宝物を守る。

### ご清聴ありがとうございました。

～/お山の神様へ～

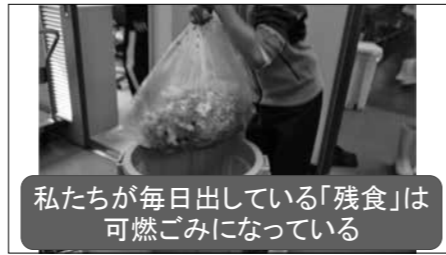
東条小学校5学年

### 信州大学教育学部附属長野小学校



魚だってこれから卵を産んだのかもしれないんだよ！  
俺たちが命をとってるんだよ。  
なのに、9匹も10匹ものこしたじゃねえか。  
このあと焼かれて、  
1/10の大きさの灰になってただ埋められるんだよ。

**1日あたり平均  
7.2kg**



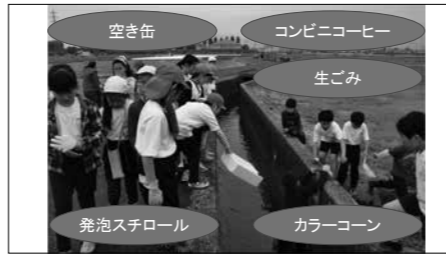
私たちが毎日出している「残食」は可燃ごみになっている



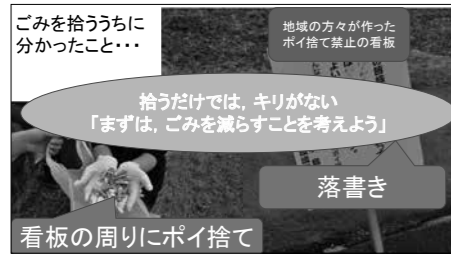
4月 学校の周りへ散歩へ行った  
用水路へ入って遊んだ  
冷たい水が気持ちよかった



帰り道で見つけたごみ「このままにできないよ」



空き缶      コンビニコーヒー  
生ごみ  
発泡スチロール      カラーコーン



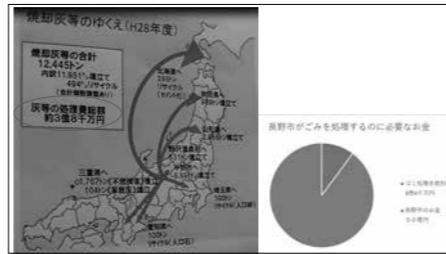
ごみを拾ううちに分かったこと・・・  
地域の皆さまが作った  
ポイ捨て禁止の看板

拾うだけでは、キリがない  
「まずは、ごみを減らすことを考えよう」

落書き  
看板の周りにポイ捨て



長野市のごみ処理の仕組み



魚だってこれから卵を産んだのかもしれないんだよ！  
俺たちが命をとってるんだよ。  
なのに、9匹も10匹ものこしたじゃねえか。  
このあと焼かれて、  
1/10の大きさの灰になってただ埋められるんだよ。



私たちの思いを届ける

☆今日、学校で5時間目に新聞づくりをしました。思い返してみれば、私は元々ごみのことが好きでした。何でこんなことをやらなきゃならないの？地区の人がやればいいじゃんとか勝手に思っていました。私は竹内先生から「本当にやるの？」と聞かれたときに「えー」とか、きりわたりするのをおそれて「やめたい」とは言えませんでした。でも、新聞を聞いていたら、あれは人任せだったことに気がきました。なので、新聞で全校の残食をへらしていきたいです。あそこで本音を言わなくてよかったです。

砂袋づくり



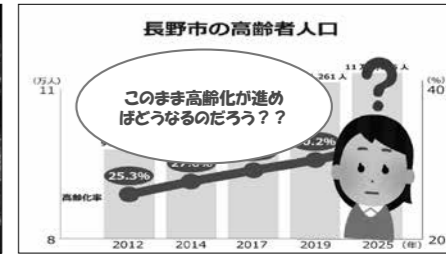
市役所への取材  
一年生への取材  
記者の方に新聞の書き方を教わる

### 長野県長野西高等学校



私達が取り上げる問題点

高齢化の進行

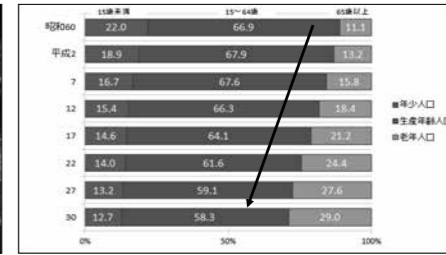


高齢化が原因で起きていること

生産年齢人口の減少      ファミリー層の減少

生産年齢人口が減る・・・

高齢者を支える「ちっちゃう」



田舎っ娘が考える政策とは。。。

①自然の中で子育てをする良さをPR!

空気がきれい！      地域の中で助け合い！  
食べ物フレッシュでうまし！  
体が丈夫に育ちゃう！

②託児所・児童館をつくる！

私ら、田舎っ娘と高齢者が子どもたちのお世話をします！

長年の経験、知識を活かし、生きがいを持って、地域を支えるヒーローに！！  
(♡) ♪

“スモールステップ”

8 働きがいも経済成長も

SDGs(持続可能な開発目標)

高齢者の方々にも働きがいを感じてもらい、若者たちと共に地域の活性化をさせ、経済成長をすること

どんな託児所・児童館がほしいですか？

あったらいいな、こんな託児所・児童館！

地元食材で作られたご飯！！  
宿題を教える！！  
おじいちゃん・おばあちゃんに昔の遊び・話を教えてもらえる！  
人と人のつながり  
自然の中でいっぱい遊べる！！

でも・・・

事故      体調      現代との違い

そのために

専門学生たちによる

「知識交換会の開催」  
↓  
保育に関する専門的な知識を得られる！  
↓  
安全性の向上や学生たちの能力向上にも！

「若者の参加」  
↓  
幅広い年代層と関わる  
↓  
今後の視野が広がる

期待できる効果

「生産年齢人口の増加」  
働き手である世代を誘致することでファミリー層の増加  
↓  
若者の増加  
↓  
「地域の活性化」

「高齢者の二毛作」  
↓  
身に着けた知識・技術・経験を生かして再登板していただく  
↓  
「セカンドライフの充実」

元気な高齢者がたくさんいて、みんなが暮らしやすい長野市ができる！

それが私たちが考える「地域の活性化」です！！



### 文化学園長野中学・高等学校

信州からSDG's考える

15 誰の働きも大切にしよう

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

農業  
特産品  
リンゴ、ブドウ、キノコ、おやき、くるみ、ラズベリー etc.

給食によるジビエの発信

ジビエ  
「ジビエをより身近に！」

学校給食からジビエをひろげていく

健康にも良い！！

高たんぱく 低カロリー 高ミネラル

給食を食べた子供たちが  
→ 美味しさに気づく  
→ 家族に教える  
→ 家庭でのジビエの需要が増える

林業  
林業の復興

体験学習の話

子供たちがやりたがらないのでは？

まとめ&理想の子供食堂の話

高校生が参加する(調理など)  
お皿などの寄付を  
長野の特産品を利用した料理  
植林体験を子ども食堂子供たちに体験してもらおう  
お年寄りも参加可能！

目標へのスモールステップ！！

スプーンなどのクラフト！

主に杉を使う  
小枝も有効活用...

少人数制  
特別感！

ご清聴ありがとうございました

長野の小中高生が未来を変える簡単な方法

ユネスコスクール文化学園長野中学・高等学校からの提言

ユネスコスクール2年目  
文化学園長野中学・高等学校

長野の小中高生が未来を変える簡単なステップ

ステップ1  
なぜ私達が？

ステップ2  
「SDGs」ってなに？

ステップ3  
なにができる？

ステップ4  
提案1

ステップ5  
提案2

文化学園長野中学・高等学校

ステップ1  
なぜ私たち子どもが？

文化学園長野中学・高等学校

にもかわらず・・・

この地球には、課題が山積みです

地球のイメージ、女性シンボル、地球を手に持つイメージ

地球のことは、地球に住むすべての人が(先進国も、開発途上国も、大人も、子どもも)、一緒に考えて、今すぐ課題に取り組んでいかなければ解決しません。

15年後の未来、世界を動かしているのは、

そう、今、子どもである私たちなのです！

文化学園長野中学・高等学校

ステップ2  
「SDGs」(持続可能な開発目標)ってなに？

文化学園長野中学・高等学校

「誰一人取り残さない」  
SDGs「持続可能な開発目標」は、今ある世界のさまざまな問題を解決し、人間がずっと地球に住み続けられるように開発・発展するにはどうしたら良いだろう？と世界みんなで考えた、17の目標なのです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
世界を変えるための17の目標

文化学園長野中学・高等学校

SDGs文化学園長野中学・高等学校の学び

SDGsに関する様々な活動の写真を集めたパネル

ステップ3  
長野の小中高生になにができる？

文化学園長野中学・高等学校



ステップ 4  
提 案 1

ここに集う学校が協力して  
難民キャンプに『届けよう服のテカラプロジェクト』  
に参加しよう

文化学園長野中学・高等学校

①企業、地域、学校が連携して行う。  
②拠点はユネスコスクール！  
③まずは、一緒に学ぼう！！

文化学園長野中学・高等学校

ステップ 5  
提 案 2

ここに集う学校が協力して  
『ヘアドネーション』を呼びかけよう

文化学園長野中学・高等学校

ヘアドネーション？  
寄付が可能な髪について

- ・髪の長さ15cm以上または31cm以上
- ・年齢、性別、国籍は問いません
- ・ヘアカラーしていてもOK

ただし、パーマのかかった髪・天然パーマ・くせ毛・縮毛矯正された髪・ブリーチなどで  
漂白してしまった髪・白髪のみ（白髪まじりはOK）や髪根がひどく強く引っ張ると切れてし  
まう髪はウィッグに使用することができません。

ヘアドネーションにより寄付された髪の毛は  
医療用ウィッグとして生まれ変わり、小児ガンや無毛症、先天性の脱毛症、  
不慮の事故などで髪の毛を失ってしまった子ども達のために無償で提供さ  
れます。

ゴミとして廃棄されてしまうあなたの髪で誰かの  
笑顔が生まれます

**But, how!?** しかし、どうやって？

そこで最後の提案です……

文化学園長野中学・高等学校

来年度・・・

『未来の大人会議』

を開かせてください。

文化学園長野中学・高等学校

つながろう！

未来に向かって

ご清聴いただき  
ありがとうございました

文化学園長野中学・高等学校

IV

ユネスコスクール全国大会参加

ブース展示ポスター(信州ESDコンソーシアム)



# 信州ESDコンソーシアム

信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成



### 信州ESDコンソーシアムとは

- 信州ESDコンソーシアムは、文部科学省「グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業」の採択を受け、平成29年2月に正式に発足しました。
- 長野県におけるESDの普及と定着を図るため、以下の活動を展開しています。

**信州ESDコンソーシアムがめざすもの**

1. ユネスコスクールなどの教育組織でのESD推進
2. ESDに関わる人たちの交流の場を創出
3. 企業・NPOなどの多様な主体が活動できる機会を創出
4. コンソーシアムや関係組織の成果の発信
5. ESD関連情報を共有する場を提供

### 信州ESDコンソーシアムの活動

**各種研修会**

- ACCU、ESD活動支援センター・地方センターなどと協力して、学校関係者のほか、企業、NPO、各種団体、行政など、ESDにかかわる様々なステークホルダーを対象とした**ESD研修会を開催**しています。
- 学校現場に向いて**全ての教員を対象に、学校教育にESDの視点を取り入れるための実践的な研修会を実施しています。



**教員・指導者の育成**

- 信州大学教育学部では**環境マインド**を持った人材育成に取り組んでいます。**必修の授業科目『環境教育』**でESDについて取り上げ、その実践に積極的に取り組むことができる教員・人材の育成を行っています。
- 平成29年8月に実施された**社会教育主事講習**では、4日間にわたりESDに関する講義・演習を展開しました。



### 成果発表会

- 児童・生徒が一堂に集まり、日頃のESD活動の発表と交流を行います。
- 平成28年度には100名以上、平成29年度には200名以上の児童・生徒などが信州大学長野(教育)キャンパスに集い、交流を深めました。平成30年度はさらに規模を拡大し、**松本・長野の2会場**で開催する予定です。



### 県内におけるユネスコスクールとESDの現状

- 美しい自然環境に恵まれた長野県では、従来から学校現場で学校登山をはじめとする**自然体験学習**や**環境教育**、そして「ふるさと学習」などの**地域学習**が盛んに行われてきました。
- 一方で、ESDの概念はまだあまり普及していません。県内620校以上の小・中・高校のうち、ユネスコスクールに登録されている学校は15校に留まっています。
- 持続可能な「しあわせ信州」**を創造していく上で、ESDの県内への普及と推進は、必須の課題となっています。

### ユネスコスクールでの学び

- 県内のユネスコスクールでは、学校ごとに地域の特色を活かした様々なESDの学びが展開されています。これらの学校は、今後県内でESDが普及していく中で、他校のモデルとなることが期待されます。
- 信州大学教育学部附属松本中学校**では、ESDで育まれる能力や態度を視点として、教科横断的なカリキュラムを全教科で構想し、教科の枠にとらわれない多面的・多角的な学びを実践しています。
- 山ノ内西小学校**では、地域の支援を受けながら、子どもたちがリンゴ栽培に取り組んでいます。子どもたちの発案で、リンゴを地獄谷野猿公苑などに訪れるインバウンド観光客に販売するなど、「予定調和的でない学び」が展開されています。
- 中野西高等学校**では、1月末の一週間、ユネスコに関連する活動に集中的に取り組む「ユネスコウィーク」を設けています。最初の年の企画は教員や地域のステークホルダーが中心でしたが、2年目からは、生徒たちの自主的な取り組みも目立ち始めています。

### ユネスコエコパークとESD

- ユネスコエコパーク**は、豊かな自然環境や生態系を守りながら、その自然を有効活用し、地域や人間社会が発展することを目的とした「**自然と人間社会の共生**」を実践するモデル地域です。
- ユネスコエコパークにはESDの学びの資源が豊富にあり、またESD自体がユネスコエコパークの理念を実現する手段でもあることから、その実践による相乗効果が期待されています。
- 志賀高原ユネスコエコパークの移行地域**では、**すべての学校がユネスコスクールに登録**されています。志賀高原ユネスコエコパークでは、ガイド組合による環境教育プログラムの提供など、多様なステークホルダーによるESD実践が行われており、県内ユネスコスクールのほとんどが志賀高原ユネスコエコパークを訪れています。



校種	校名	校種	校名
幼稚園(1校)	信州大学教育学部附属幼稚園	中学校(4校)	信州大学教育学部附属松本中学校
小学校(7校)	山ノ内町立東小学校 高山村立高山小学校 山ノ内町立西小学校 山ノ内町立南小学校	小学校(7校)	山ノ内町立山ノ内中学校 高山村立高山中学校 信州大学教育学部附属長野中学校
	茅野市立永明小学校	一貫校等(1校)	文化学園長野中学・高等学校
	信州大学教育学部附属長野小学校	高等学校(2校)	長野県中野西高等学校 長野県長野西高等学校
	信州大学教育学部附属松本小学校	特別支援学校(1校)	信州大学教育学部附属特別支援学校

長野県内のユネスコスクール加盟校(2018年10月現在)



## 第10回ユネスコスクール全国大会参加報告書

団体名	茅野市立永明小学校	報告者名	吉川 豪
プログラム参加状況（複数回答可）			
<input checked="" type="checkbox"/>	特別講演	<input checked="" type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input checked="" type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input checked="" type="checkbox"/>	全体会
分科会（ワークショップ／テーマ別交流研修会）参加状況（複数回答可）			
<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールならではの気候変動アクション	<input type="checkbox"/>	ESD/SDGsを学ぶための教材をどう作成するか
<input type="checkbox"/>	ESDの視点で教員の働き方を見直そう	<input type="checkbox"/>	多文化理解・多文化共生をどう進めるか
<input checked="" type="checkbox"/>	学校と地域をどうつなげるか	<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールが行う海外連携・協働学習～海外と日本の事例から学ぶ～
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチで学校をデザインしよう	<input type="checkbox"/>	ESDによる教育効果をどう測るか
<input type="checkbox"/>	どうやって周りを巻き込むか？～ESDリーダー像を考える～	<input type="checkbox"/>	ESDと防災
<input type="checkbox"/>	横浜の児童生徒が考えるSDGs		

## 1. 参加者名・職名・担当

吉川 豪・教諭・5学年担任・ユネスコスクール担当

## 2. 参加のねらい

- ・平成29年度にユネスコスクールに認定された。先行して取り組んでいる学校の実践やESDの理念等を学び、具体的にどのような活動をしていけばよいか参考にするため。

## 3. 得られた成果

- ・特別対談では、「批判的思考力」と「感性」の両方を磨くことが大事だと感じさせられた。これからの生きる子どもたちに、とても大切な方向を示唆していただいた。
- ・分科会では、ワークショップ「学校と地域をどうつなげるか」に参加した。伊豆半島ジオパーク推進協議会の鈴木雄介さんは、「知る」「守る」「役立つ」というお話をしてくださった。学校教育では知ることや守ることは教えたり、活動の中で取り組んだりしているが、「役立つ」早い話が「お金を生み出す」ところに繋げていくことはほとんどできていなかったと思う。子どもたちが成長した後、また地元に帰ってくるには、仕事があることも大事な要素であることがわかった。そういう視点ももって、持続可能な社会を構築していく一端を担いたい。
- ・パネルディスカッションでは、ユネスコスクールで学び、卒業した6人の女性が登場。「本気で傾聴して、一緒に取り組む大人がいたからこそ、育ってきた。」という言葉が印象に残った。私は、子どもの言葉を「本気で」聴いて、応えているかを改めて問う機会になった。クリエイティブで、自己変容していくことができる子どもたちを育てていきたいと思った。

## 4. 今後取り組んで行きたいこと

- ・ESDの理念や「持続可能な開発目標（SDGs）」を職員に周知し、学校での授業や活動など、今までに取り組んできたことを大きく変えるのではなく、ESDの視点に立ってねらいを明確にしていきたい。
- ・ESDカレンダー作り。
- ・ファーストリテイリング “届けよう、服のチカラ” プロジェクトに引き続き応募。
- ・書き損じはがき回収への協力。

## 5. コンソーシアムに期待すること

- ・大会で研修する機会を金銭面でバックアップしていただけるのは非常にありがたいので、ぜひ今後もお願いしたい。

## 第10回ユネスコスクール全国大会参加報告書

団体名	茅野市立永明小学校	報告者名	福島 佳之
プログラム参加状況（複数回答可）			
<input checked="" type="checkbox"/>	特別講演	<input checked="" type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input checked="" type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input checked="" type="checkbox"/>	全体会
分科会（ワークショップ／テーマ別交流研修会）参加状況（複数回答可）			
<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールならではの気候変動アクション	<input checked="" type="checkbox"/>	ESD/SDGsを学ぶための教材をどう作成するか
<input type="checkbox"/>	ESDの視点で教員の働き方を見直そう	<input type="checkbox"/>	多文化理解・多文化共生をどう進めるか
<input type="checkbox"/>	学校と地域をどうつなげるか	<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールが行う海外連携・協働学習～海外と日本の事例から学ぶ～
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチで学校をデザインしよう	<input type="checkbox"/>	ESDによる教育効果をどう測るか
<input type="checkbox"/>	どうやって周りを巻き込むか？～ESDリーダー像を考える～	<input type="checkbox"/>	ESDと防災
<input type="checkbox"/>	横浜の児童生徒が考えるSDGs		

## 1. 参加者名・職名・担当

教諭 福島佳之

## 2. 参加のねらい

ESD実践について研修するため

## 3. 得られた成果

- 横浜市教育長のあいさつの中で、「みなとみらい本町小はユネスコスクールの取り組みしてSDGsより学級目標をつくっている」ときいた。先生と子どもがともに学べる教材として来年から取り入れたい。
- 特別対談の中で、宮内先生は「SDGsは教材として最適。遊び感覚でやればいい。難しい顔をせず、生活者として自分ができる範囲の中でできることを考える」「学ぶことは森羅万象おもしろいことだ」と、話された。その後のパネルディスカッションでユネスコスクール卒業生の話を聞いて、まさにその通りであると学んだ。

## 4. 今後取り組んで行きたいこと

学年別単元計画にSDGsをあてはめて学習活動を仕組むことを、先生方の合意を得ながら進めたい。

## 5. コンソーシアムに期待すること

教師や児童生徒がさらにESD実践への理解を深められるよう力をおかりしたいと思います。

第10回ユネスコスクール全国大会参加報告書

団体名	高山村立高山小学校	報告者名	小林 暢
プログラム参加状況 (複数回答可)			
<input checked="" type="checkbox"/>	特別講演	<input checked="" type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input checked="" type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input checked="" type="checkbox"/>	全体会
分科会 (ワークショップ/テーマ別交流研修会) 参加状況 (複数回答可)			
<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールならではの気候変動アクション	<input type="checkbox"/>	ESD/SDGsを学ぶための教材をどう作成するか
<input type="checkbox"/>	ESDの視点で教員の働き方を見直そう	<input type="checkbox"/>	多文化理解・多文化共生をどう進めるか
<input checked="" type="checkbox"/>	学校と地域をどうつなげるか	<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールが行う海外連携・協働学習～海外と日本の事例から学ぶ～
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチで学校をデザインしよう	<input type="checkbox"/>	ESDによる教育効果をどう測るか
<input type="checkbox"/>	どうやって周りを巻き込むか?～ESDリーダー像を考える～	<input type="checkbox"/>	ESDと防災
<input type="checkbox"/>	横浜の児童生徒が考えるSDGs		

1. 参加者名・職名・担当  
氏名：小林 暢 職名：校長

2. 参加のねらい  
・本年度、ユネスコスクールに加盟している高山小学校に異動した。校長として、ESDをより理解して前向きに推進するためにユネスコスクール全国大会に参加した。

3. 得られた成果  
＜特別対談より＞  
・ユネスコスクールの活動は世界に誇れる活動であり、新学習指導要領とESDの理論がかなり合致している。  
・「批判的思考力」を高める。子どもに生涯にわたる可能性とチャンスを最大限に伸ばすために、自分の生活を見直し、自分の目標を持たせる。そして、経済界のことも含めた情報をより多く集め、小さなステップによる成功体験（達成感）を積み上げていく。  
・教師は教えたがる。おもしろく、楽しく、元氣よく勉強する。そのためには、好奇心と情熱が大事である。  
＜パネルディスカッションより＞  
・ユネスコスクール卒業生の実践に基づいた言葉は心に残った。共通していたことは、地元が好きで、地域貢献への意欲が高い。自分ができることから一歩を踏み出し、未来を見据え、社会を変える担い手になっている。グローバルな視点で、活動はローカルなところから始めている。そのためにも大人が自己変容するESDが大事。  
＜第5分科会：地域と学校をどうつなげるか＞  
・実践発表をもとに、地域を学ぶ、地域で学ぶ、地域から学ぶ等、様々な視点で、様々な立場の方々と学び合えた。

4. 今後取り組んで行きたいこと  
・自己変容を社会変容につなげるために、校長が意識を変え、学校全体で授業・地域との連携の見直しや校務の見直しを行う。(子どもの特性や学校・地域の強みを活かす)  
・ランドデザインにESDの視点を取り入れ、職員によるボトムアップで作成する。そして、子どもの自己肯定感を高める教育活動の展開と教育内容の工夫改善を図る。

5. コンソーシアムに期待すること  
・信州ESDコンソーシアム成果発表会に毎年参加している。ESDに関わる人たちの交流の継続をお願いします。

信州大学関係者は、所定の「旅行完了報告書」の提出をもって代えることができる

(案)

第10回ユネスコスクール全国大会参加報告書

団体名	山ノ内町立東小学校	報告者名	宮尾 匠
プログラム参加状況 (複数回答可)			
<input checked="" type="checkbox"/>	特別講演	<input checked="" type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input checked="" type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input checked="" type="checkbox"/>	全体会
分科会 (ワークショップ/テーマ別交流研修会) 参加状況 (複数回答可)			
<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールならではの気候変動アクション	<input type="checkbox"/>	ESD/SDGsを学ぶための教材をどう作成するか
<input type="checkbox"/>	ESDの視点で教員の働き方を見直そう	<input type="checkbox"/>	多文化理解・多文化共生をどう進めるか
<input checked="" type="checkbox"/>	学校と地域をどうつなげるか	<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールが行う海外連携・協働学習～海外と日本の事例から学ぶ～
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチで学校をデザインしよう	<input type="checkbox"/>	ESDによる教育効果をどう測るか
<input type="checkbox"/>	どうやって周りを巻き込むか?～ESDリーダー像を考える～	<input type="checkbox"/>	ESDと防災
<input type="checkbox"/>	横浜の児童生徒が考えるSDGs		

1. 参加者名・職名・担当  
宮尾 匠 (教諭 3学年担当)

2. 参加のねらい  
・全国でESDがどのように実践されているのかを知りたかった。  
・ESDについて、校内で研修がさらに深まるようにしたかったため。

3. 得られた成果  
・パネルディスカッションで、6名のユネスコスクール卒業生の話を聞いた。どのみなさんも「故郷への愛着を深め、自分たちがやってきた活動に誇りを持っていた。故郷への愛着を深める姿は、ESDの目指すべき姿の1つであると再確認することができた。  
・分科会で、校種や出身都道府県が異なる先生方と交流する場があった。各地域や学校での課題、それぞれの先生方の考えを拝聴でき、大変有意義な時間となった。私のグループでは、地域ならではのよさを教師自身がよく知ること、そのよさを実感したり、体感したりすることが大切であるという考えが多く出され、大変参考になった。

4. 今後取り組んで行きたいこと  
・山ノ内町にはたくさんの方がいる。まだまだ気づいていないよさがたくさんあると感じる。教師自身が教材研究を行い、伝えたい良さを教材化するためにも、校内全体でESDについてもっと、研修を深める必要があると感じた。全国大会で学んだことを校内に伝えたい。

5. コンソーシアムに期待すること  
・長野県内で行われている実践について、より多くの先生方が知ってもらえる機会をつくっていただきたい。

信州大学関係者は、所定の「旅行完了報告書」の提出をもって代えることができる



## 第10回ユネスコスクール全国大会参加報告書

団体名	山ノ内中学校	報告者名	田中 耕史
プログラム参加状況（複数回答可）			
<input checked="" type="checkbox"/>	特別講演	<input checked="" type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input checked="" type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input checked="" type="checkbox"/>	全体会
分科会（ワークショップ／テーマ別交流研修会）参加状況（複数回答可）			
<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールならではの気候変動アクション	<input checked="" type="checkbox"/>	ESD/SDGsを学ぶための教材をどう作成するか
<input type="checkbox"/>	ESDの視点で教員の働き方を見直そう	<input type="checkbox"/>	多文化理解・多文化共生をどう進めるか
<input checked="" type="checkbox"/>	学校と地域をどうつなげるか	<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールが行う海外連携・協働学習～海外と日本の事例から学ぶ～
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチで学校をデザインしよう	<input type="checkbox"/>	ESDによる教育効果をどう測るか
<input type="checkbox"/>	どうやって周りを巻き込むか？～ESDリーダー像を考える～	<input type="checkbox"/>	ESDと防災
<input checked="" type="checkbox"/>	横浜の児童生徒が考えるSDGs		

## 1. 参加者名・職名・担当

清水恒善（校長）、田中耕史（教頭）、河野泰志（教諭・2学年）

## 2. 参加のねらい

- ・ESDに関わる先進的な取り組みを知るため。
- ・学校と地域とどうつなげるかについて情報交換をするため。
- ・関係の方々との交流、資料収集と今後の学校経営に生かすため。

## 3. 得られた成果

- ・分散会では、それぞれの地域、学校での取り組みについて成果や課題を情報交換することができた。
- ・本校の取り組みについて、他の地域の方からご意見、ご感想をいただくことで学校と地域とをつなげる際の課題を再確認することができた。
- ・卒業生の取り組みや意識、卒業後の生き方を知ることで、本校の今ある取り組みへの意味づけや課題、次年度への方向にたくさんの示唆をいただけた。また11分科会では児童生徒たちが主体となってSDGsに取り組む姿からユネスコスクールのめざす子ども像を捉え直すことができた。
- ・分散会では、様々な企業や団体がESD・SDGsの教材作成に取り組んでいること、また、そういった教材をどのように活用していく方法があるのかを知ることができた。特に、教材開発に取り組んでいる団体を通して学校間のつながりが生まれていることが興味深く、今後のESD学習の広がりを感じることができた。

## 4. 今後取り組んで行きたいこと

- ・生徒がSDGsを意識した活動を展開していかれるようにすること。
- ・行政やコンソーシアムとの連携による地域の方の取り込み。
- ・生徒が主体となって地域や社会の課題に取り組んでいけるような教材開発とカリキュラムマネジメント。
- ・生徒と地域・社会がつながる教材開発・教材の活用方法の追究。

## 5. コンソーシアムに期待すること

- ・学校間、他地域との交流や情報交換のコーディネート
- ・研修の機会や学校に対する指導助言を引き続きいただきたい。

信州大学関係者は、所定の「旅行完了報告書」の提出をもって代えることができる

(案)

## 第10回ユネスコスクール全国大会参加報告書

団体名	信州大学教育学部附属長野中学校	報告者名	畑 邦弘
プログラム参加状況（複数回答可）			
<input type="checkbox"/>	特別講演	<input type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input type="checkbox"/>	全体会
分科会（ワークショップ／テーマ別交流研修会）参加状況（複数回答可）			
<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールならではの気候変動アクション	<input type="checkbox"/>	ESD/SDGsを学ぶための教材をどう作成するか
<input type="checkbox"/>	ESDの視点で教員の働き方を見直そう	<input type="checkbox"/>	多文化理解・多文化共生をどう進めるか
<input type="checkbox"/>	学校と地域をどうつなげるか	<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールが行う海外連携・協働学習～海外と日本の事例から学ぶ～
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチで学校をデザインしよう	<input type="checkbox"/>	ESDによる教育効果をどう測るか
<input type="checkbox"/>	どうやって周りを巻き込むか？～ESDリーダー像を考える～	<input type="checkbox"/>	ESDと防災
<input type="checkbox"/>	横浜の児童生徒が考えるSDGs		

## 1. 参加者名・職名・担当

畑 邦弘 教頭

## 2. 参加のねらい

本校は、本年度ユネスコスクールに認定されたのであるが、ユネスコスクールの取り組みの具体が見えていない。ユネスコスクールの取り組み（何をどのようにして）について、全国の実践に学び、本校のこれからの実践に生かすこと。

## 3. 得られた成果

ユネスコスクールで大切にするのは、これからの日本の社会を築く人づくりであり、国際社会を築く人づくりであることがよくわかった。「ユネスコスクール」だと言って構えるのではなく、人づくり、社会づくりであることを再確認できた。  
ユネスコスクールの小中高校で学んだ生徒が、自分の学びを振り返っていました。環境保全や地域学習を通して地域を愛する心情を高めていました。また、先生方が子どもの願いを大切に学習を計画していました。大変参考になりました。

## 4. 今後取り組んで行きたいこと

本校の現在ある教育活動を見つめ直し、ユネスコスクールの考えと方向が同じものはないか、また、現在ある教育活動に「持続可能な開発目標（SDGs）」の視点を加えることができないかを検討していきたい。  
また、全職員の共通理解を図れる職員研修を実施していきたいと思う。

## 5. コンソーシアムに期待すること

現在も行っている情報発信をこれからもお願いしたいと思います。また、多くの小中高校との関係が作れる取組をお願いできるとありがたいです。

信州大学関係者は、所定の「旅行完了報告書」の提出をもって代えることができる

## 第10回ユネスコスクール全国大会参加報告書

団体名	長野県中野西高等学校	報告者名	
プログラム参加状況（複数回答可）			
<input checked="" type="checkbox"/>	特別講演	<input checked="" type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input checked="" type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input type="checkbox"/>	全体会
分科会（ワークショップ／テーマ別交流研修会）参加状況（複数回答可）			
<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールならではの気候変動アクション	<input type="checkbox"/>	ESD/SDGsを学ぶための教材をどう作成するか
<input type="checkbox"/>	ESDの視点で教員の働き方を見直そう	<input type="checkbox"/>	多文化理解・多文化共生をどう進めるか
<input type="checkbox"/>	学校と地域をどうつなげるか	<input checked="" type="checkbox"/>	ユネスコスクールが行う海外連携・協働学習～海外と日本の事例から学ぶ～
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチで学校をデザインしよう	<input type="checkbox"/>	ESDによる教育効果をどう測るか
<input type="checkbox"/>	どうやって周りを巻き込むか？～ESDリーダー像を考える～	<input type="checkbox"/>	ESDと防災
<input type="checkbox"/>	横浜の児童生徒が考えるSDGs		

## 1. 参加者名・職名・担当

清水彩乃・教諭・

## 2. 参加のねらい

・特に「異文化理解」の分野での活動に広がりを持たせ、生徒たちがもっと海外と繋がることのできるようなきっかけづくりや活動内容を知る。

## 3. 得られた成果

・ACCUを通すことによって、海外との交流を具体的に考えやすくなる上、金銭的にも助かることがある。地域に住んでいる外国籍の方の支援をいただくことにより、地域との交流が生まれると共に言葉の壁を越えやすくなる。「お互い絶対英語で交流！」等の形に拘りすぎず、できることをできる範囲で継続的に行う重要性。

## 4. 今後取り組んで行きたいこと

・ACCUを含め、活動をサポートして下さる機関やその取り組み内容について、まずは教員側の知識を深め、自校に合った継続性のある取り組みを模索していきたい。

## 5. コンソーシアムに期待すること

・パネルディスカッションやASPnetの取り組みを拝聴し、教員側からの提示で何か活動に取り組むのではなく、縦の繋がりから生徒や学生の視点で主体的且つ継続的に活動することができるシステム等があれば非常に有効であると感じました。

信州大学関係者は、所定の「旅行完了報告書」の提出をもって代えることができる

(案)

## 第10回ユネスコスクール全国大会参加報告書

団体名	中野西高校	報告者名	片岡 めぐみ
プログラム参加状況（複数回答可）			
<input checked="" type="checkbox"/>	特別講演	<input checked="" type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input checked="" type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input type="checkbox"/>	全体会
分科会（ワークショップ／テーマ別交流研修会）参加状況（複数回答可）			
<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールならではの気候変動アクション	<input type="checkbox"/>	ESD/SDGsを学ぶための教材をどう作成するか
<input type="checkbox"/>	ESDの視点で教員の働き方を見直そう	<input type="checkbox"/>	多文化理解・多文化共生をどう進めるか
<input type="checkbox"/>	学校と地域をどうつなげるか	<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールが行う海外連携・協働学習～海外と日本の事例から学ぶ～
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチで学校をデザインしよう	<input type="checkbox"/>	ESDによる教育効果をどう測るか
<input checked="" type="checkbox"/>	どうやって周りを巻き込むか？～ESDリーダー像を考える～	<input type="checkbox"/>	ESDと防災
<input type="checkbox"/>	横浜の児童生徒が考えるSDGs		

## 1. 参加者名・職名・担当

片岡 めぐみ（教諭）【校務分掌】ユネスコ委員会 委員長  
清水 彩乃（教諭） 別紙レポートで提出

## 2. 参加のねらい

・現在行われている ESD 活動を、持続させ更に生徒に浸透させるために職員の理解がほしい。一人でも多くの職員が ESD 教育に関心を持ち、生徒と楽しくできるための取り組みを学ぶ。  
・ESD 教育のリーダーとしての悩みを共有し、(自分自身の)モチベーションを持続させる方法を知る。

## 3. 得られた成果

・何か新しいことをやろうとするイメージではなく、現在の取り組みを ESD 教育の内容に結び付けていく。SDGs の内容に関わるということを教科の中で意識させる。・ESD 推進委員会は、定期的に会議を行い議題がなくても話し合いの場を設けている。・保護者や地域に対して、活動の様子をこまめに発信している。

## 4. 今後取り組んで行きたいこと

・本校の活動は、地域に積極的に関わって ESD 活動が行われている。しかし、教育としての取り組みに欠けている。事前学習（なぜその活動が地域にあるのか・地域の課題は何か）実践活動（どのような目標で参加するか）振り返り（自分が感じたことなど）まとめ発表 が系統だっでされていない。学校全体として取り組めるよう総合学習に取り入れていけるよう働きかける。・教員も『指導』という視点でなく、ともに活動していく気軽さで参加できるように促したい。・印刷室に SDGs シールを置いて、印刷物にテーマを貼ってもらう。

## 5. コンソーシアムに期待すること

日本全国のユネスコスクールの大学で特色ある活動やイベント、外部の人も参加できるようなものがあれば行きたい。また、高校での ESD 活動を評価し大学でも継続して ESD 活動ができるよう部活動のスポーツ枠のように、ESD 枠を設けて入学できるような体制を作ってほしい。

・高校での活動が将来にわたって活動できるよう、大学や企業に進路としてつなげていける仕組みづくり。

信州大学関係者は、所定の「旅行完了報告書」の提出をもって代えることができる

(案)

第10回ユネスコスクール全国大会参加報告書

団体名	長野県長野西高等学校	報告者名	唐澤 順子
プログラム参加状況 (複数回答可)			
<input checked="" type="checkbox"/>	特別講演	<input checked="" type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input checked="" type="checkbox"/>	全体会
分科会 (ワークショップ/テーマ別交流研修会) 参加状況 (複数回答可)			
<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールならではの気候変動アクション	<input type="checkbox"/>	ESD/SDGsを学ぶための教材をどう作成するか
<input type="checkbox"/>	ESDの視点で教員の働き方を見直そう	<input checked="" type="checkbox"/>	多文化理解・多文化共生をどう進めるか
<input type="checkbox"/>	学校と地域をどうつなげるか	<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールが行う海外連携・協働学習～海外と日本の事例から学ぶ～
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチで学校をデザインしよう	<input type="checkbox"/>	ESDによる教育効果をどう測るか
<input type="checkbox"/>	どうやって周りを巻き込むか?～ESDリーダー像を考える～	<input type="checkbox"/>	ESDと防災
<input type="checkbox"/>	横浜の児童生徒が考えるSDGs		

1. 参加者名・職名・担当  
唐澤 順子 教諭 ユネスコスクール委員会委員長

2. 参加のねらい  
ユネスコスクールやESD推進の<sup>具体的</sup>活動を<sup>知り</sup>本校での教育に活かすため

3. 得られた成果  
学校だけでなく 地域や企業と関わることの大切さを学んだ  
大会には 教員だけでなく 生徒や卒業生も参加して 持続(継続)の大切さを改めて学んだ

4. 今後取り組んで行きたいこと  
ESDへの関心が 強い人と弱い人がいるので、<sup>みんなの</sup>関心が高まることを 生徒とともに 行っていきたい。

5. コンソーシアムに期待すること

信州大学関係者は、所定の「旅行完了報告書」の提出をもって代えることができる

(案)

第10回ユネスコスクール全国大会参加報告書

団体名	文化学園長野中学・高等学校	報告者名	中村 祐貴
プログラム参加状況 (複数回答可)			
<input checked="" type="checkbox"/>	特別講演	<input checked="" type="checkbox"/>	ランチョンセッション
<input checked="" type="checkbox"/>	パネルディスカッション	<input checked="" type="checkbox"/>	全体会
分科会 (ワークショップ/テーマ別交流研修会) 参加状況 (複数回答可)			
<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールならではの気候変動アクション	<input checked="" type="checkbox"/>	ESD/SDGsを学ぶための教材をどう作成するか
<input type="checkbox"/>	ESDの視点で教員の働き方を見直そう	<input type="checkbox"/>	多文化理解・多文化共生をどう進めるか
<input type="checkbox"/>	学校と地域をどうつなげるか	<input type="checkbox"/>	ユネスコスクールが行う海外連携・協働学習～海外と日本の事例から学ぶ～
<input type="checkbox"/>	ホールスクールアプローチで学校をデザインしよう	<input type="checkbox"/>	ESDによる教育効果をどう測るか
<input type="checkbox"/>	どうやって周りを巻き込むか?～ESDリーダー像を考える～	<input type="checkbox"/>	ESDと防災
<input type="checkbox"/>	横浜の児童生徒が考えるSDGs		

1. 参加者名・職名・担当  
中村 祐貴  
教諭  
本校国際理解教育委員会 委員

2. 参加のねらい  
ユネスコスクールに加盟して2年目となり、様々な活動を行って参りました。  
今回の第10回ユネスコスクール全国大会においては、本校の活動が認められ、ポスター展示の機会をいただきました。  
ポスター展示を行い、本校の活動の広報とともに、他校の実践を学ぶために参加いたしました。

3. 得られた成果  
本校の活動の広報は、ポスター展示において無事に行うことができました。  
パネルディスカッション、特別講演等の話を聞きながら、今後の活動の展望も浮かんで参りました。  
分科会においては、一般社団法人Think the earthさんの話などを聞き、今後の総合学習や生徒会活動に活かすことが多くあるように感じました。

4. 今後取り組んで行きたいこと  
Think the earth発行の「未来を変える目標 SDGsアイデアブック」を昨年学校に50冊近くいただきました。その本を教科書としながら、学習活動を展開できないかと考えています。一年間の生徒会活動の一貫した目標作り前に前述の本を使って、確固とした目標を組み立てる礎としたい。

5. コンソーシアムに期待すること  
信州のESD教育を牽引するコンソーシアムだと思います。今後さらに活動校や活動実績を増やし、信州が先進的に行っている学習活動が全国に広がるようになってほしいと思います。  
2月3日のESDコンソーシアム長野大会も、よろしくお願いします。

信州大学関係者は、所定の「旅行完了報告書」の提出をもって代えることができる

「第10回ユネスコスクール全国大会」 参加報告 諏訪ユネスコ協会 矢崎靖雄

1. 日時：平成30年12月8日（土）10時～17時15分
  2. 会場：横浜市立みなとみらい本町小学校
  3. テーマ：「未来はワタシたちを待っている—ESDで育てる児童生徒、教師、そして学校、地域社会」
  4. 日程：
    - 10:00-10:30 開会式
    - 10:30-11:30 特別対談「未来をつくる人材育成のあり方を考える」  
安西祐一郎（日本ユネスコ協会国内委員会会長）  
宮内孝久（横浜市教育委員、神田外国大学学長）  
コーディネーター：杉村美紀（日ユ国内委員会教育小委員会委員長）
    - 11:40-13:00 パネルディスカッション  
「ESDがつくるワタシたちの未来—ユネスコスクールで学び、育ち、そして進む」  
(内容)ユネスコスクールを卒業した大学生や社会人、また指導をした教師たちが実際の体験を語ったが、どのパネラーもユネスコスクールで学習したことがその後の人生に大きく影響したと語られた。
    - 13:00—14:20 ランチョンセッション
    - 14:30-16:30 分科会
      - 第4分科会「多文化理解・多文化共生をどう進めるか」（田村満理参加）  
ファシリテーター 小貫大輔（東海大学教養学部国際学科教授）  
(内容) 東海大学ユネスコユースチームは、「多文化共修」の合宿イベントを開き、インターナショナルスクールやエスニックスクールの高校生たちと出会った体験と同じような場面を設定して体験することから始め、参加者が「言葉が通じない」環境に飛び込み、体を使って多文化な状況を乗り切るワークショップ。多様な背景を持つ学習者たちが対等の立場で学び合う「多文化共修」は、どうしたら可能か共に学び合うことが出来た。
      - 第5分科会「学校と地域をどうつなげるか」（矢崎靖雄参加）  
ファシリテーター 柴尾智子（ESD活動支援センター 次長）  
(内容) ESDには、地域を学ぶ、地域で学ぶ、地域から学ぶ、(持続可能な) 地域のために学ぶ、など様々な視点が必要だと言われている。学校側にも、「地域」のそれぞれのものごとの進め方があり、強みも、可能性も、課題もあると言われている。持続可能な地域のために、学校、「地域」のそれぞれが、あるいは第三者が、できること、すべきこと、できればいいことを、実践発表をもとに学び合うワークショップ。  
(実践発表) (1) 地域で活動する立場から：  
鈴木雄介（伊豆半島ジオパーク推進協議会選任研究員）  
テーマ「地域の自然と人とのかかわりを知る学習とは」  
(2) 学校の立場から 薄 陽太（只見町立明和小学校教諭）  
テーマ「地域を知り、地域や社会の持続発展に寄与する学習活動」
- (総括)
- 第4分科会 東海大学教授と接触出来、地元付属諏訪高校への足がかりを得たこと。
  - 第5分科会 永明小学校の吉川豪先生が会のまとめを発表され、また廊下には永明小学校の活動の成果が同校から参加された福島佳之先生（第2分科会）の手により前日から掲示され多くの注目を集めていた。

## V

## 長野県内のユネスコスクール年次報告

## 信州大学教育学部附属幼稚園

加盟年:2018年

### 1 平成30年度活動分野

環境

### 2 平成30年度活動の概要

本園は、「自然環境を大切にすることを育む」を活動テーマとして、ESDを学びの場と捉え、ESDの実践を通して資源の再利用を通じた環境保全を主体的に進めようとする力の育成を目標とした。具体的には、資源回収、資源の分別、資源の再利用を柱に、①資源回収に係わる活動、②再生資源を使った遊びに係わる教育、③資源に係わる学習、④環境に係わる学習を行った。

- ①資源回収に係わる活動:本園では、家庭で捨てられてしまうトイレトペーパーの芯や牛乳パック、空き箱、ヨーグルトの容器等を集めていただき、幼稚園の回収箱へ分別していただいている。幼稚園の回収箱は、中身が見える透明な箱に「ひらがな」で明記し、保護者だけでなく子どもたち自身も分別できるようにしている。最近では、幼稚園以外の地域の方にも協力いただけるようになってきた。
- ②再生資源を使った遊びに係わる教育:資源回収で集まった素材を物によって洗浄・消毒し、子どもたちの創作活動や遊びに自由に使える素材として提供している。子どもたちは、トイレトペーパーの芯やヨーグルトカップ、空き箱などを使って武器や動物などをつくって遊ぶことを通して、物をゴミとして簡単に捨てるのではなく、資源として生かすという考えが自然と身に付いてきている。
- ③環境に係わる学習:「環境」については、帰りの会などに担任の先生が紙芝居を使ってお話しをする機会を設けた。子どもたちの中には、それをきっかけにして家庭に帰っても保護者と「環境に関する話をする園児も見られた。また、副園長の講話などの機会を使って環境を大切にすることのお話しをする機会を設けた。
- ④資源に係わる学習:回、本の読み聞かせ同好会の方をお呼びし、子どもたちに読み聞かせをしていただく。その中で、年少、年中、年長に合った「資源」や「リサイクル」に係わる内容の絵本の読み聞かせをお願いし、お話しを楽しみながら資源を大切にしようとする気持ちを育ててきた。

### 3 平成31年度の活動計画

平成31年度は、県内の国公立幼稚園に職員が出向き、家庭から出た資源を使った遊びを子その園の子どもたちや職員に伝えたり、松本市内の幼稚園園児を招き、本園の廃品やリサイクル素材を使った遊びを一緒に行うことで、環境問題について共に考える活動を展開していきたい。

また、PTAや地域住民に子どもたちと協力を願い、幼稚園内だけでなく、地域にも資源の再利用を呼びかけ、幼稚園とPTA、地域住民で協働した資源再利用の取り組みを進めていきたい。

加えて、絵本の読み聞かせ同好会や信州大学教育学部の先生等ご協力いただき、地球環境に関する子どもたちの学齢にあったお話を聞く機会をつくっていきたい。

## 茅野市立永明小学校

加盟年:2017年

### 1 平成30年度活動分野

環境・生物多様性・国際理解・世界遺産や地域遺産等・食育・持続可能な生産と消費・貧困・グローバル・シチズンシップ教育(GCEDその他)

### 2 平成30年度活動の概要

本校は2017年度にユネスコスクールとなった。学校目標は『ともに拓く』～なかよく・かしく・たくましく～。今までの教育活動をESDの視点で捉え直し、「つむぎ合い」を中心にすえて取り組んできた。具体的には、①「縄文科」学習、②子ども服回収の活動、③「全校つむぎ合い講座」の講演、④書き損じはがき集めに係る活動を行った。

- ①「縄文科」学習:茅野市は、二体の国宝土偶が出土している。そこで、市内全小中学校で「縄文科」学習に取り組んでいる。本校では3学年で、『火を使っていた』という点から班ごとに火起こしに取り組んだ。火を着けることは簡単ではないこと、協力や協働なくしては着けられないことについて体感した。5学年はキャンプ学習の際に火起こしをしたり、尖石縄文考古館で縄文人の生活について学んだりした。
- ②子ども服回収の活動:ユネスコスクール全国大会でファーストリテイリングの“届けよう、服のチカラ”プロジェクトを知った。「世界のために、何かできることをしたい」という願いをもった5年1組の児童に、子ども服回収について出張授業をしていただいた。全校に呼びかけるとともに、幼稚園や保育園、公共施設や習い事先にもお願いをし、5000枚近い服が集まった。「難民の人たちを笑顔にしたい」という思いが活動の原動力となり、力を合わせると大きなことがなせることがわかった。そして、自分が活動したことが世界につながっていることを実感した。
- ③「全校つむぎ合い講座」の講演:茅野市の姉妹都市である台湾高雄市の中学との交流について、永明中学の先生や生徒から講演をしていただいた。言語として多くの言葉を使っていることや日本との関係が深いことを知り、身近な外国を知る機会にもなった。
- ④書き損じはがき集めに係る活動:回収ボックスを昇降口に置き、2月初旬まで書き損じはがきを回収する。世界には公的教育を受けられない小学生がいる事実を知り、自分ができるところから行動に移す姿を育めた。

### 3 平成31年度の活動計画

全学年が縄文科の学習を通して、縄文土器や土偶に興味をもったり、どんな暮らしをしていたのか思いを馳せたりする。知恵を働かせ、協力して生活していた素晴らしさを体験を通して学ぶ。ESDの理念や「接続可能な開発目標(SDGs)」を職員に周知し、学習活動や行事のねらいを角度づけしていく。具体的には、学年別指導計画をSDGsの視点がねらいとなっているものを、シンボルマークで示す。また、各教科横断的なつながりを付け加え、ESDカレンダーとする。今年度、5学年の一学級で取り組んできたファーストリテイリング “届けよう、服のチカラ”プロジェクトについて、継続して申請し取り組みを拡げていきたい。ユネスコ協会の取り組みとして行っている書き損じはがき回収に引き続き協力していく。

## 高山村立高山小学校

加盟年:2016年

### 1 平成30年度活動分野

環境・防災・生物多様性・世界遺産や地域遺産等・人権・平和・健康・福祉・食育・エコパーク

### 2 平成30年度活動の概要

高山小学校のユネスコスクールの活動は、「日本でもっとも美しい村でのふるさと学習」を基本に学習を進めている。具体的な取り組みとしては、①学校・PTA・公民館が共催する親子体験ふれあい体験講座「わくわく村」 ②生活科・総合的な学習の時間を中心にした地域に学ぶふるさと学習 ③学校支援ボランティア この①～③を3本の矢として考え取り組んでいる。

- ①学校・PTA・公民館が力を合わせた「わくわく村」講座の取組みの一部:親子ふれあい体験講座である「わくわく村」は本年度も計20講座開設した。親子のふれあいだけでなく、地域の人々との交流・自然環境のすばらしさに触れたり、歴史や文化といった風土にも学んだりして、その魅力を肌で感じる事ができた。
- ②平成30年度活動の概要:高山小学校のユネスコスクールの活動は、「日本でもっとも美しい村でのふるさと学習」を基本に学習を進めている。具体的な取り組みとしては、①学校・PTA・公民館が共催する親子体験ふれあい体験講座「わくわく村」 ②生活科・総合的な学習の時間を中心にした地域に学ぶふるさと学習 ③学校支援ボランティア この①～③を3本の矢として考え取り組んでいる。
- ③学校支援ボランティアの方の活用による活動:子ども達が村の大人と関わることで、村との絆を強めたり感謝の気持ちを高めたりする事が出来た。(今年行われた主なボランティア活動)朝顔のリース作り(1年)大豆作り(2年)りんごの学習(3年)書写指導(3, 4, 5, 6年)調理実習(4, 5, 6年)読み聞かせ(全学年)

### 3 平成31年度の活動計画

平成31年度高山小学校のユネスコスクールの活動計画は、本年度同様、「日本でもっとも美しい村でのふるさと学習」を基本に学習を進めていく。具体的な取り組みとしては、①学校・PTA・公民館が共催する親子体験ふれあい体験講座「わくわく村」の内容を見直し、さらに充実させていく。 ②生活科・総合的な学習の時間を中心にした地域に学ぶふるさと学習を各学年のESDカレンダーを基に進めていく。③学校支援ボランティアを充実させ、地域の素材と共に地域の人と関わりを深めていく。

## 山ノ内町立東小学校

加盟年:2014年

### 1 平成30年度活動分野

環境・エネルギー・生物多様性・世界遺産や地域遺産等・健康・福祉

### 2 平成30年度活動の概要

本校は「○よく考え行う子(かしこく)○気力にあふれやりぬく子(たくましく)○なかよく力を合わせる子(やさしく)」を学校目標としている。ESD教育に関しては E…いいと思うことを S…すすんで D…できる子 を活動テーマとして、ESDを「自ら考え、自ら行い、自らを高める活動」と捉え、ESDの実践を通して変化の激しい社会を心豊かにたくましく生き抜いていく基盤となる力の育成を目標とした。

- ①生物多様性に係わる活動:1年生がウサギを飼育し、名前付けや小屋作り、お世話、遊び場作り、歌作りと歌唱といった活動を通して、ウサギの成長の様子に関心を持ち、動物が生命を持っていること、成長していることに気づき、生き物への親しみを持ち、大切にしようとする態度を育てることができた。
- ②世界遺産や地域遺産等に係わる教育:2年生は地元の渋温泉の外湯巡りをし、実際に自分たちでお風呂に入ってみて外湯文化にふれ、それを支えている人々がいることを知り、それらを大切に、正しく利用する態度を育んだ。3年生は、地元名産のリンゴ栽培活動を行い、果樹農家の方に教わりながら摘花から収穫までの過程を体験した。この活動を通して、学習したことと自分の生活とを結びつけて物事をとらえる力を育むことができた。4年生は、山ノ内町が発祥で、志賀高原の間伐材から作られる楽器のコカリナの学習に取り組んだ。コカリナの製作を通して身の回りの環境とのかかわりについて考え、練習した成果を地域の方々に発表することができた。
- ③環境に係わる学習:志賀高原ユネスコエコパークプロジェクト「ABMORーいのちを守る森づくり」の環境保護活動に参加してきた。1・2年生は、どんぐりをプランターに播く活動を行い、3年生は、コメツガの採取を行い、身の回りの環境と自分とのかかわりについて考えることができた。また、5・6年生も植樹作業を行った。植樹作業ではグループで役割を分担して効率よく取り組み、毎年参加をいただいている歌舞伎役者の市川海老蔵さんにも子ども達の頑張りを認めていただき、今後の活動の意欲にもつながった。さらに6年生は、志賀高原の遊歩道整備作業に参加した。同活動では、町のユネスコエコパーク担当の方から、志賀高原とユネスコエコパークについての理解を深めるための授業を受け、何のための活動であるのかについて学習を行った。志賀高原の現状と課題を把握した子どもたちは、今後どのように自分たちが関わっていけば良いのかを考えるきっかけとなった。作業では、遊歩道の整備や清掃を行い、自分たちの取り組みが自然を守ることにつながることを身をもって実感することができた。
- ④健康・福祉に係わる学習:4年生は、デイサービスセンターの方々と視覚障がいをお持ちの方との交流を行った。子どもたちは、これまでの疑問を解消するとともに、交流させていただいた方々の生活における工夫や、わたしたちのわずかなサポートで、自分たちと同じように生活されていることを学ぶことができた。
- ⑤エネルギーに係わる学習:5年生は、山ノ内町の間伐材を使って炭焼きをし、できた木炭をバーベキューで使う学習をした。子どもたちは、資源を有効に使うこと、木炭は火持ちがよく火力が強くてとても便利なものであることを体験を通して学ぶことができた。

### 3 平成31年度の活動計画

- ①地域での福祉交流活動。
  - ・ふれあい広場への参加(3年生) ・点字、手話、アイマスク体験(4年生)
- ②志賀高原ユネスコエコパークプロジェクト「ABMORIーいのちを守る森づくり」や志賀高原の環境保護活動等。
  - ・どんぐり播き(1・2年生) ・大豆の栽培と味噌づくり(2年生) ・コメツガの採取活動、リンゴ栽培学習(3年生) ・市川海老蔵さんとの植樹活動(5・6年生) ・遊歩道整備(6年生)
- ③学年に応じた志賀高原ユネスコエコパークエリアでの野外活動。
  - ・地獄谷野猿公苑(1年生) ・志賀高原自然教育園遠足(2年生) ・コカリナの製作・演奏(4年生) ・高原学習(5年生)

## 山ノ内町立西小学校

加盟年:2017年

### 1 平成30年度活動分野

環境・エネルギー・防災・生物多様性・気候変動・国際理解・健康・福祉・食育・持続可能な生産と消費・エコパーク

### 2 平成30年度活動の概要

当校は、「ふるさとを愛し、慈しみの心と未来を切り拓く力を育てる学校」を学校理念として、ESDを「持続可能な社会の作り手となることを期待される児童の生きる力を育む教育」と捉え、ESDの実践を通して集める力・まとめる力・伝える力の育成を目標とした。具体的には、エネルギー・環境、防災学習、健康・福祉を柱に、①環境に係わる活動、②食育に係わる学習、③防災・減災に係わる学習、④健康・福祉に係わる学習を行った。

#### ①環境に係わる活動:

- 昨年度まで焼却処分していた落ち葉(桜)を朝や清掃の時間に集めて畑で使う腐葉土にすることにした。また、道路(歩道)に落ちた学校の桜の落ち葉も子どもたちが集めることで地域を自分たちの手できれいにしようとする気持ちも育ってきたと思われる。
- ビオトープでの水生生物の観察を春と秋の2回行い、季節によって見られる生物の違いや周りの植物の様子などを体感することで生物が生存することのできる環境に目を向けるとともに、ふるさとの原風景とともに自然を守っていくにはどうしたらいいかという課題設定へとつながった。

#### ②食育に係わる学習:

- 社会科の単元「わたしたちの生活と食料生産」の発展として米作りを行った。全く機械の手を借りないですべて自分たちの力(人力)で収穫まで行うことで稲作作業の大変さを身を持って感じ取るとともに、食べ物への感謝の気持ちや世界的な食糧問題についても視野を広げて考えることができた。
- 地元のJA女性部に協力していただき、大豆を種まきから世話をし収穫まで行った。そして豆腐に加工して味わうことで昔からの先人の知恵を感じることができた。

③防災・減災に係わる学習:「自分たちの住む町は、災害に対して本当に安全なのだろうか」という課題が設定され、実際に地域に出かけて行って危険箇所や緊急避難所を調べた。そのことから災害弱者であるお年寄りが避難場所へ行けないことに気づき、一人暮らしのお年寄りに対して災害時の避難の仕方や備蓄品についてのアンケートをとった結果を、自分たち独自の防災パンフレットに載せて町の子ども議会でもパンフレット案を元にしたパンフレットの配布や安全対策、今後の対応について提案をした。その後、行政の各部署で提案についての具体的な対策を考えてもらうことができ、自分たちが行政(大人たち)に働きかけることができたという充実感を味わうことができた。

④健康・福祉に係わる学習:老人介護ホームのお年寄りとの交流を重ねることで相手の立場や気持ちになって考え、行動するにはどうしたらよいかを考えることができ、思いやりの気持ちを育てることができた。また、視覚に障がいのある方に点字を教えてもらったり音楽会に招待して曲を聞いてもらったりして交流した。このほかに、ヤギの飼育を通して命の学習、志賀高原エコパークの学習、地域特産物であるリンゴの栽培と販売を通しての学習などに取り組んだ。

### 3 平成31年度の活動計画

- 各学級の生活科や総合的な学習の時間において中核活動を中心にしたESDカレンダーを充実させ、一年間の活動の見通しが持てるようなストーリーマップを作成していく。また、ESDカレンダーの作成に当たって教科横断的な指導計画になるように加除修正していけるようにする。
- 町内小中学校との連携を図り、職員間の研修の機会を共有できるようにする。また、児童生徒間の交流を進めていくために「伝える力、発信する力」を引き続き育ていき、コミュニケーションを行う力を育てていきたい。

## 山ノ内町立南小学校

加盟年:2017年

### 1 平成30年度活動分野

生物多様性・健康・福祉・食育・持続可能な生産と消費・エコパーク

### 2 平成30年度活動の概要

当校は、「素直に思いをかわし合うこと」を研究テーマとして、ESDをこれまでの教育活動の再編成・捉えなおしと考え、ESDの実践を通して、子どもたちが、自らの思いの表出から表現していく力の育成を目標とした。具体的には、生活科や総合的な学習の時間を柱に、①ウサギとのくらしをつくる活動、②町名産のリンゴづくりと販売を体験する学習、③大豆にかかわる学習を進めている。

①ウサギとのくらしをつくる学習(2年):2年生は昨年ウサギとの生活を行っている。昨年支援学級の畑にウサギのふんを毎日まき、ふん、土、野菜、人間、動物の関係を「ぐるぐる」と表現した子どもたちは、今年は自分たちで畑をつくり、そこにふんをまこうと考えた。実際に畑の活動をはじめると、「グルグル大根をつくる畑なんだから、うねもぐるぐる巻きにしよう」と語り、活動をすすめた。7月、12月には、大根の収穫を行うことができた。にんじん畑では間引きを行った。間引いたにんじんをうさぎにあげるとこちらは喜んで食べる。飼っているウサギは大根よりもニンジンの方が好みなのだとなり、言葉を話さないうさぎのことを分かって活動した。9月になると校内音楽会に向け、どんな発表をしたいかを考え、今年も「うさぎとの生活を歌にしたい」ということになり、5つの曲をつくり、全校児童や保護者に向けて発表をした。

②町名産のリンゴづくりと販売を体験する学習(2年):2年生は、学校の敷地内にあるリンゴ畑でリンゴ作りの体験を行っている。リンゴの観察や摘花、葉摘み、玉回し、収穫を行った。落ちてしまったりリンゴを試食した子どもたちは、そのおいしさを改めて感じ、たくさんの人にりんごを食べてもらいたいと願い、道の駅での販売をした。するとりんごを購入した方から手紙が来て、子どもたちもその方に国語で学んだ「しかけカード」で返事を書くなどの活動に広がった。

③大豆にかかわる学習(3年・4年):4年生は昨年に続き、大豆を通して、県や地域を知ること、さらに健康で元気な町づくりについて考えようとしている。昨年の経験も生かして、今年一人一人が鉢で育てて「マイ大豆」をつくった。さらに畑では大豆を育てているが、鳥に食べられてしまったり虫も大量に発生したりしてしまった。そこで、家の人に聞いたり、地域の人に聞いたりして鳥や虫の対策を進めた。また、昨年しこんだ味噌も用いて、高齢化が進む町の現状を踏まえて、お年寄りもみんなが元気に過ごすための朝食を考えたいと願って活動を進めている。3年生は「すがたを変える大豆」をきっかけに大豆づくりを行ってきた。11月に給食で納豆が出されたことや、地域探検で納豆やさんを発見したことをきっかけに、12月に納豆づくりを行った。その納豆をおいしく食べてほしいと願った子どもたちは、各家庭の納豆料理を持ち寄り、一口に納豆といっても様々な方法で食べることができると気づいていった。

### 3 平成31年度の活動計画

2019年度は、本校のESDテーマを、「つなぎたい、わたしの町の、もの・ひと・こと」と設定して、全校児童と職員はもちろん、保護者、地域の方と共にESDの推進を図っていききたい。低学年においては、生活科を軸として、これまで行ってきた「リンゴづくり」も含めて、身の回りに暮らす町の人や生き物とのつながりを育みたい。中学年、高学年では総合的な学習の時間を軸にして、児童を取り巻く、「もの」や「こと」を知り、かかわる活動をすすめたい。さらに「もの」や「こと」を介して出会う人とのつながりから、改めて、「もの」や「こと」を見つめ直すことで、町の魅力や課題をとらえなおし、自分の問題として行動する姿を育みたい。

## 信州大学教育学部附属長野小学校

加盟年:2018年

### 1 平成30年度活動分野

環境・防災・食育

### 2 平成30年度活動の概要

本校は、人間愛と共生の心に基づき、教師と子どもが「共に在る」を教育理念として、ESDを「『ひと、もの、こと』とのつながりのなかにある、かけがえのない命・わたしとあなた」と捉え、ESDの実践を通して問題発見、課題解決、対話的で深い学びの力の育成を目標とした。今年度、具体的には総合的な学習の時間を柱に、①防災に係わる活動、②環境(ゴミ)に係わる活動③環境(林業)に係わる教育、④食育に係わる学習に係わる学習を行った。

- ①防災に係わる活動:例年、春に行われる校内避難訓練の後、「本当に今のままの避難訓練で災害から身を守ることができるのか」と、自分たちの訓練に取り組む態度へ疑問をもち、他校の防災設備や防災倉庫、県内の輪中地域でかつて大きな水害を経験した小学校の避難訓練の様子などを取材したり、県の防災課を訪ね、専門家の方に指導を受けたりしながら、他の学年にも学んだことを伝えるなど、防災への意識を高めていくことができた。
- ②環境に係わる学習(ゴミ):ゴミを減らすため、自分たちに何ができるのかを問い、学校周辺や通学路でのゴミ拾いを行うなどの取り組みを行った。拾ったゴミの行方に関心をもち、長野市のゴミ処理の仕組みや、処理に関する課題を調べた。市民がゴミ処理手数料を負担していることや、最終処分場を市外に委託している事実と出会い、ゴミ処理には多くの負担があることを知ること、リデュースの必要性について考えを深めることができた。
- ③環境に係わる学習(林業):県の8割をしめる森林の有効活用が進んでいない林業の実態に、「なぜ木材が使われないのか」と疑問を持ち、実際に林業に携わる長野県環境部、長野県環境保全協会の皆さんを訪ねたり、市有林へ行き、森林整備の現場(伐採、枝打ちなど)を見学したり実際に体験したりして、森林の有用性を理解していった。また、森林整備の大変さや林業従事者の後継者不足などの課題に着目し、県民の一人としてどう向き合っていけばよいのか考えながら、校舎移転時に植林された校庭林の間伐にも挑戦し、森林を身近に引き寄せながら学習を深めている(5学年。現在も継続中)。
- ④食育に係わる学習:本校は県内でも少なくなった「自校給食」が食べられる恵まれた学校であるが、ある日学級で給食の時間が短く、大量の残食が出てしまったことを問題にした4年生が、栄養士さん、給食調理員さんの給食への思いを聞きに行ったり、各学級の教室に行って、共に給食を食べながら食についての語らいをすることで、少しでも高く食べ物への関心を持ってもらおうとしたり、生産者や残食の行方など調べたことや自分たちの願いを新聞にして発表したりすることで、残食を減らしたいという願いに向かって学習を進めている(4学年実践)。

### 3 平成31年度の活動計画

環境・食育に係わる学習(低学年):学校の周辺には畑や水田が多く、またそのために張り巡らされた用水路がある。子どもたちは「散歩」をしながら、農作業をされている地域の方や水路を守る水利組合の方たちに出会い、土地の様子や環境維持への配慮を聞いたり、豊かな動植物とのふれあいをしたりすることで、身近な自然環境への興味関心を高める。また、田畑をお借りしながら作物作りを通して、育てること、食べること、人や地域のつながりなどを学んでいく。さらに動物飼育も行う中で、「食」や「命」についても学んでいく。

環境に係わる学習(高学年):ドロで埋め尽くされ、ついに池の体をなすことすらなくなった自然体験園の「大池」をよみがえらせた卒業生の意志を継ぎ、再び泥が池を埋め尽くさないための手立てと、本来ビオトープとしても機能していた大池に、再び様々な生き物が棲める環境を創っていく。

食育・エネルギーに係わる学習:他の穀物類と比較して圧倒的な収穫があり、アレルギー原因物質を含まないとされる「スーパーフード」と呼ばれるソルガム粉を、家庭科の調理実習の材料として創意工夫を重ねながら、調理に取り組み、ソルガムの有用性を学ぶ。また、信州大学で研究を進める先生方や学生の皆さんにも教えていただきながら、食のみならずバイオエタノール、飼料などとしても多大な可能性をもつソルガムについて見識を広げていく。

## 信州大学教育学部附属松本小学校

加盟年:2018年

### 1 平成30年度活動分野

環境・生物多様性・食育

### 2 平成30年度活動の概要

本校は、「心身ともにたくましく心豊かな真の地球市民の育成と、国際的・地球的視野から崇高な生命と地球を保全し、社会と人類の幸福に貢献することのできる児童の発達に寄与すること」をねらいとして、活動を行っている。具体的には、①“暮らす”②“食べる”③“生きる”の観点に係わる学習を行った。各学級の取り組みは以下の通り。

- ①“暮らす”の観点に係わる学習:身近にある様々な種類の紙と遊ぶ中で、和紙に出会った子どもたち。和紙について調べてみると、植物から和紙が作れることが分かった。和紙職人との関わりの中で、和紙作りに興味関心を持った子どもたちが、自分の手で楮(和紙の原料となる植物)を育て、「自分たちの和紙作り」に挑戦している。
- ②“食べる”の観点に係わる学習:板あめ、まめ板(飴)作りを行ってきた。300年近くの歴史を誇る山屋さんの板あめに出会ったとき、麦芽糖が生み出す甘さや、口どけ感到惚れ込み、飴作りにチャレンジしたいと願った。昨年度見た目はや味は立派なまめ板に近づいたが、食感に課題が残った。今年度、昨年度の反省をもとに飴作りに取り組んだ。材料の分量や混ぜるタイミングや時間等話し合いながら、よりまめ板に近い飴を完成させることが出来た。
- ③“生きる”に係わる学習:
  - 蚕を育てた子どもたち。桑の葉を自ら集め、部屋を掃除したり、蚕の家を作ったりして、蚕の育て方を考えて毎日飼育してきた。大切に育ててきた蚕が繭を作ってから、なかなか蚕蛾として現れてこないことに疑問を抱き、繭に働きかけていった。念願の蚕蛾、そして卵との出会い。今度こそは、「蚕を一頭も死なせないように」と全員で願いを確認した。
  - クラスで飼育している羊が、今年度は出産ラッシュで5月に2頭、6月に2頭生まれた。2回の出産に、幸運にも子どもたちは立ち会うことができ、生命誕生の神秘さや命についての畏敬の念を抱くことができた。生まれた小さな命のために、そして授乳する母羊のために、子どもたちは自分たちにできることを考え取り組んできた。

### 3 平成31年度の活動計画

- 児童は、自然や生き物、環境のことに興味を持ち、主体的に取り組むことができているので、次年度も各学級での取り組みは継続したい。
- 保護者や地域の方々にも理解・協力していただいている活動(エコキャップ集め、アルミ缶回収、リサイクルバザーなど)は次年度も継続する。
- 新しい学習指導要領には、持続可能な社会の構築の観点が盛り込まれているので、ESDの考え方を念頭に置きながら教育を実施していきたい。(特に、社会科、理科、生活科、家庭科)



## 高山村立高山中学校

加盟年:2017年

### 1 平成30年度活動分野

環境・持続可能な生産と消費・エコパーク

### 2 平成30年度活動の概要

当校は、「故郷高山村と私」を活動テーマとして、ESDを地域との関わりやつながりを尊重できる個人を育てるとともに地域を担う人材の育成と捉え、ESDの実践を通して地域に学ぶ学習とそれを発信する力の育成を目標とした。具体的には、総合的な学習の時間を中心に①自然と温泉、観光に係わる学習、②ワインぶどうに係わる学習、③学有林に係わる学習、④学んだことを発信する活動を行った。

- ①自然と温泉、観光に係わる学習:2年生は、ユネスコエコパーク繋がりで訪れた志賀高原での自然散策から、自然保護や観光の視点から学習を深めることができた。また、温泉地として有名な渋温泉の温泉旅館を見学し、同じ温泉地として高山村でいかせることはないか、考えることができた。
- ②ワインぶどうに係わる学習:近年、注目されている高山村のワインぶどう産業を知るために、ワインぶどう栽培農家の方にお話をお聞きした。また、実際にワインぶどう栽培の体験学習も行った。
- ③学有林に係わる学習:1年生は、総合的な学習の時間にシイタケ、クリタケの駒打ち体験学習と駒打ちしたほだ木を学校観察林に本伏せする体験学習を行った。
- ④学んだことを発信する活動:①～③で学んだことを中心に、生徒たちが自分たちの力で、村のためにできることを考え、文化祭で発表を行った。

### 3 平成31年度の活動計画

総合的な学習の時間を中心に各学年で学習をすすめていく。(桜、ワインぶどう、温泉、防災、平和、観光など)5/23～24故郷たかやまデー①(1日総合)、5/30キノコの駒打ち、7/5キノコの本伏せ、7/19故郷たかやまデー②(1日総合)、9/27文化祭での発表、10/23中学生議会で村政への提言

## 山ノ内町立山ノ内中学校

加盟年:2017年

### 1 平成30年度活動分野

環境・世界遺産や地域遺産等・人権・平和・持続可能な生産と消費・エコパーク

### 2 平成30年度活動の概要

自分と町の未来を構想していくことのできる生徒を育てる取り組みをはじめ4年目をむかえ、更にこの学習が持続していくように、地域との「つながり」を大切にしながら新たな試みを行った。

#### 《活動内容(ACTIVITY)》

1学年:H27～H29まで5月に実施していた妙高宿泊学習を、今年度から7月に志賀高原研修旅行に変更して、ユネスコエコパーク内での探究的な学習を行った。また従来行っている「我が町の自慢」を学校祭での全学年参加のESD討論会で発表した。

2学年:これまで町内や近隣の市町村で実施していた職場体験学習を、ESDのキャリア学習として町内における職場体験に変更し、町内の職場理解と我が町で働く人から学ぶ機会とした。

3学年:修学旅行で実施していた山ノ内町のPR活動を、京都の長野県人会の方の支援を受けて、京都駅前で実施した。また1・2年次の学習経験をもとに、学校祭で、全学年による討論会を司会進行したり、1・2年生の発表に対してアドバイスをを行った。

#### 《変容(TRANSFORMATION)》

3年間のESDによる学習を通して、見方考え方が下記のように変わってきた。

1学年:【他者を尊重し、自分の役割を理解する力】ESD討論会でポスター形式の発表を行ったA生は「みんな個人の考えをもって『なるほど』『へーそうなんだ』などいろいろな考えが持てた」と、B生は「友達や先輩の発表に見習う事が、たくさん見つかった。……自分たちの発表レベルを上げていきたい。」と、C生は「ESDの学習は地球や地域を守るために役立つので、更にいろんな人に発表し内容を広めていきたい」と感想を持った。

2学年:【自らよく考え、判断する力】養魚場で体験したAさんは、当初「魚を育て、ふれあえる」ことを楽しみにしていたが、魚を捌き出荷の準備を手伝ったことで「自分たちは命を食べて生きている」「旅館に来る人も嬉しいだろう」と感想を持った。また旅館で働いたBさんは「ふとんの置き方だけでもお客さんがどう感じるのか考えないといけないなんて考えた事もなかった」とお客さんの気持ちを考えた気配りについて感想を持った。

3学年:【自分の夢や希望をもち、それに近づくために行動する力】町づくり討論会で、町がより発展していくために自分たちで提案したいという思いをもったR生は、実際に町に出て改善してほしいところを見つけ町のインフラがさらに整備される方法を提案した。討論会の中で、現実には財政や地区ごとの取り組みが必要という整備をしていく上での問題に気づいたことで、現実を見ながら町のために出来ることを考える良さに気づくことが出来た。

### 3 平成31年度の活動計画

持続可能な山ノ内中学校型ESDを目指し、現状の活動に満足することなく、改善を繰り返していく。次年度の計画は次の通り

- |      |  |
|------|--|
| 全 校  | ○ESD・SDGs学習オリエンテーションの実施<br>・年度当初に、全校・学年を単位として、ワークグループ方式で学ぶ時間を設定する<br>○学校祭でのESD発表会バージョンアップ<br>・「ポスターセッション方式」、グループでの発表の機会を数回設定する |
| 1学年  | ○志賀高原研修旅行の事前・当日学習バージョンアップ<br>・ユネスコエコパークでの探究的な学習を仕組む  |
| 2学年  | ○ESDの視点で行う職場体験学習バージョンアップ<br>・「山ノ内町・山ノ内中学校紹介パンフレット2.0」づくり   |
| 3学年  | ○中学生が夢みる町づくり討論会バージョンアップ<br>・メリットとデメリットの両面を踏まえての提案とSDGsに関連付けた提案を仕組む   |
| 教科連係 | ○ESDカレンダーで結んだ、総合的な学習の時間と関連付けた授業の実施<br>・ESDカレンダーの実施と修正  |

## 信州大学教育学部附属長野中学校

加盟年:2018年

### 1 平成30年度活動分野

環境・人権・平和・健康・福祉

### 2 平成30年度活動の概要

本校は、「ともに学び 一人となる」を学校教育目標のもと、「学びを拓く生徒の育成」と研究テーマを据えています。ESDを将来生徒が社会に出てはたらく資質・能力の育成と捉え、ESDの実践を通して、教科を超えて育まれる資質・能力の検証や学友会活動や清掃活動や日常生活場面などの潜在的なカリキュラムの果たす役割について明らかにしようとしています。具体的には、総合的な学習の時間での、学友会活動を中心に実践を積み重ねています。

①総合的な学習の時間「ヒューマン・ウィーク」:7月中旬に総合的な学習の時間をまとめ取りし、5日間社会体験学習等の体験学習を行います。1年生は、環境に関わることや、自分が今知りたいことをテーマに「問い」の見つけ方を学びます。2年生では、働くことをテーマとして「14歳の問い」をもち、地元の企業の協力を得て、社会体験学習を行い、自分の生き方について追究します。3年生では、自分の理想の生き方について社会体験学習を行い、問いに対する考えを深めます。社会に出て必要なのはどのような力なのか、どのような人なのか自分と向き合い、自立していく力を養っていきます。

②学友会を通して:

○地域の企業との交流と環境美化活動

地元企業であるF株式会社と合同で地域の環境美化活動を行っています。この活動は地域の美化活動を通して近隣地域の一員であるという自覚を高めることを目的に、学友会が企画し、これまで16年間継続して実施しております。

○「ベルボラピック」というキャンペーン活動

保健委員会では、空き缶、古切手、書き損じはがきの収集を、環境委員会では、空き缶やペットボトルキャップの回収を、購買委員会では、ベルマークやインクカードリッジの収集を行いました。

### 3 平成31年度の活動計画

現在行われている本校の教育活動を、ユネスコスクールの理念や持続可能な開発目標で大きな分類をし、それぞれの活動のねらいを再確認・再検討していき、今ある教育活動の教育の質を高めるようにしたい。①総合的な学習の時間「ヒューマン・ウィーク」での問いの設定に対して、「持続可能な社会の創造」の視点を取り入れて、自分の生き方を追究していく。②特別活動、学友会活動等で、中学生の地道な活動を大切に、環境保全への取り組みの日常化、多様な意見を認め合う集団づくりを進めていく。③本校の教育活動を外に向かって発信することを大切にする。そのために、何ができるようになったのか、さらに必要なことは何なのかの視点で活動の振り返りを行っていく。

## 信州大学教育学部附属松本中学校

加盟年:2011年

### 1 平成30年度活動分野

環境・国際理解・持続可能な生産と消費・貧困・エコ・パークグローバル・シチズンシップ教育(GCED)

### 2 平成30年度活動の概要

本校は、学校目標「たくましく心豊かな地球市民」の具現を目指し、ESDを具現のための手がかりと捉え、ESDの実践を通して自己表現力・課題探究力・社会参画力の育成を目標とした。具体的には、教科等の総合化を柱に、環境に関わる活動(①)、持続可能な生産と消費に関わる活動(②)、グローバル・シチズンシップに関わる活動(③)、ユネスコエコパークに関わる活動(④)を行った。

①環境に関わる活動:地域の文化財を大切に、郷土を愛する生徒を育てるために、国内外からたくさんの観光客が訪れる松本の街のシンボル「松本城」の境内や外堀の落ち葉はきを目玉にしている。また、住みよい環境を持続できる生徒を育てるため、生徒会を中心に有志を募り、学校の環境整備、周辺の落ち葉掃きを実施した。

②持続可能な生産と消費に関わる活動:全校生徒がユネスコスクールの生徒であることをさらに自覚できるように、学校の行事や生徒会活動がSDGsの17つの項目とどうつながっているのかを生徒会中心に考え、全校に提案して、それぞれ17項目のシールを作り、各活動とのつながりを視覚的に理解できるようにした。

③グローバル・シチズンシップに関わる活動:普段の生活が地球規模の問題を捉えるカギであることを実感できるように、学校目標の「地球市民」とは、どのような人物のことを指すのか月に約1回の集会を実施した。他者の意見に耳を傾け、自分の意見を出すことができるように、生徒会活動を通してどんな人物を想像するのか話し合いをしたり、文化祭で地球市民についてSDGsをキーワードにしたりして意見を共有した。また、世界で活躍する方を招いて世界に出て感じたことや考え方を学んだりした。

④ユネスコエコパークに関わる活動:地球規模の気候変動や普段体験することのできない環境での生態系を学ぶことで、普段の生活について再度感謝の気持ちをもてるように志賀高原ユネスコエコパークへの宿泊学習を実施した。また、パートナーシップをより深めるために、同県のユネスコスクールである附属長野中学校と合唱での交流を行い、お互いの学校のかかわりを深めたり、これからの活動に向けての意欲向上となる活動をおこなったりした。

### 3 平成31年度の活動計画

「たくましく心豊かな地球市民」の具現のために、自己表現力・課題探究力・社会参画力を育てるためのカリキュラム開発。実践発表。学校園12年間での生徒の学びについてより明確な理解になるようにする。学校園を卒業した生徒たちの生活を調査し、成果と課題をまとめる。SDGsの17の目標を位置づけたそれぞれの生徒会活動がどのような関連性があるのかを考え、活動の精選や新たな活動として実践し、より17の目標を意識し生活できるようにする。文化祭において成果の発表をする。生徒ひとりひとりがもつ「たくましく心豊かな地球市民」像を具現化できるように、生徒会活動を中心にSDGsをキーワードにして学校の諸活動に取り組める環境づくり。国内外のユネスコスクールとの交流の強化。具体的には県外1校。国外1校との交流を実現したい。

## 長野県中野西高等学校

加盟年:2015年

### 1 平成30年度活動分野

環境・生物多様性・人権・平和・健康・福祉・エコパーク

### 2 平成30年度活動の概要

本校は「教育基本法にのっとり、平和的な国家・社会の有為な形成者を育成し、敬と愛と信とに満ちた学園を創る」を学校目標としている。ESDの実践を通して、生徒の人間性・コミュニケーション力を磨き、「自ら問題意識を持ち、行動できる」生徒を育てること、地域社会や国際社会に目を向け、学校の中にとどまらない幅広い視点で活動することによって、生徒の社会性・国際性を養うことを教育目標としている。具体的には、環境教育、地域連携、異文化理解を3つの柱とし、今年度は主に①地域の自然環境を保護する活動、全校での地域を学び地域の美化に努める学習、②国際理解を深める学習、③地域社会と協働した活動、に重点を置き活動した。

①地域の自然環境を保護する活動、地域を学び・地域の美化に努める活動:学校近くの西条地区を流れるホタル川の環境整備とホタル生息地を守る活動、中野市バラ公園の手入れ、山ノ内町志賀高原での植樹活動と植樹後のモニタリング調査を継続して行っている。生徒達に地域の自然環境を守る担い手であるという意識が定着しつつあり、積極的に取り組む姿勢が見られる。特に今年度は持続可能な環境保全への理解をより深めるため、植樹・モニタリングの際に大学から環境学の講師を招き、事前・事後学習で志賀高原の生態系について学んだ。また、全校参加のクリーン・オリエンテーリング(COL:中野市内をゴミ収集しながら、地域の歴史や文化を学ぶ活動)は、生徒の郷土に対する知識を深めると同時に、地域の美化に貢献することで、地域を大切にすることを醸成している。

②国際理解を深める活動:例年のチョコレートフェアトレード学習・販売活動に留まらず、今年度はコーヒー豆のフェアトレードについて学び、その豆を使った本校オリジナルコーヒーを開発・販売し、その収益はユニセフに寄附する活動を通じて児童労働や公平な貿易についての理解を深めた。生徒はこの活動を通じて、自らの行動が世界を変えていく一歩になるという自己有用性を高めることができた。また開発したコーヒーは地域のイベントで販売することで、地域への啓発活動としても意義あるものとなった。

③地域社会と協働した活動:中野市内で行われている各種催事にボランティアスタッフとして関わっている。春と秋の「一本木公園バラ祭り」、夏の地元のお祭りや秋の食文化を広めるイベント、その他市で招待した留学生との文化交流会等多くの場面で地域の一員として参加することで生徒自身が地域について知り、更には今後の発展を考えたり、文化活動の担い手としての意識を高めている。

### 3 平成31年度の活動計画

環境保護教育においては例年行っている活動については定着しつつあり、より環境保全の大切さへの理解を深めながら参加していく予定である。また地元関係者との地域協働活動においてもボランティアスタッフ・企画運営スタッフとして継続して関わっていく予定である。フェアトレードコーヒーの活動については有志の輪を広げながら、生産国の情勢を学び、原産地への協力・支援ができる繋がりを持ちたいと考えている。今年度実施したように生徒の関心を高めるようなワークショップ型の学びや、学んだことを生徒から生徒へ発信できるよう発表の機会を多く設けたい。全校生徒がユネスコについてより学習するための「ユネスコ検定」(仮称)を実施予定である。来年度からは「総合的な探究の時間」にこれまで蓄積してきたプログラムを組み込むことで、全校にユネスコの精神やESDへの理解がより進むよう計画している。

## 長野県長野西高等学校

加盟年:2017年

### 1 平成30年度活動分野

環境・防災・国際理解・世界遺産や地域遺産等・人権・平和・健康・福祉・持続可能な生産と消費・貧困

### 2 平成30年度活動の概要

本校は、「社会に奉仕するための資質を養う」を学校理念の1つとしている。その理念に基づいた教育活動を行う上で、ESD(持続可能な開発のための教育)を重要な学びと考えている。ESDを本校における課題解決型探究学習の核と捉え、地域や国際社会の課題を自分のこととして考え、ESDの実践を行う中で、自分で考え、周りと協働し、主体的に行動することを通して、課題を解決に導く力を育成し、広く社会に奉仕する担い手を育てることを目標としている。具体的には、「社会とのかかわり・人とのつながり」を柱に、①地域の課題解決に係わる活動、②国際交流・異文化理解に係わる学習、③伝統文化に係わる学習を行った。

①地域の課題解決に係わる活動:

○フードドライブの実施

文化祭において、3年生のクラス企画としてフードドライブを実施した。生徒、保護者、近隣の住民などから総件数1,129点、総重量242kgもの食料を寄贈していただいた。クラスでのおにぎり販売収益7,752円とともにフードバンク信州へ届ける活動を行った。まだ安全に食べられるにもかかわらず、捨てられてしまう食料を集め、支援を必要としている方に提供するフードバンク活動に参加することで、「持続可能な生産と消費」、「貧困」、「人権・平和」等を考えるとともに、共生社会の必要性についても認識することができた。

○地域と連携した活動

・スポーツレストラン

スポーツレストランとは、体育の受講生徒が店員となり、様々なニュースポーツをメニューとして、地域の皆様にスポーツを楽しんでいただけるように公開している授業。今年度は毎回10~20人の高齢者、女性など、いろいろな年齢層の方々が集まり、生徒とともにニュースポーツを行った。メニューはソフトバレーボール・ボーリング・ペタンク・ターゲットバードゴルフ・ピククルボール・バドミントン・卓球などである。

・地域の方々と一緒に行う防災訓練

全校で防災訓練を実施するとともに、避難所となっている本校周辺に住む方々にも避難訓練に参加していただき、有事の際の行動の参考にいただいた。

・ボランティア活動

本校は長野県の中でも北に位置し、降雪・積雪も多い。また、坂道のある高台に校舎があり、積雪時は自動車運行も苦慮する。積雪の際には、運動系クラブの生徒や職員が中心となって、近所の坂道や通学路で雪かき作業を行い、地域に貢献する活動を行っている。

開かれた学校づくりを行うとともに、地域について学び、地域が必要としていることを考え、行動に移すことで、社会に奉仕する心の育成につながっている。

②国際交流・異文化理解に係わる学習:長野マラソン国際交流ブースボランティア国際教養科1年生全員が、長野県観光部国際課のスタッフの皆さんとともに、ブース運営のボランティアに参加した。アメリカ、イギリス、オーストラリア、ベトナム、中国、韓国のブースで、各国のゲームや作業体験の手伝いを行った。来場者の子ども達や、長野県国際化協会のサンタ・プロジェクトの外国籍児童就学支援募金活動の参加など、多くの方々と交流した。

③伝統文化に係わる学習・信州学による課題解決型探究学習:信州(長野県)の歴史、文化、伝統、地域のすがたや課題を再発見し、それらをさらに深く追及し、自らの知識で何ができるのか、地域とどう関わっていくのかを学ぶ活動を実践し1学年全体発表会を行う。SDGsに関連した発表を行った1グループは、信州ESDコンソーシアム成果発表会において、プレゼンテーションを行う。

### 3 平成31年度の活動計画

ユネスコスクール認定2年目となる今年度は、本校における課題解決型探究学習の核となるESDの構築に向けて、ユネスコスクール委員会を中心に、ESD推進ネットワーク全国フォーラム2018やユネスコスクール全国大会に参加し、本校におけるESDのあり方について検討してきた。2018年3月、本校2年生が第8回ユネスコスクール国際交流プログラムに参加させていただき、その成果発表・報告会を全校生徒が聞くことで、生徒のユネスコスクールへの認識が高まり、自分たちに何ができるかを考え行動を始めている。国際教養科を中心とした国際交流事業や、校内ですでに実施している様々な活動がESDであることを認識し、それらを有機的に結び付け、地域や様々な組織と連携しつつ、学校全体として組織的にESDの活動を実践していくことが平成31年度の活動計画である。

## 文化学園長野中学・高等学校

加盟年:2017年

### 1 平成30年度活動分野

環境・エネルギー・国際理解・人権・平和・食育・貧困・グローバル・シチズンシップ教育(GCED)

### 2 平成30年度活動の概要

本校は「Learning to be：多様性の時代を協調して生きることのできる国際人の育成目指して」を活動テーマとして、ESDを「現代社会の課題を自分事として、身近な暮らしの中で、『新たな価値観』や『行動』を生み出すこと」と捉え、ESDの実践を通して、問題に気づき、それを解決していくための手立てを考え、工夫する力や、チームでのものを考えるために創造的なコミュニケーションを図る力の育成を目標とした。具体的には、?異文化理解プロジェクト?環境教育・ボランティア教育プロジェクト?地球規模の諸問題解決策プロジェクトを柱に、①国際理解学習に関わる活動 ②環境学習に関わる学習 ③ボランティア活動 ④地球規模の諸問題解決策に関わる学習を行った。以下本年度の代表的な実践活動をまとめた。

#### ①国際理解学習に関わる活動:

##### ○海外研修旅行

中学は3年時にカナダへの研修を実施。ホームステイを通して異文化体験を行った。高校は2年時にロンドンへの研修を実施。現地高校生や大学生との交流を体験した。

##### ○郷土料理保存会との食文化活動

善光寺平の自然風土によって築かれてきた食文化を伝承している「ちょうまの会」の方と、箱膳を作る活動を通して、中山間地域、地産地消に関心を持ち、カナダ研修でホームステイする各家庭に、「和食」を伝える活動をした。

#### ②環境学習に関わる学習:

##### ○ながの環境フェア活動

国際ソロプチミスト長野みすずとチームになり、地域の子どもに環境紙芝居を行った。

##### ○Kids' ISO14000プログラム

エネルギー、水、ごみの問題など生活に関連した環境問題から、温暖化など地球規模の環境問題について学び、これらの問題を解決するために何ができるのか、自ら考え実行する力を養うことを目的に活動に参加した。

#### ③ボランティア活動:

##### ○長野マラソン・長野車いすマラソン大会ボランティア活動

1998年開催の長野冬季オリンピックレガシーを未来へと引継ぎ、地域のスポーツ、文化の発展を目的とした長野マラソン大会に、ほぼ全校生徒がボランティアとして活動した。

##### ○インターアクトクラブ活動

夏、東北被災地研修を行った。日本人である自分を深く理解し、今後の日本・世界の諸問題を考える上で何ができるか、具体的な行動を考える機会とした。

#### ④地球規模の諸問題解決策に関わる学習:

##### ○中学生徒会国際月間

「SDGsを、文化学園長野中学生徒会として行うプランを考え、ICTを使い提案しよう」を目標に、2学期を国際月間と定め、活動した。

##### ○高校:総合的な学習

高校1年の総合学習で、SDGsの視点を踏まえつつ、世界の現状を知り、2年では、長野市や身近な地域に視点を置き、世界の諸問題と地域の課題を結びつける思考力や判断力の育成を目指し、論理的に伝える活動を展開した。

### 3 平成31年度の活動計画

本年度の取組では生徒会が中心となり、SDGsと身近な課題をつなげて具体的な行動計画を立てることができた。その取組が信濃毎日新聞に掲載され(活動写真参照)その発信を受け取った方から寄付が届くというつながりも生まれた。来年度は、本年度立てた行動計画を、学校、地域そして学校以外の諸団体が連携・協働する形で実行していきたいと思う。また、ユネスコスクール3年目に向け、学校全体の「SDGsの見える化」を図りたい。図書館をアウトリーチ拠点とする、教育活動の全てをSDGsとつなげ可視化する、教科横断的に大きな学習の流れをつくるESDカレンダーを研究・改良する、など。そして、SDGs及びESDの校内研修を行い、ホールスクールとして全職員で関わりながら、少なくとも各学年の職員がそのような授業づくりに向かって連携・協力できるようにしたい。教科等の学習成果を活かしながら、自分事として意欲的に学び、コミュニケーションを通して互いに考えを深め、発信する生徒の育成を引き続き行う予定である。

## VI

## ESD 通信



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

# 信州ESD通信

No. 13  
2018.4.10

信州ESD  
コンソーシアム  
事務局

目次：ユネスコ活動研究大会/ESDの現場から：長沼りんごホールでの活動紹介/お知らせ

9月29-30日 ユネスコ協会中部東ブロック・ユネスコ活動研究大会  
in 諏訪が開催されます



「Better World」～より良い社会の実現をめざして～をテーマに2018年度中部東ブロック・ユネスコ活動研究大会 in 諏訪が9月29日(土)・30日(日)にRAKO 華乃井ホテル(上諏訪温泉)で開催されます。

基調講演は、コンソーシアムに加盟しているグリーンヒルズ小中学校校長であり鳥類研究者の山岸哲氏による「絶滅鳥類の復元：コウノトリ」、また地元、永明小学校の事例発表などが予定されています。

- 対象：ユネスコ協会会員、ユネスコスクール、小中高等学校関係者、教育委員会、地方公共団体、社会教育団体関係者、民間ユネスコ運動に関心を持つ一般市民、NGO、NPO など(一般参加者無料)
- 主催：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、中部東ブロック・ユネスコ連絡協議会、長野県ユネスコ連絡協議会、諏訪ユネスコ協会
- 問合せ：諏訪ユネスコ協会会長 矢崎靖雄、TEL/FAX 0266-72-2650、E-mail:yazaki3@po31.lcv.ne.jp

## ESDの現場から

### 長沼りんごホール(市立長沼公民館)の活動紹介

公民館は「住民のために、實際生活に即する教育、学術及び文化に関する事業を行い、住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与すること」を目的としており、より良い社会をめざす点でESDの目標とも大きく重なる。今回、長野市の長沼りんごホール(市立長沼公民館)が信州ESDコンソーシアムに参加いただけたので、そこでの活動を紹介します。

「人が輝く、地域がきらめく長沼「地宝地活」運動：町は劇場、館は舞台、民は主役、職員は湧かせ役」をスローガンに多彩な活動を展開しています。特にESDとしては「②長沼の名産は子どもたち」プロジェクトとして学校支援ボランティア「りんごっこ支援の会」を創設し、長沼小学校への通学支援、俳句活動支援、栽培体験学習支援、エプロンおばさんの会による郷土料理、和太鼓クラブなど様々な学校の要請による支援を積極的に推進しています。学校へのこうした支援活動は多忙な教員と意欲ある地域ボランティアの双方にとっておおいに望まれるところですがそうした活動に伴う保険などの責任体制が整わないため、コミュニティスクールが推奨されながらなかなか進んでいないのが現状です。そこで長沼では公民館活動の一環として学校支援を行うことで地域の人々が参加しやすい環境を生みだしています。

今後、ユネスコスクールが増加し、地域の方々の支援を必要とする場面が増えてくる中で長沼公民館の活動は大いに参考になるのではないのでしょうか。(渡辺隆一)

## 事務局より

- 信州ESDコンソーシアムは「地域ESD活動推進拠点」に申請しました。これは持続可能な社会の実現に向け、ESDに関わる多様なマルチステークホルダーが、地域における取組を核としつつ、様々なレベルで分野横断的に協働・連携して、ESDを推進することを目的とした「ESD推進ネットワーク」に参加することです。
- 信州大学教育学部はNo11で紹介した「ユニブネット」に参加申請しました。加盟することで県内のユネスコスクールへの支援をおこなうこととなります。



## 信州ESD通信

No.13 2018.4.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一  
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部  
事務局：白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

# 信州ESD通信

No. 14  
2018.5.10

信州ESD  
コンソーシアム  
事務局

目次：今年の目標と計画/ESDの現場から：東条小学校の遠足/お知らせ

今年の目標と計画について：1月26日と2月2日に成果発表&交流会を  
予定しています



信州ESDコンソーシアムは「全県へのESDの普及と定着」を目的としており、今年は以下を計画しています。

- ユネスコスクールの交流として、①ユネスコスクール全国大会への教員派遣、②志賀高原エコパークでの附属中学と山ノ内中学との交流など。
- 信州大学教育学部として県内学校へのESD活動支援として、①教員への公開研究会、②ESD支援センターとの連携によるESD研修会、③ESD勉強会への講師派遣など
- 教育施設などとの連携として、①志賀高原エコパーク関係機関と志賀施設との連携によるエコパークの活用、②地域コーディネーターの全県的配置、③ユネスコ協会青年部や国際ユース環境会議などユース対象の

ワークショップ、④NPOや企業などのESD行事の後援や連携など

- 成果報告、発表会として、ユネスコスクール以外の学校にも広く参加を呼びかけESDの普及を図り、ユネスコスクールの登録拡大をめざす。今年は1月26日に松本で、2月2日に長野での開催を予定しています。

## ESDの現場から

### 長野市立東条小学校の遠足

ユネスコスクール申請を計画している長野市立東条小学校の4月27日の遠足に同行しました。近年、学校行事が縮小される中でも当校はふるさと学習として全学年での遠足を毎年実施しています。今年の4、5年生は学校からそそり立つ姿がまぢかに見える尼厳山に登るのです。岩場や鎖場のある険しい山なので地元のトレッキングの会の方々にボランティアとして補助をお願いしています。約50名の児童に7名の方々が道々の自然や安全な歩き方を指導されました。地元の里山として著名な尼厳山ですがかなり急登であり、補助者なしでは実施できない遠足コースです。また、戦国時代に武田と上杉の合戦がおこなわれた歴史的な山城でもあります。その日々目の前に聳える山々をぜひ登らせたいとの校長先生のお気持ちは学校登山という全国に誇れる長野県教育の大いなる遺産でもあります。山に登るのは大変でも子どもたちは途中から学校が見えた、これは食べられる植物なの？と驚いたり、感動したりと貴重な体験を味わっていました。学校単独ではできないこうした体験を地域の方々が支えるという協力関係もまたESDの大切な一歩ではないでしょうか。ボランティアの方々にもESDの資料をお渡しし、こうした開かれた学校による地域学習によって地域の未来が創造されることを知っていただきました。本校ではこれからも地域の方々の協力による田植えやホテル観察などがおこなわれます。(渡辺隆一)



## 事務局より

皆様の活動を連携、協働することで県内へのESD活動を一層普及することができます。事務局まで皆さまの今年の予定などの情報提供と共有をよろしくお願いいたします。



## 信州ESD通信

No.14 2018.5.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一  
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部  
事務局：白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

# 信州ESD通信

No. 15

2018.6.10

信州ESD  
コンソーシアム  
事務局

目次：飯田ユネスコ協会/信州ESDコンソーシアム研修/山ノ内町西小学校/お知らせ

## 5月19日 飯田ユネスコ協会にて「ESDを考え推進するために」を講演

飯田ユネスコ協会は会員50名ほどですが音楽祭など地域団体との活発な活動をおこなっています。なかでも書き損じはがきを6700枚も集めているのは驚きました。総会後の講演は「世界の共通課題としての環境問題・平和」からはじめ、ユネスコスクールと信州ESDコンソーシアムの紹介まで早足でしたがユネスコ活動を永年おこなっている方々には良くわかっていただけたようでした。今回は、ユネスコスクール申請を考えている地元の学校などにも呼びかけたのですが日程があわず残念でした。

ESDを考え、進めるために

Think Globally  
Act Locally



(渡辺隆一)

## 5月23日 信州ESDコンソーシアム研修をおこないました

長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課主催の生涯学習担当指導主事等会議が長野県庁であり、安達が「信州ESDコンソーシアムについて」の講演をおこないました。生涯学習係主任指導主事の大日野剛さんの司会で17名の県下各地方事務所の指導主事や生涯学習課長などがESDについて基礎から学びました。これからは生涯学習として学校と地域との連携が大きく推進されることが期待でき、信州のESDが発展する良い機会になりました。

ESDの  
現場から

## 5月15日 山ノ内町西小学校の遠足

山ノ内町西小学校の校外活動（生活科学習・北部地区の春探し）に参加しました。1年生20名、校長先生などとバスで新緑の北部地区の探検に。地元の支援員の案内で郊外の散策をして、お楽しみは池での生きもの探し。網を入れてはカエルだドジョウだと大騒ぎでした。最後のまとめでカエルやゲンゴロウだけでなく生きものはみんな何かを食べて成長している、私たちが植物も太陽の光を食べて生きているね、と。



(渡辺隆一)

お知らせ

- 環境保全協会の「信州環境イベントポータル」の名称が「信州えこなび」となりました。皆様の情報提供を呼びかけています。長野県環境保全協会のHPトップからお入りください。
- 8月6日に北信越ユネスコスクール交流会が金沢で開催されます。
- 8月22日にユネスコスクール・ESD全国実践交流会in大牟田が開催されます。遠路ですが貴重な機会です。
- 11月5日に関東甲信越社会教育研究大会長野大会が開催され、パネルディスカッション「連携・協働による未来志向の社会教育のあり方を考える：持続可能な地域コミュニティを目指して」で信州ESDコンソーシアムの西がコーディネーターを務めます。

おおむら-みらい-ESD推進事業  
ユネスコスクール・ESD全国実践交流会in大牟田  
「みんなで語り合おう。SDGsに向けたESDの見えるステップ」  
大牟田市教育委員会、市を挙げてESDに取り組む大牟田、地域のESDを推進するために、本県協力を依頼しました。そこで、2018年の開催地として「持続可能な開発目標(SDGs)」が取り上げられました。これは、世界共通の目標として、2030年までに達成する目標です。ESDは持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて、ESDとSDGsを推進するための重要な役割を果たします。  
主催 大牟田市教育委員会  
共催 九州地方ESD活動支援センター

入場無料



## 信州ESD通信

No.15 2018.6.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一  
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部  
事務局：白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

# 信州ESD通信

No. 16

2018.7.10

信州ESD  
コンソーシアム  
事務局

目次：生涯学習センターESD研修/東条小学校教員研修/信州大学教育学部ASPUivNetに加盟/お知らせ

## 6月6日 長野県生涯学習推進センター主催の研修としてESD講義がおこなわれました

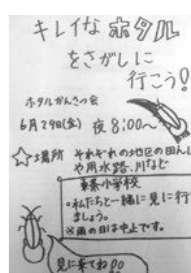


長野県総合教育センターにおいて、長野県生涯学習推進センター主催の地域づくり研修として「持続可能な社会づくりに向けた教育の新しい在り方」というテーマで講義が行なわれました。小・中・高・特支の教員をはじめ、公民館職員やNPO職員、地域おこし協力隊員、地域住民等、約40名が集いました。まず、湊川短期大学学長の末本誠先生によるESDに関するご講義があり、その後、長野県内の事例紹介として信州ESDコンソーシアムの取り組みを中心に、県内のユネスコスクールの活動やコンソーシアムを通じて繋がりが広がった活動例について紹介しました。ESDやユネスコスクールという言葉は初めて聞いたという人も多く、ESDについて県内に広める良い機会となりました。

## 6月29日 長野市立東条小学校でESD教員研修が行われました

ユネスコスクールをめざしている東条小学校で教員14名が参加しESD研修がおこなわれました。渡辺がPPで「Think Globally, Act Locally」と題して講演し、教員対象なので、①日々の教育が世界に繋がっていること、②将来社会をみすえてESDが行われること、③地域と協力して進めること、の3点を強調し、質疑応答した。家庭科での取り組みがESDに繋がっていることが理解できたなどの感想があった。

当日夜には、当校の教育活動である「ホタル学習」の一つである“ホタル観察会”が開催された。毎年、各地区毎に子どもたちが集まり、保護者とともにやっているが、今年も、地域にも呼びかけ地域の方も一緒にホタルの観察を行った。学校周辺の水路や河川で所々に光るホタルを「あつ、いた、いた」など声を上げて観察した。多くの地域の方々の参加で地域の豊かな自然を確認する良い機会になった。教員は繁殖用のホタルを採集し、水槽で産卵させ、児童の幼虫飼育に提供するという。信州ESDコンソーシアムとの連携によるユネスコスクールへの歩みが東条小学校でスタートしました。



## 7月1日 信州大学教育学部がASPUivNetに加盟を承認されました

各地のユネスコスクール申請の支援やその評価などをおこなっているUnivNet(ユニブネット)には現在20大学が参加しており、本年、信州大学教育学部も加盟申請し、この度承認されました。現在、県内では2つの学校がユネスコスクール申請のチャレンジ期間中であり、これからも増加するユネスコスクールの申請支援を今後は信州大学教育学部がコンソーシアムメンバーの協力も得ながら担うこととなります。県内においてはますます信州ESDコンソーシアムの果たす役割が重要になってきます。



お知らせ

長野県は平成30年度「信州環境カレッジ」講座の募集を始めました。信州環境カレッジには地域講座と学校講座があり、それぞれ「地域講座を通じて環境に関する県民の「学び」を拡大し、豊かな自然環境の保全や持続可能な社会を支える人づくりを進めます」、「学校講座を通じて学校における環境教育を推進し、環境についての理解を深めるとともに、主体的に考え行動する人材を育成します」を目的としています。個人、NPO又は任意団体が開催する講座であることが条件で講座を申請すると「信州環境カレッジ」のホームページに講座情報が掲載され、審査によって補助を受けることもできます。幅広い環境教育的活動への補助事業であり、多くの講座の登録と申請を募集しています。詳細は県の信州環境カレッジHPで。



## 信州ESD通信

No.16 2018.7.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一  
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部  
事務局：白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

# 信州ESD通信

No. 17

2018.8.10

信州ESD  
コンソーシアム  
事務局

目次：国際ユース環境会議/山ノ内中学/町づくり討論会/附属松本中学/山ノ内南小/お知らせ

## 6月22～24日 第7回国際ユース環境会議が信州大学教育学部で開催されました

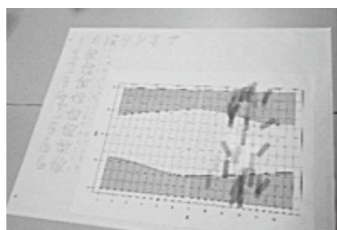


中高大学生を対象に、毎年長野市の中山間地で開催されてきた国際ユース環境会議を本年は信州大学の支援も受けて教育学部のしなのき会館で実施した。中学生7名、高校生14名、大学生4名のユース計25名、スタッフ、国際交流員など13名が合宿し、「2030年の長野の暮らしと環境」をテーマに英語での討論も交えながら環境学習と国際交流をおこなった。市内での都市農業の現場を見学し、その可能性を考えたり、中国や韓国、ベトナム、ニュージーランドなどの料理を皆で作って食べたりしながら長野の未来を皆で討論し、各自の未来への手紙に思いをこめた。手紙は1年後に各自に届けられ、学習成果の継続を促します。これまでの参加者が県外の大学を卒業して長野に就職するケースも出てきており、子どもから大人まで継続的に環境活動が実施される体制に少しずつ近づいてきた7回目である。

(渡辺隆一)

## 7月4、5日 山ノ内中学校研修旅行の講座を志賀施設が担当しました

志賀高原で山ノ内中学校の研修旅行が行われました。5日にはESDに関連した初めての試みとして、ユネスコエコパークの魅力をコースに分かれて探る講座が計画され、信州大学志賀施設でも1講座を分担しました。志賀施設で準備したプログラムは、センサーカメラが捉えた野生動物の記録写真から、野生動物の行動や生態の特徴を読み解くアクティビティ。9名の参加者が2グループに分かれて、それぞれ100枚程度の記録写真を使った課題に取り組みました。普段は志賀高原でもあまり目にすることができない野生動物ですが、生徒の皆さんはアクティビティを通じて、その生態の一端に触れることができましたようです。



(水谷瑞希)

## 7月11日 山ノ内中学校で「町づくり討論会」が行われました



山ノ内中学校で「中学生が夢みる町づくり討論会」が行われました。これは、山ノ内中学校の3年生が、3年間のESD学習のまとめとして、町のさまざまな課題に対して施策提言を行うものです。まちづくりあり、農業振興あり、特産品を活かした地域振興あり……中学生目線での様々な「課題解決プラン」が提示されました。当日は町長はじめ町議会議員、町職員、地域の関係者などが中学校を訪れ、生徒の皆さんの提案に耳を傾け、討論を行いました。

(水谷瑞希)

## 7月18日 志賀高原で附属松本中学校が「環境学習プログラム」に取り組めました

附属松本中学校が、志賀高原ユネスコエコパーク環境学習プログラムに取り組めました。このプログラムは人間と自然との共生を目指すユネスコエコパークならではの環境学習として、志賀高原ガイド組合が提供している

もので、附属松本中学校は志賀高原での高原学習の一環として、3年前からこのプログラムに参加しています。当日は天候にも恵まれ、生徒の皆さんは志賀高原ユネスコエコパークの核心地域や緩衝地域を歩きながら、原生的な自然環境が保全されてきた歴史に思いを馳せていました。

(水谷瑞希)



## 7月30日 山ノ内町南小学校でESD研修会をおこないました



ユネスコスクールでのESDをより推進させるためESD講義とESDカレンダーを用いたワークショップを信州ESDコンソーシアムコーディネーターの渡辺と水谷とでおこないました。教員は8名、復習のESD講義の後、3年生と4年生の2グループで今年のESDカレンダーを元に、各単元の意味や改善を討論しながらSDGsの17目標とどう関連するかシールを張り、学習の全体像を検討していった。それらの結果を発表し、意見交換をおこなった。今回の3,4年はいずれも大豆栽培を中心に、みそやしょうゆ作りまでの充実した学習であり、2年間継続することで、身近な食品が地元で栽培、製作できるのに海外からの材料に頼っていることにまで学習を深めていることが印象的であった。さらに、質疑で「ESDカレンダーで系統的に実施するのは良いがやがては固定化してしまうのではないか」という疑問も提起された。優れた実践も地域や時代、何より児童の関心にそった学習である必要があるのではないだろうか。研修の深まりが感じられた。

(水谷瑞希・渡辺隆一)

## 8月6日 北信越ユネスコスクール交流会2018に参加しました

金沢での交流会に、長野から山ノ内町の菅原・河野、長野市の武居の3教員と渡辺が参加した。講演はESD活動支援センターの鈴木さんより「ESDユネスコスクール最新の動向」、富山市より「SDGs未来都市に向けて」、南砺市福野小学校より「5年総合:われのプロモーションビデオを作ろう」の3報告があった。それぞれに興味深い、富山市が市をあげてSDGsを目標にして様々な活動に取り組んでいるのが新鮮で長野でもこうした動きになればと思いました。富山の紹介PPは活動にSDGsアイコンが入っていてきれいでした。また、各ユネスコスクールの報告資料が分厚い冊子になっており今後のユネスコスクール登録には大いに参考になるものでした。その後の6名での各グループワークは各学校の報告や課題が中心でしたが、今回はその対策などに具体的な提案が多数出てきてとても有意義でした。それも学校だけでなくユネスコ協会や行政など多様なメンバーがESDとして参加している北陸コンソーシアムの強みかと思えました。午後からの3時間半でしたが50名もの参加者による密度の濃い研修でした。

(渡辺隆一)



### お知らせ

- 信州ESDコンソーシアムの平成30年度通常総会が開催されます  
9月2日(日)午後1時~4時 会場:信州大学教育学部第1会議室  
講演:1~2時:及川幸彦先生(東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター主幹研究員)  
議題:2時半~ 本年度事業計画、予算など
- 平成30年度教職員等環境教育・学習推進リーダー育成研修参加者の募集  
集合型研修(9月、1月に東京で開催)の講師は、信州ESDコンソーシアムの学校派遣型研修でおなじみの石田好広先生(目白大)が務められます。参加を希望される方は、下記リンクから詳細を確認の上、お申し込みください。[http://www.jeef.or.jp/activities/esd\\_teacher/](http://www.jeef.or.jp/activities/esd_teacher/)



# 信州ESD通信

No.17 2018.8.10

発行:信州ESDコンソーシアム事務局 編集:渡辺隆一  
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部  
事務局:白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

# 信州ESD通信

No. 18  
2018.9.10

信州ESD  
コンソーシアム  
事務局

目次：ユネスコスクールの認定/環境教育学会/通常総会/お知らせ：エコパーク交流とESD推進

7月27日 信州大学教育学部附属長野小学校、長野中学校、特別支援学校、松本小学校、幼稚園がユネスコスクールに認定されました、おめでとうございます

かつて長野県にはユネスコスクールは信州大学教育学部附属松本中学校しかありませんでした。これで16校となり、今後もますます県下に仲間が増えてESD推進が発展することでしょう。

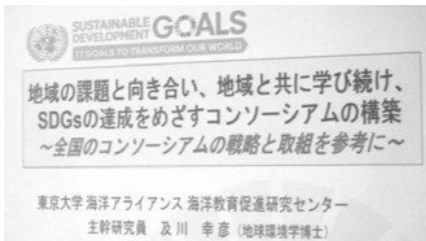
8月25日 日本環境教育学会で「信州ESDコンソーシアムの成果と課題」を発表しました

本学会でESDは近年主要なテーマであり、全口頭発表125題の15%を占めていた。発表は、長野県で増加しているユネスコスクールや関心が高まってきたESDのさらなる発展のために信州ESDコンソーシアムが展開している活動について紹介をおこなった。成果として、ユネスコスクールが現在は11校であるが、年内に5校が認定され、さらに7校が申請準備をしていること、長野県の特徴として豊かな自然と地域の共存であるエコパークをESDとして活用していること、課題としては、学校支援のための様々なNPO、企業、市民団体などの協働を構築すること、ユネスコスクールの国際交流を進めることなどが必要であることを紹介した。信州ESDコンソーシアムのパンフレットを配布したが残念ながら約300名ほどの参加者の多くには手にしてもらえなかった。学会での発表は地味ではあるが成果を振り返る意味で今後も継続する意味があるだろう。(渡辺隆一)

9月2日 信州ESDコンソーシアム総会が開かれました

総会に先立ち東京大学の及川幸彦先生より『地域の課題と向き合い、地域と共に学び続け、SDGsの達成をめざすコンソーシアムの構築～全国のコンソーシアムの戦略と取組を参考に』と題して基調講演をいただきました。改めてESDの歴史的経緯と現代的意義をふまえて各地でのESDコンソーシアムの活動やめざしている方向などの具体事例が解説され大変参考になりました。当コンソーシアムも3年間で着実に組織化を進めてきているが、今後はどのような発展の方向をめざすかの検討が必要であることなど示唆に富む講演でした。質疑では、教員からそれなりに多様なESD活動を展開しているがどのように評価したらよいか、との質問があり、お答えとして、生徒の変容を中心に多様な手法がありうるのではないかと示唆をいただいた。

総会の議事としては役員の交代やコーディネーターの追加、昨年度事業、本年度事業、予算などの提案があり、いずれも承認された。その後、本年度になり附属長野小学校など5校がユネスコスクールに認定されたこと、信州大学教育学部がUnivNetに承認されユネスコスクールの支援にあたることになった、などが報告され、信州ESDコンソーシアムの進展が共有された。ACCUやユネスコ連盟、県環境保全協会、文化学園などから資料説明があり、各団体でのESD進捗の状況も紹介された。40名の参加者があり今後の信州でのESD発展に期待もてる総会になった。



●10月13-14日「ESD推進のためのダイアログ in 信州：ユネスコエコパークにおける交流と協働によるESDの推進」シンポが行われます。主催：中部地方ESD活動支援センター。ぜひご参加ください。

お知らせ

10月13日(土) 14:30～17:30 志賀高原総合会館98  
講演:ESDの推進におけるユネスコエコパークの役割、立教大学ESD研究所長 阿部 治氏  
報告:志賀高原ユネスコエコパークにおけるESDの推進について、信州大学教育学部助教 水谷 瑞希氏

10月14日(日) 09:00～12:00 志賀高原エクスカーション  
共催:志賀高原ユネスコエコパーク協議会、信州ESDコンソーシアム  
申込:中部地方ESD活動支援センター <http://chubu.esdcenter.jp>



## 信州ESD通信

No.18 2018.9.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一  
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部  
事務局：白岩/大山 TEL026-238-4034 [kyoesd@shinshu-u.ac.jp](mailto:kyoesd@shinshu-u.ac.jp)



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

# 信州ESD通信

No. 19  
2018.10.10

信州ESD  
コンソーシアム  
事務局

目次：今年度交流会予定/ユネスコ活動研究大会 in 諏訪/ESDの現場/お知らせ

1月26日松本、2月2日長野で、成果発表&交流会が開催されます  
ご参加ください

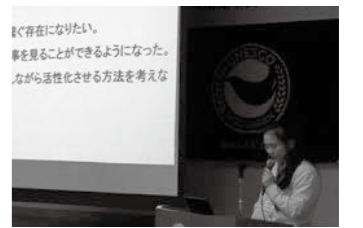
今年度は信州ESDコンソーシアムの交流会が中南信のユネスコスクールなどが集合しやすくするため松本と長野の2会場で開催されます。前者では中部他県からのユネスコスクール教員も招いてのワークショップも開催されますのでぜひご参加ください。募集要項などは近日HPに掲載されます。

9月29日-30日 中部東ブロック・ユネスコ活動研究大会 in 諏訪が  
開催されました



長野県、静岡県、山梨県、神奈川4県のユネスコ協会の会合であり、今回は諏訪ユネスコ協会が実行委員として県内6コ協が協力して開催され200余名が参加した。大会には長野県副知事や諏訪市長の祝辞もあり世界平和やSDGs、ESDを推進するコ協への大きな期待が述べられた。

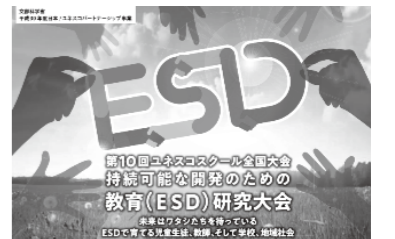
記念講演として信州大学教育学部卒の山岸哲氏による「絶滅鳥類の復元、コウノトリの場合」があり、どのように絶滅したコウノトリを野生復帰させたか、野外に放たれたオスの「元気」が日本各地を放浪し韓国まで渡り島根県に定着し繁殖するまでの冒険を例に生き生きと紹介された。次いで研究発表として、信州ESDコンソーシアムの紹介や、日本ユネスコ協会連盟の「ESD国際交流プログラム」でインドネシアのESD活動を視察した下田友音さん(長野西高校3年)の活動報告、そして地元ユネスコスクールの茅野市立永明小学校の活動事例発表が行われた。下田さんは山ノ内町の出身で小学生の頃からのESDの学びを通して、地元と海外を繋ぐ存在になりたいと思うようになったと将来の夢を語った。永明小は永年、縄文科学習を実践しており、子どもたちの発表から、ふるさと学習の大きな成果が良くわかった。翌日は「世界寺子屋運動」とその海外活動の成果の紹介があった。台風24号が接近していたため早めに無事終了となった。



お知らせ

●11月30-1日にESD推進ネットワーク全国フォーラムが東京で開催されます。全国のESDコンソや支援センター、各地の活動事例がパネルやポスター、発表で紹介されます。HPを参照ください。

●12月8日横浜市でユネスコスクール全国大会が開催されます。信州ESDコンソーシアムメンバーには派遣補助があります。事務局まで問合せ下さい。



## 信州ESD通信

No.19 2018.10.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一  
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部  
事務局：白岩/大山 TEL026-238-4034 [kyoesd@shinshu-u.ac.jp](mailto:kyoesd@shinshu-u.ac.jp)





目次：ESD研修会/ESD推進のためのダイアログ in 信州/ESDの現場から

### 10月13日 山ノ内中学校でESD研修会が開催されました

立教大学ESD研究センターの阿部治先生をお迎えして、研修会が開催されました。午後からの授業参観では1年は地域の自慢探し、2年ではそのPRポスター作り、3年では未来の山ノ内と私、として体系的な学習の現場を拝見しました。その後、教員との意見交換がおこなわれ、学校側からは、生徒にゼロから考えさせるとして、草津での合宿なども生徒にプランを立てさせテーマごとに3旅館に分宿したり、修学旅行でのPR活動も自主的なものとした、と説明があった。阿部氏からは生徒の活発な意見表明がありうれしかった、ESDを永年推進してきたが、国連のSDGsの形の学習がまとまってきている、山ノ内は5年前からの関わりでかなり前進してきている、ESDは様々なつながり学習であり地域との連携を進め、さらに地域からの支援を引き出せば、地域と学校とが一体となった持続可能な社会づくりになってゆくのではないかと、との講評があった。学校側からは、今後共信州ESDコンソーシアムからの指導などの支援が欲しいとの要望があった。(渡辺隆一)

### 10月13-14日 ESD推進のためのダイアログ in 信州が志賀高原で開催されました

「ユネスコエコパークにおける交流と協働によるESDの推進」(主催：中部地方ESD活動支援センター、共催：志賀高原ユネスコエコパーク協議会/信州ESDコンソーシアム)が開催されました。自然と社会との共生を目指すユネスコエコパーク(BR)の理念はESDと親和性が高いことから、ESDの推進においてユネスコエコパークには大きな期待が寄せられています。またユネスコエコパークにおけるESDの推進は、信州ESDコンソーシアムの特色のひとつでもあります。13日のフォーラムでは、立教大学ESD研究所長・ESD活動支援センター長の阿部治先生に「ESDの推進にむけたユネスコエコパークへの期待」と題したご講演をいただき、また信州ESDコンソーシアムの水谷が、志賀高原BRでのESDに関連する取り組みについて具体的な事例を挙げながら報告を行いました。グループ討議では「ユネスコエコパークでESDをどう推進するか」をテーマに議論を行いました。各グループのまとめからは、①まず地域のことを「知る」こと、②「つながり」を大事にすること、③「持続可能な社会」を追求すること、といったキーワードが抽出されました。14日のエクササイズでは、志賀高原観光協会・ガイド組合が提供している「環境学習プログラム」のデモンストレーションが行われました。多くの地域では、このような地域資源をガイドする体制を構築することがひとつの目標になっていますが、そのことがすでに商業ベースで成立していることは、志賀高原BRの大きな特徴です。当日は晴天にも恵まれ、参加者の皆さんは志賀高原の秋を満喫しながら、プログラムを体験していました。今回のイベントの参加者は2日間で延べ75名。地元だけでなく、みなかみ、只見、白山、大台、綾の各BR関係者にもご参加いただいたことで、ESDの推進に向けたユネスコエコパーク間の連携に弾みがつくことが期待されます。(水谷瑞希)



#### ESDの現場から

長野県の高校では2016年から、地域に根ざした探究的な学習の総称である「信州学」が始まっています。信州学で取組まれている学習分野は県教委の資料によれば、地域の産業18%、地域活性化17%、地域文化16%、自然・環境16%、歴史15%、健康8%、国際理解6%などとなっている。小中学校からつながる地域の学習が7割近くを占めており、具体的に地域参加を志向する活性化をテーマにした学習も17%とかなり高い。取組まれている学習時間は、理科や社会などの教科で35%、総合で26%、特活で22%、部活などで16%であり、まさに学習課題として地域教材が着実に取組まれていることを示している。さらに、取組まれた信州学は1年から3年まで、各教科や総合などで2016年度は279、2017年度は379で年々増加してきている。全県での高校生のこうした取組は地域の持続可能な社会創りをめざしているESD活動そのものとも言え、長野県の発展の基礎にもなるでしょう。(渡辺隆一)



目次：子ども議会/ESD研修会/ESD全国フォーラム/つながる/現場から/お知らせ

### 11月20日 山ノ内町子ども議会が開催されました

山ノ内町役場の実際の議場を会場に町ユネスコスクール3校の全6年生80名が参加して「子ども議会」が開催されました。

- ・西小学校6年は「地域で考える高齢者の防災」として、近年の災害調査から70歳以上の被害が大きいことから高齢者に絞った防災対策を考え提案した。高齢者では家具の転倒防止の割合が低いので防止金具を配布し希望者には設置も行うなど具体的かつ実用的な提案であり感心させられた。
- ・東小学校6年1組は「山ノ内町を訪れた観光客に、もっと山ノ内町を楽しんでもらうために」として道の駅のさらなる活用と志賀高原のスポーツイベントの提案をした。多くの人立ち寄る道の駅で町を紹介するビデオがあれば自分たちで見どころ食べどころのビデオを作りその一部を披露してくれた。
- ・南小学校6年は「小学生や地域の方が作った焼き物の販売と「焼き物祭り」の開催」として総合の時間で取組んだ焼き物が楽しくかつ生活にも役立ち喜ばれたことから「山ノ内焼」として名産化し祭りも開催したらと提案した。
- ・東小学校6年2組は「山ノ内町の良さを発信し観光客を増やすための花火大会復活」として今年度から中止されてしまった花火大会を観光のためにもぜひ復活すべきとして具体的な1泊2日のツアープランを提案した。



いずれも実地見学やアンケートなどの根拠を基にかなり具体的な提案をおこなっており、児童の地域活性化の熱い願いが感じられた。議会や行政にこうした声を受け止め、児童との協働が実現すればESDとして大きな前進と言えるだろう。(渡辺隆一)

### 11月28日 山ノ内町西小学校でESD研修会が開催されました

「ユネスコエコパーク・ESD・総合的な学習の時間」の研修会が開催されました。実践報告は1年生の「ヤギ飼育」が生活科研究授業資料、指導案を元に、5年生の「米作り」が学年通信1～8を元に、6年生の「防災教育」が児童が作成したパンフレット、子ども議会質問通告書を元に発表されました。それぞれの報告を1.予定調和ではない学びをどう実現するか、2.どのような資質、能力を育むか、の2点から水谷コーディネーターの司会により質疑・討論をおこなった。これらを受けて、目白大学の石田好広教授から、ESD授業の学習過程としては「つかみ・調べ・まとめ・行動」があり、6つの構成概念にさらに「生命尊重」を加えたい、今回はこれらがとても良く実践されていた、とのご指導、評価をいただいた。さらに、子ども議会での6年生の提案は具体的ですばらしいのでひとつでも実行されるとうれしいですと期待された。山ノ内町議会副議長が参加しており実現するよう努力したいと受け止めていただけたので今後の展開が期待されます。こうした学校から地域への活動の広がりはまさにESDと言えるでしょう。(水谷瑞希・渡辺隆一)

### 11月30-1日 ESD推進ネットワーク全国フォーラム2018に参加しました

国立オリンピック記念青少年総合センター(代々木)において、ESD活動支援センター、文部科学省、環境省の3者主催で行われ、信州ESDコンソーシアムも展示出展しました。ESD推進ネットワークは、文部科学省と環境省が連携して、日本におけるESDの推進を目的に構築しているネットワークで、①ハブとなる『ESD活動支援センター』(全国と8つの地方センター)、②様々な地域レベルのESDを推進、支援する『地域ESD拠点』、③地域のESD活動を実践する組織・団体・個人などの実践者、という3層に整理されています。信州ESDコンソーシアムは、このうち②の地域ESD拠点として位置づけられています。

フォーラムの一日目にはESD推進ネットワークの意義や多様な主体の活動事例紹介、関係省庁の取り組みなどの講演やパネルディスカッションが行われました。信州ESDコンソーシアムも、ブース展示で取り組みについて



の紹介を行いました。フォーラム二日目は、分科会に分かれてESD実践の共有と議論が行われました。信州ESDコンソーシアムからは水谷コーディネーターが、「分科会1:学校と地域で進めるESD」において、志賀高原ユネスコエコパークにおける地域資源を活かしたESD実践について紹介しました。グループ討議を行う分科会とはいえ、参加者はなんと70人超え。中澤先生(奈良教育大)の卓越したファシリテーション技術で、変形ワールドカフェ方式で互いの気づきを共有しました。参加者の中から出てきたポイントは、ユネスコエコパークの地域資源には、本物に触れる「原体験」がある、ということ。あまりに身近にありすぎて忘れがちだった地域の価値を、あらためて認識することができました。参加者は約230人と盛況でした。(水谷瑞希)

の価値を、あらためて認識することができました。参加者は約230人と盛況でした。(水谷瑞希)

## 12月2日 『「みんなの学校」から考える教育のカたち』が開催されました

信州大学教育学部で、長野ユネスコ協会青年部つながる主催で開催されました。第一部は、大阪市立大空小学校のドキュメンタリー映画「みんなの学校」が上映されました。子どもから高齢の方まで83名の参加がありました。映画終了後は、グラフィックレコーディングによって描かれた映画のあらすじに感想を書いた付箋を貼り、小グループになって映画から学び得たことを共有しました。第二部は、「みんなの学校」をきっかけに教育と未来のカたちについて考えるワークショップを行いました。グループでテーマを設けて語り合った後、ユネスコ学習権宣言と大空小学校の学校理念「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」との繋がりを、SDGs4を取り上げ2030年の教育の在り方についても思いをめぐらしました。最後は、ワークショップを通して考えたこれからの目標を一人ひとりが発表しました。第一部のみの参加者も多く、また新潟県や山梨県からの参加者もあり、映画「みんなの学校」に対する注目度の高さがうかがえました。映画を通して普段は関わることの少ない多様な人々が集い、共に教育の未来について考える場を作り出したことは、SDGs4の達成にも貢献し得た企画であったように思います。(安達仁美)



### ESDの現場から

グリーンウッドは、1986年に南信州の泰阜村で山村留学をはじめ、2001年にNPO法人化されました。山村留学は「暮らしの学校・いだらぼっち」として全国から約20名の子どもたちが集まりその共同生活は若者達によって運営される村では大きな組織でもあります。いだらぼっちでは人間の土台をつくるため地域に根ざした「暮らしから学ぶ ねっこ教育」を推進しています。ねっこ教育とは「環境破壊、食糧問題、戦争など今の地球規模での課題は山積みです(中略)今の子どもたちに本当に必要な力、それは、自らの力で人生を切り開く力であり、自分たちで社会をつくりあげる力です(中略)そのため人間の土台をつくる3つの根っこは何か?未来をつくる人になるために必要な3つの心、感じる心、楽しむ心、生み出す心」です。また、夏休みと春休みには「山賊キャンプ」として長期の野外活動を開催し、毎年多くの子どもたちや大学生スタッフが村の自然と暮らしを舞台に大きな学びを得ています。それは、村にとっては都市と山村との大きな交流事業でもあります。



こうした活動は地域の人々の意識も「やはりこの村がいい」と変え、学舎への日々の食糧の供給などで村の産業にも大きな影響を与え、山村留学生と交流した村の青年がリターンし始めているなど大きな変化をもたらしています。教育に地域の暮らしを取り入れることが、村の未来を創ることに繋がっていったのです。泰阜村では人づくりによって自立する「教育立村」をめざしています。地域創生力の事例として全国にも発信されておりESDの力の発現でもあります。(渡辺隆一)

### お知らせ

- 1月26日と2月2日に信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会が松本会場と長野会場で開催されます。ユネスコスクールや構成団体などの発表などが行われます。参加および発表の募集をおこなっています。発表希望者は事務局までご連絡ください。
  - ①<松本会場> 開催日:平成31年1月26日(土)11:00~15:15  
開催場所:午前 信州大学経済学部講義室(松本キャンパス)  
午後 信州大学理学部講義室(松本キャンパス)
  - ②<長野会場> 開催日:平成31年2月2日(土)11:00~15:00  
開催場所:信州大学教育学部図書館2階大講義室



## 信州ESD通信

No.21 2018.12.10

発行:信州ESDコンソーシアム事務局 編集:渡辺隆一  
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部  
事務局:白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoesd@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

# 信州ESD通信

No.22

2019.1.10

信州ESD  
コンソーシアム  
事務局

目次:成果発表&交流会 / ユネスコスクール全国大会

## 信州ESDコンソーシアムの成果発表&交流会が松本と長野の2会場で開催されます

松本会場ではESD先進地の愛知県の小中高校の各教員をお招きして報告をいただき、ワークショップも開催します。中农信からも参加しやすくなりましたので、ぜひ多数のご参加をお願いします。

### 1月26日(土) 11:00~15:15 松本キャンパス会場

午前:成果発表(5校・団体) 信州大学経済学部講義室

昼:ポスター展示&交流

午後:ワークショップ 信州大学理学部講義室

- ①地域素材を活用したふるさと学習 あま市立基目寺小学校
- ②総合的な学習の時間を中心とした環境学習 岡崎市立新香山中学校
- ③国際英語科の取り組みからホールスクールアプローチへ 名古屋市立名東高校

### 2月2日(土) 11:00~15:00 信州大学教育学部図書館2階大講義室

小中高校10校による成果発表&講師による講評

昼にポスター展示&交流



## 12月8日 ユネスコスクール全国大会に参加しました

横浜市立みなとみらい本町小学校において、第10回ユネスコスクール全国大会(主催:文部科学省・日本ユネスコ国内委員会)が開催されました。「未来はワタシたちを待っている ESDで育てる児童生徒、教師、そして学校、地域社会」をテーマに、多様なESD実践の成果が共有されました。今大会の注目ポイントは、ユネスコスクール出身者によるパネルディスカッション。地域を活性化したい、青年海外協力隊で海外のコミュニ



ニティに貢献したい、持続可能な社会の担い手をつくる教員になりたい…ユネスコスクールの学びがどれだけ素晴らしい人材を育むのかを、卒業生の「夢」が雄弁に物語っていました。参加者800名と盛況でした。信州ESDコンソーシアムでは一昨年、昨年に続き、今大会でもブース展示を行い、長野県におけるESDの普及活動を紹介しました。また文化学園長野中学・高等学校(長野市)と永明小学校(茅野市)の教育実践についてのポスター展示も行われました。(水谷瑞希)

- 信州からは教員など25名と多数が参加し、以下のような感想、成果が報告されています。

小学校 ▶ 特別対談では、「批判的思考力」と「感性」の両方を磨くことが大事だと感じさせられた。分科会では、「学校と地域をどうつなげるか」に参加し、「知る」「守る」「役立つ」というお話を聞いた。学校教育では知ることや守ることは教えたり、取り組んだりしているが、「役立つ」ところに繋げていくことはほとんどできていなかったと思う。子どもたちがまた地元に戻ってくるには、仕事があることも大事な要素であるこ

とがわかった。そういう視点ももって、持続可能な社会を構築していく一端を担いたい。パネルディスカッションでは、ユネスコスクールで学び、卒業した6人の女性が登場。「本気で傾聴して、一緒に取り組む大人がいたからこそ、育ってきた。」という言葉が印象に残った。「SDGsは教材として最適。遊び感覚でやればいい。難しい顔をせず、生活者として自分ができる範囲の中でできることを考える」「学ぶことは森羅万象おもしろいことだ」と、話された。その後のパネルディスカッションでユネスコスクール卒業生の話聞いて、まさにその通りであると学んだ。

中学校 ▶ 卒業生の取り組みや意識、卒業後の生き方を知ることで、本校の取り組みの意味づけや課題、次年度へにたくさんの示唆をいただいた。分科会では児童生徒たちが主体となってSDG'Sに取り組む姿からユネスコスクールのめざす子ども像を捉え直すことができた。分散会では、様々な企業や団体がESD・SDGsの教材作成に取り組んでおり、それらの教材をどのように活用していくのかを知ることができた。教材開発に取り組んでいる団体を通して学校間のつながりが生まれていることが興味深く、今後のESD学習の広がりを感じることができた。ユネスコスクールで大切にすることは、これからの日本の社会を築く人づくりであり、国際社会を築く人づくりであることがよくわかった。「ユネスコスクール」と構えるのではなく、人づくり、社会づくりであることを再確認できた。ユネスコスクールの小中高校で学んだ生徒が、自分の学びを振り返っていました。環境保全や地域学習を通して地域を愛する心情を高めていました。先生方が子どもの願いを大切に学習を計画していました。大変参考になりました。現在ある教育活動に「持続可能な開発目標(SDGs)」の視点を加えることができないかを検討していきたい。全職員の共通理解を図れる職員研修を実施していきたい。コンソーシアムには多くの小中高校との関係が作れる取組をお願いできるとありがたい。

高校 ▶ 地域に住んでいる外国籍の方の支援をいただくことにより、地域との交流が生まれると共に言葉の壁を越えやすくなる。できることをできる範囲で継続的に行う重要性。ACCUを含め、活動をサポートして下さる機関やその取り組み内容について、まずは教員側の知識を深め、自校に合った継続性のある取り組みを模索していきたい。SDGsの内容に関わるということを経験の中で意識させる。ESD推進委員会は、定期的に会議を行い議題がなくても話し合いの場を設けている、保護者や地域に対して、活動の様子をこまめに発信しているなど参考になった。本校の活動は、地域に積極的に関わってESD活動が行われているが、教育としての取り組みに欠けている。事前学習(なぜその活動が地域にあるのか・地域の課題は何か)実践活動(どのような目標で参加するか)・振り返り(自分が感じたことなど)まとめ発表 が系統だっでされていないので改善したい。コンソーシアムには、縦の繋がりから生徒や学生の視点で主体的且つ継続的に活動することができるシステム等があれば非常に有効であると感じました。高校での活動が将来にわたって活動できるよう、大学や企業に進路としてつなげていける仕組みづくり。

## 12月9日 ASPUnivNet 研修会に参加しました

JICA横浜において『ASPUnivNet 研修会: 高等教育機関におけるESDの現在、そして展望』が開催されました。「ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)」は、ユネスコスクールを支援する大学のネットワークで、信州大学教育学部も平成30年7月から加盟しています。今回の研修会では、日本の高等教育におけるESD(HESD)に焦点をあて、これに関わっている複数のネットワーク(ProSPERNET、日本ESD学会、HESD、CAS-Net)や大学等の取り組み(大阪ASPnet、近畿ESDコンソーシアム)が紹介されました。様々な主体がそれぞれ異なる得意分野で活動していることから、互いにうまく連携していくことが望ましいという議論がなされました。一方で、ESDに関わる主体や組織が次々とうまれるなど、ESDを巡る環境が大きく変化する中で、従来からあるネットワークや組織のあり様やミッションを再定義することも必要であるとの視点も提示されました。(水谷瑞希)



目次: 成果発表&交流会(松本)/お知らせ:環境保全協会創立20周年記念号

## 1月26日 成果発表&交流会(松本)が開催されました



信州ESDコンソーシアム3年目の今年は、中农信からも参加しやすいように信州大学松本キャンパスで開催しました。午前はユネスコスクールなど団体の発表、午後は愛知県の小中高校でのESD授業担当者をお招きしてのワークショップを開催しました。小雪が舞う寒い一日でしたが、熱い発表と温かな討論に終始しました。

● 茅野市立永明小学校 5年生の総合の時間の「世界の人々の笑顔のために」は難民問題を学んだ児童が自分たちに何ができるかを考え、話し合う中で「子ども服を届けよう、服のチカラ」プロジェクトを始めた報告でした。クラスの中で、学校で、保育園や幼稚園で、そしてスーパーなど地域にまで出て服の回収を訴えます、そして集まったのがなんと4200枚、大きな段ボール40箱にもなりました。達成感たっぷりの笑顔が印象的でした。



● いいづな学園グリーンヒルズ小学校 山間地のリンゴ園で全校で1年をと おしてリンゴの栽培に取り組んでいます。春の花摘みから夏の摘果、秋の収穫、そして販売の価格を考え



お店作り、冬の剪定まで、1年を通じた活動は様々な地域の人たちとの関りでもありました。特に低学年の子どもたちには大変な作業ですが上級生が様々な配慮をしてよりよいリンゴ園にするために頑張っている姿がよくわかりました。教員もこうした体験学習をESDとしてどのように深めてゆくのかを工夫し努力されていました。

● 附属松本中学校 「たくましく心豊かな地球市民」を標語としたユネスコスクールとして2年生8名による多彩な実践活動の発表でした。A組は地域貢献をかねて山雅を学習し川の清掃など実践もし最後にクラス全体での集大成にまとめました。B組は松本城をテーマに世界遺産にと様々な可能性を探る学習、実践をしました。C組は地域の魅力を発信するために「味噌」に注目し味噌作りを実践し、深める学習をしました。D組はピザ窯のCO<sub>2</sub>対策としてカーボンオフセットを考え、植林をする志賀高原のABMORIに参加しました。いずれの活動、学習もESDを考えながら進めてきたことが発表されていました。



● 信大環境学生委員会 信州大学には各地に環境学生委員会があり、今年は全国の環境学生委員会が集まる大会を上田で開催しました。東京の「えこぶろ2018」にも出展しました。各学部での学生委員会は通

年での古紙回収や水質調査などを実施し、子どもたちへの「電車を用いたゴミ分別ゲーム」を開発するなど大学生らしい様々な企画もおこなっていました。



● **ラオス国立大学** 長野に研修に来たラオス国立大学教育学部の教員2名による、ラオスでのエコヘルス教育の進捗状況の報告です。健康・環境・社会が密接に関連していることはESDやSDGsとも合致した内容であり、まず教員養成課程で教科書が作成され授業がおこなわれるので、これから全国の小中学校に展開されようとしています。健康面を強調したESDの制度の確立であると考えられます。ESDコンソーシアムもユネスコスクールも海外との連携を求められており、今回の交流は今後の展開が期待できます。



午前最後の目白大学の石田先生よりの各発表への講評があり、いずれも高い評価いただきました。

昼には会場を移してポスター展示室での交流がおこなわれました。ポスター発表：信州ESDコンソーシアム・信州環境カレッジ・イオン環境財団・みどりの市民・信州大学学生委員会・附属幼稚園・附属松本小学校・附属松本中学校・中野西高校。

午後は、愛知県のあま市立甚目寺小学校の「地域素材を活用したふるさと学習」、岡崎市立新香山中学校の「総合的な学習の時間を中心とした環境学習」、名古屋市立名東高校の「国際英語科の取り組みからホールスクールアプローチへ」の実践事例報告を聞いて、「学校でESDを推進するためのポイントは何か」をテーマにワークショップをおこなった。各学校の事例発表の後、4人1テーブルでグループ討論を5分ずつおこない、最後に質疑をした。「発表の高い実践を継続するうえで教員の力量をあげるにはどんな試みをおこなっているか」との質問があり、各校より「ESDカレンダーの毎年の見直しや学年会での教材研究、地域のNGOやユネスコ協会、大学など外部の支援により研究をおこなっている」などの回答があった。各発表での各自の感想ポストイットから全体まとめをおこない、子どもの育ちや地域貢献に役立つなどのラベリングが発表された。

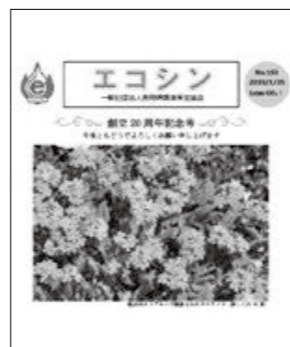


他県の事例を聞くだけでなく、多様な参加者同士が意見を交流することで信州全体でのESD普及の大きなステップが得られました。次週には、長野で成果発表&交流会が開催されます。

#### 長野県環境保全協会が創立20周年記念号を発行しました

##### お知らせ

協会が毎月発行している会報「エコシン193号」は創立20周年記念号でした。会長や県知事の挨拶のほか発足の経緯や継続事業である「信州エコ大賞20年」の特別寄稿、過去の受賞者一覧、協会20年の歩みなど、信州における永年の環境活動が概観できる貴重な資料となっています。また、本号には信州ESDコンソーシアムも参加した「ESD推進ネットワーク全国フォーラム2018」に協会がブース展示をした報告が掲載されるなど毎号様々な環境活動が掲載されています。



## 信州ESD通信

No.23 2019.2.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一  
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部  
事務局：白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

# 信州ESD通信

No. **24**  
2019.3.10

信州ESD  
コンソーシアム  
事務局

目次：信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会(長野)

## 2月2日 成果発表&交流会(長野)が開催されました



信州ESDコンソーシアム3年目の今年は、松本と長野の2会場で開催されました。ユネスコスクールは北信に多いため今回も発表と参加者は長野会場が多くなりました。2月はインフルエンザの流行もあり発表予定であった高山小学校から学級閉鎖で欠席との連絡などあり参加が心配されましたが、信州大学教育学部図書館二階講堂が一杯になるほどの219名の参加でした。児童生徒の発表の熱意と信州でのESDの進捗が感じられる盛会となりました。以下、発表等の概要です。

### 午前の部

○山ノ内町立東小学校：4年生10名が「だれもが関わりあえるように」と題して障がい者との共生について深めた学習を発表しました。地元の視覚障がいの方の話を聞いたり、点字を実際に書いてみたり、バリアフリーの施設を調べたりデイスサービスセンターの訪問をしたり、共生の実際を調べ体験し考え、行動していました。地域や未来につながる学びだと感じました。



○山ノ内町立南小学校：4年生9名で「大豆との生活：大豆のみよくを知って欲しい」の発表です。3年生から大豆を栽培し味噌づくりもしてきました。最初はスーパーに行き大豆が使われている食品の調査です。たくさんの食品カードを提示して大豆が含まれているか〇×クイズをしました。その包装紙を会場に回して意外にもチョコレートやヨーグルトにも含まれていることを説明すると会場からは驚きの声があがりました。大豆の栽培は実際には鳥や虫との闘いであり夏休みには台風対策も大変でした。味噌をつくり寝かす場所を変えてどこがおいしいか調べ会場にも回しました。石臼で黄な粉をつくり豆腐をつくるなど、地域と生活につながる貴重な体験学習でした。



○高山村立高山中学校：高山中では1年から3年まで「故郷 高山村と私」をテーマに総合学習に取り組んでおり、2年生5名での「ESDの取り組み」の発表です。1年では村を知るとして村の特産品である「ワインぶどう」について調べ村議会に政策提言をしました。学校林ではシイタケやナメコの栽培をし収穫祭に出品しました。2年では地元の「エコパークの自然を体験し知る」で事前学習をし実際に志賀高原や渋温泉を訪れ外国人が多いことなどを学びました。高山村役場の方を招き村の観光について考え提案をおこないました。地域を知る学習をとおして「地域の自然や人々のつながりの中で私たちは生活していることを知ったので、これからもこの学習を発展させたい」との言葉を聞いてESD学習の成果を実感しました。



○山ノ内中学校：1年生9名で「地域自慢の旅」として様々な地域学習を発表してくれました。地獄谷野猿公苑では様々な国からたくさんの外国人が来ていること、地元の食堂は意外な名物カレーがあり有名人が来ていたこと、大きな平和観音の歴史を学び原爆の火が灯され続けているなど足許に平和の祈りがあること、一茶の散歩道を歩いて句碑を探し句を味わうことで改めて地域の自然を感じ、自分の卒業した小学校の歴史が116年と永く佐久間象山とも繋がりがあることなど、各自で地域の学習を進めています。これらは2年での草津温泉への研修旅行でESDをさらに発展させる基礎につながっていることがわかりました。



これらの発表に対して、金沢大学の松本先生からは「いずれも1年をとおした学習で素晴らしい、そして各自がどう成長したかふり返ってみてほしい」と、大牟田市教委教育長の安田先生からは「ESDの要である3つの誇り、様々な人との出会い、ふれあい、学びあいが大切でありいづれの学習からもたくさん感じられました」との講評がありました。昼休みには講堂周囲に展示された12団体のポスター発表をみながら盛んな意見交換がおこなわれました。

#### 午後の部

○山ノ内町立西小学校：教員による1年生の生活科「しろといっしょに」の1年生20名がやぎを飼うことで様々な課題を乗り越えてきた実践報告です。やぎを飼うための準備としてお世話当番をきめ、小屋をつくり、草を用意し、毒のある草を与えないように全校放送をし、夏休みも交代で当番することを決め、柵をつくり、冬のエサ代のために銀杏を販売し、冬対策を話し合いするなど様々な課題を1年をとおしてクラス全体で乗り越える過程で、話し合いの大事さ協働することなどたくさんの深い学びを得てきたことがわかりました。

○長野市立東条小学校：3年生15名は「ふるさと東条の宝」の発表です。地区には二つの温泉があることに気づきその違いを調べました。それぞれを訪問して温泉の仕組みやお客さんの様子などを聞きました。松代温泉は大きくて泊まることもできる、加賀井温泉は88年も続いているなどからなぜ違いがあるのかの疑問、質問をみんなで考えました。前者は観光温泉で、後者は湯治のためなので洗剤がないことなどを知り、それぞれに大切な地域の宝であることを学びました。5年生5名は「未来に光を残すために」のホタル学習の発表です。学校では30年以上ホタルを守る活動を続けていてその経過を地区ごとにまとめ、その傾向から原因や対策を考え地域の人と共に河川清掃などを実施しました。まさに、地域とともにある実践活動です。



○信州大学附属長野小学校：4年生21名での給食の残食を「いっしょに考えましょう」の発表。毎日の残食は7.2Kgにもなり、命をとった残食の魚だって卵を産んだかもしれないのに焼かれて埋められている。川のごみだってこのままにはできないと河川清掃をし、どうすればごみが減らせるかみんなで調べて考えました。残食を減らそうの給食プロジェクトで新聞を作り全校配布をした。でも無理しては食べないでね声もあり、との報告でした。



○長野西高校：1年生5名での「長野市の活性化」の二つの提案です。1つは高齢化の進行に注目してその対策を考え託児所・児童館なら高齢者と高校生が協働でき「SDG sの8：働きがいと経済成長も」にも対応すると。若い世代を増加できるし高齢者も活躍でき活性化するのはと具体的かつ自身も関わる素敵な提案でした。2つは給食でのジビエの活用で「SDG sの9：産業と技術革新の基盤をつくる」にも対応すると。ジビエで健康にも林業振興にもなり、児童の森体験の学習にもつながるなど具体的な小さい一歩を提案していました。



○文化学園長野中学・高校：生徒11名で「小中高校生が未来を変える簡単な方法」を発表。未来と世界を動かすのは子どもたちであるとして市のリーダー研修などでの学びから①難民キャンプに「子どもに届けよう服のチカラプロジェクト」に参加、②髪の毛を失った子どものために「ヘアードネーション」を呼びかけ、③国際交際月間の「未来の大人会議」でつなぐをキーワードにESD国際交流プログラムを考えました。学校の枠を越えて社会や世界への熱い意欲が感じられました。



午後の発表には、三重大学の朴先生からは「世界を動かすエネルギーは子どもとSDG sと発信力であり、それらがみんなつながっていることが感じられた」、東京大学の及川先生からは「いづれの発表も地域を生かしている、体験的な学びになっている、そして地域が良くなり自分も向上しているというESDの両輪がうまくまわっていますね」との講評がありました。児童生徒、父兄、教員、コンソのメンバーなど多様な参加者がESDの実践を報告し、報告を聞いて交流する参加者も年々増加してきており、信州でのESDの進捗が実感できる盛会でした。来年度のより良い交流を期待して終了しました。(渡辺隆一)



信州ESD通信  
No.24 2019.3.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一  
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部  
事務局：白岩／大山 TEL026-238-4034 kyoeshd@shinshu-u.ac.jp

## 信州ESDコンソーシアム 成果報告書2018

令和元年8月

編集・発行 信州大学教育学部  
信州ESDコンソーシアム事務局  
〒380-8544 長野市西長野6-口  
TEL:026-238-4034  
E-mail:kyoesd@shinshu-u.ac.jp